

(案)

別添資料3



足立区

令和5年度(令和4年度事業実施分)

# 足立区教育委員会

の権限に属する事務の  
管理及び執行状況

# 点検・評価報告書

足立区教育委員会  
教育政策課  
(令和5年11月発行)

## 第1章 評価概要

・ はじめに	3
・ 評価サイクル	6
・ 自己評価について	7
・ 外部評価について	11

## 第2章 評価シート

・ 評価シートの見方	19
<b>施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援</b>	<b>22</b>
戦略1 豊かな心の育成	23
戦略2 健やかな体の育成	31
<b>施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み</b>	<b>46</b>
戦略1 教員の授業力向上 -「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-	47
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実	55
戦略3 就学前教育の推進	65
<b>施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実</b>	<b>70</b>
戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談	71
戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援	79
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進	91
戦略4 いじめの早期発見・早期対応	103
<b>施策4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実</b>	<b>108</b>
戦略1 安全で環境に優しい施設整備	109
戦略2 適正規模・適正配置	117
戦略3 学校運営支援	121
戦略4 就学環境の整備	129
<b>施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援</b>	<b>136</b>
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実	137
戦略2 家庭教育支援の充実	147
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援	153

# 第1章 評価概要

## はじめに

令和2年3月、足立区では、教育基本法に規定する「教育振興基本計画」として、「足立区教育振興ビジョン」を策定しました。

本計画では、区の教育行政として取り組むべき施策・事業について、毎年度のPDCAサイクルに基づく進行管理により、より効率的・効果的かつ着実な成果をめざすこととしています。

なお、評価初年度にあたる令和3年度は足立区教育振興ビジョンに示す全ての施策・事業の令和2年度実績を対象に、各所管の「自己評価」と点検・評価委員（外部有識者）による「外部評価」を行いました。

令和4年度からは点検・評価の位置付けをP4のとおり変更するとともに、より深い点検・評価が実施できるよう、表1のとおり各年度の評価対象を絞り、令和4年度から7年度までの4年間で全ての施策を2回評価していきます（※1）。

表1 点検・評価スケジュール

	R4	R5	R6	R7
施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援	○	○		
施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み		○	○	
施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実		○		○
施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	○	○		
施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援		○	○	

### 【令和5年度点検・評価】

計画最終年の前年となる令和5年度は、現計画（令和2年度～6年度）の改訂の検討素材とするため、1から5までの全ての施策を対象に評価を行いました。

これにともない、点検・評価委員を学校教育及び就学前教育の有識者に加え、不登校支援、特別支援教育分野の有識者を新たに委嘱しました。

※1 令和4、6及び7年度の評価対象外となった施策についても進捗管理のため、指標の達成度を算出することとします

## <位置付けの変更>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価することが義務付けられています。この点検及び評価の実施について、以下のとおり変更します。

### 1 令和3年度

#### (1) 教育委員会の点検及び評価(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条)

教育委員が当該年度のテーマ事業の視察後に実施する自己評価と、行政評価を代用した外部評価により実施

#### (2) 「足立区教育振興ビジョン」の点検・評価

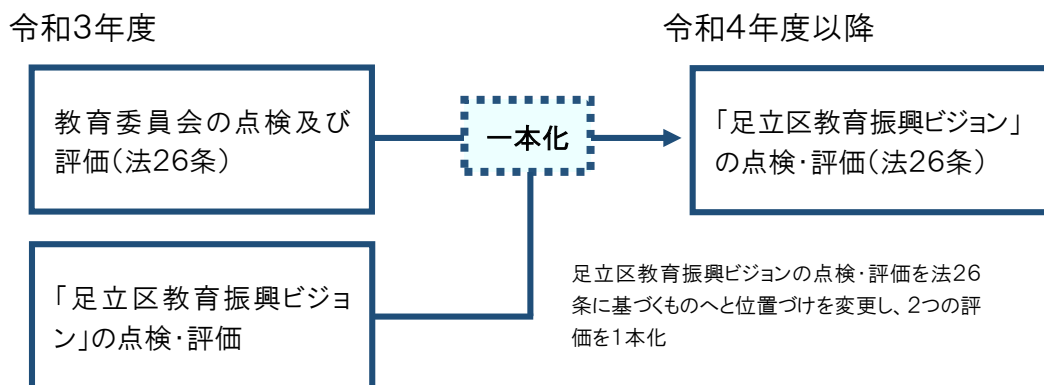
「足立区教育振興ビジョン」の策定に伴い、法律に基づく点検及び評価とは別に、計画に示す指標に基づき、前年度の実績を対象に評価を実施

### 2 令和4年度以降

以下の理由から、「足立区教育振興ビジョン」の点検・評価の位置づけを、法律に基づく「点検及び評価」へと変更し、上記2つの評価を1本化(図1)します。

- ① 「足立区教育振興ビジョンの点検・評価」は、教育に関する施策・事業の大半が対象となっている点など「点検及び評価」として十分に機能すること
- ② 外部有識者の知見を活用していること

図1 位置付け変更図



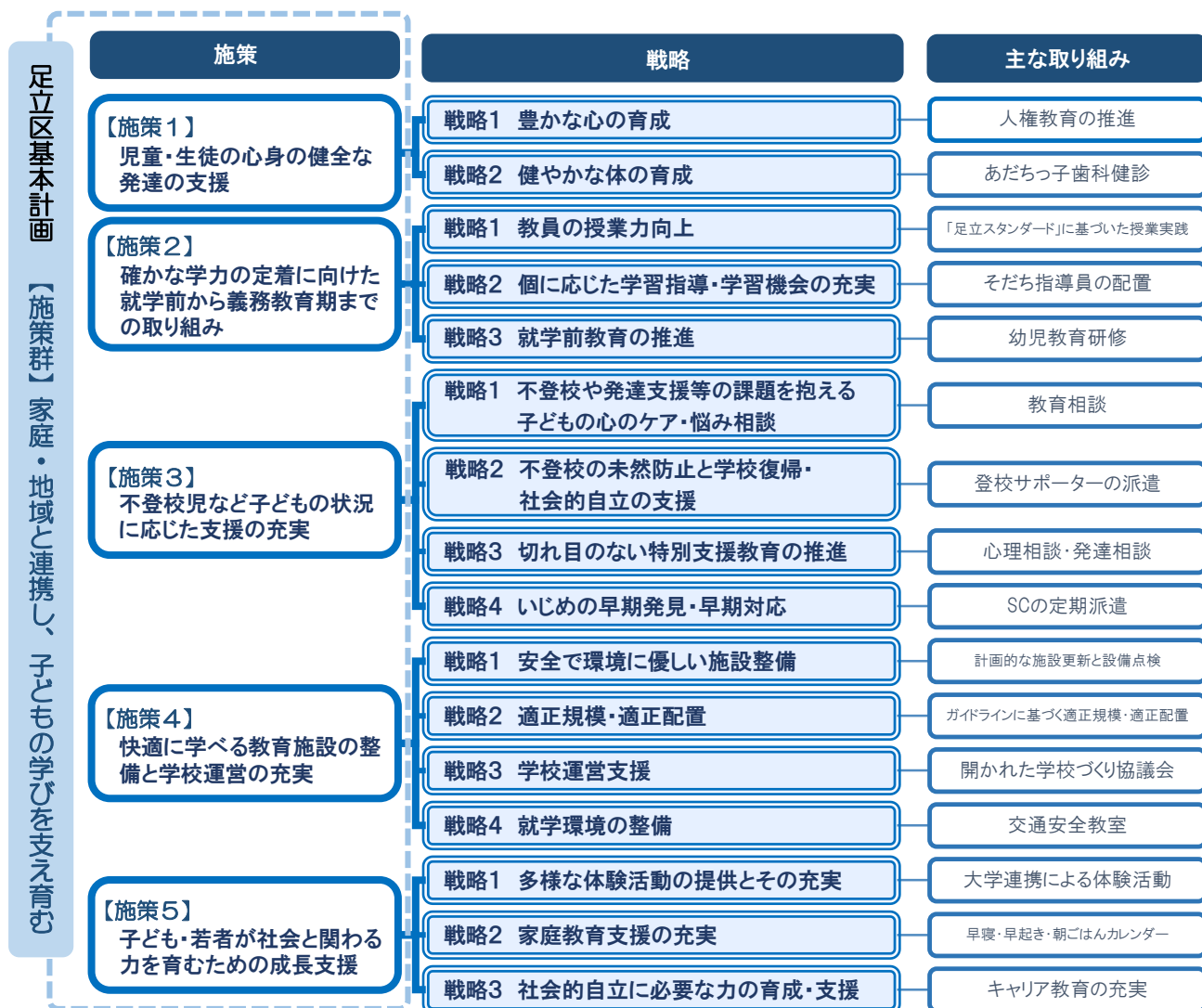
#### 【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## <足立区教育振興ビジョンの体系図>

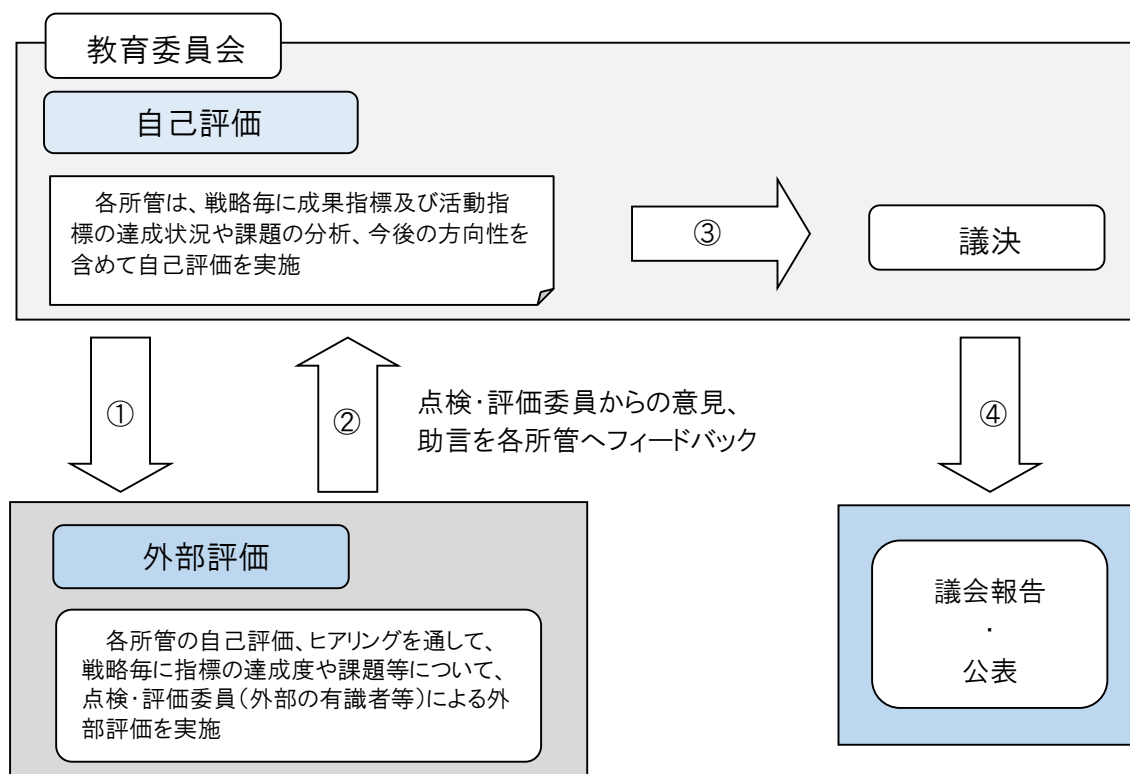
本計画は、「足立区基本計画」の分野別計画の一つで、施策群1「家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む」に分類されている5つの教育施策について、各施策を実現するための「戦略」と、戦略ごとの具体的な取り組みを示す構成で体系的に整理しました。



# 評価サイクル

各所管による①自己評価を実施後、外部有識者である点検・評価委員がこれを基に外部評価を実施します。これらを報告書としてとりまとめた後、各所管の来年度以降の予算編成や事業改善のために②フィードバックを行います。③その後、教育委員会の議決に付し、議決を得られた際は、④議会に結果を報告するとともに、区ホームページ上に公表します。

自己評価についての詳細はP7、外部評価についての詳細はP11をご覧ください



# 自己評価について

## 1 自己評価の流れ

各所管は戦略毎に、以下の流れで自己評価を行いました。

- (1) 指標の実績値や達成状況  
当該戦略の達成度を測る「成果指標」及び、戦略に沿った各事業の活動量・活動結果を測る「活動指標」の実績値や達成状況を算出しました。
- (2) 指標分析  
(1)を踏まえて、①実績値及び達成状況の結果②実績値、達成率へ至った要因の分析、③前年度の外部委員からの評価・助言を事業にどう反映させたかなどの視点から指標を分析しました。
- (3) 課題と今後の予定、方向性  
(2)を踏まえ、①前年度に生じた課題や目標達成への障害など、②今後、課題をどのように解決を図るか、そのための具体的な方法や手立てと、③今後の方向性を検討しました。
- (4) 自己評価(活動指標のみ)  
基準表1を参考に、(1)から(3)を踏まえ、A、B<sup>+</sup>、B、C、C<sup>-</sup>、D、Eの7段階評価を実施しました。なお、基準表( )内の達成率は目安となっています。

基準表1 自己評価基準表(各所管が自己評価をする際の目安として活用します)

A	B <sup>+</sup>	B	C	C <sup>-</sup>	D	E
目標を大きく上回った (達成率140%以上)	目標を上回った (達成率120%以上)	目標通り (達成率100%以上)	概ね目標通り (達成率90%以上)	目標を下回った (達成率70%以上)	目標を大きく下回った (達成率50%以上)	目標を著しく下回った (達成率50%未満)

## 2 自己評価結果

- (1) 結果概要
  - ア 令和4年度は、施策1から5に掲げる全ての指標のうち、達成率70%未満の成果指標は昨年度8%から2%へ、活動指標は20%から15%へと改善しました。15%の活動指標の内、その半数が新型コロナウイルス感染症の影響によるものでしたが、活動指標の達成率のみを見ると、新型コロナウイルス感染症の影響は受けつつも、回復基調が伺えました。
  - イ 各所管は当該年度の活動実績に対し、53%が「目標通り実施できた」のB評価以上と評価しており、令和3年度(※1)よりもB評価以上が10ポイント以上増加しました。
  - ウ 活動実績は自己評価「概ね目標通りできた(90%)」のC評価以上で75%となり、成果指標も達成率90%以上が79%と、全体的には目標通りの活動実績と成果をあげていました。

※1 令和4年度は施策1及び4を対象に評価を行ったため単純比較はできず、全施策を対象に評価を行った令和3年度で比較



- エ このように指標の達成状況からは全体として新型コロナウイルス感染症の影響も受けながらも回復基調にあることが伺えましたが、特に学校においては依然として影響が大きい状況でした。
- オ 例えば、各種行事を可能な範囲で再開するなど通常運営に徐々に移行する中、感染症対策は継続して行う必要があったことから、長時間労働となった教員が昨年度と比較し大きく増加しました。また、こうした中、児童・生徒の個々のつまずきの把握とその解消に向けた取組が十分に行えなかった可能性があり、中学生の学力状況(区学習状況調査における通過率)は前年度を下回ってはいるものの、長引くコロナ禍の影響を最小限に抑えている状況です。
- カ 児童・生徒の学校生活については、従前の状況に戻りつつありますが、コロナ禍におけるライフスタイルの変化などに上手く適応できない等の理由により、不登校児童・生徒数が大幅に増加するなど通常状態に戻すにあたっての課題が見受けられます。
- キ こうしたことから、基準年度である平成30年度の実績よりも良化した成果指標は6割程度(毎年度見直しをしているため、全ての指標に平成30年度の実績があるわけではありません)にとどまり、主に児童・生徒の意識調査を活用した指標を中心に実績値の落ち込みが見られます。

(2) 自己評価結果一覧

ア 令和5年度自己評価結果一覧表

P7の基準表1を参考に指標の実績値のほか、指標分析等を踏まえて所管の判断で行う自己評価をまとめたものです。

施策名・戦略名	活動指標数									計	ページ
	A	B+	B	C	C-	D	E	評価不能			
<b>【施策1】 児童・生徒の心身の健全な発達の支援</b>											
戦略1 豊かな心の育成	0(1)	0(0)	5(0)	0(1)	1(0)	0(2)	0(0)	0(0)	6(4)	23	
戦略2 健やかな体の育成	3(3)	1(0)	1(2)	5(3)	2(3)	2(1)	0(2)	0(0)	14(14)	31	
<b>【施策2】 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み</b>											
戦略1 教員の授業力向上	0(-)	0(-)	2(-)	3(-)	2(-)	0(-)	1(-)	1(-)	9(-)	47	
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実	0(-)	0(-)	4(-)	2(-)	3(-)	1(-)	1(-)	1(-)	12(-)	55	
戦略3 就学前教育の推進	0(-)	1(-)	2(-)	2(-)	0(-)	0(-)	0(-)	0(-)	5(-)	65	
<b>【施策3】 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実</b>											
戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談	0(-)	0(-)	5(-)	3(-)	0(-)	0(-)	0(-)	0(-)	8(-)	71	
戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援	2(-)	2(-)	3(-)	2(-)	0(-)	1(-)	0(-)	0(-)	10(-)	79	
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進	0(-)	1(-)	8(-)	3(-)	1(-)	0(-)	0(-)	1(-)	14(-)	79	
戦略4 いじめの早期発見・早期対応	1(-)	0(-)	3(-)	0(-)	0(-)	0(-)	0(-)	0(-)	4(-)	103	
<b>【施策4】 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実</b>											
戦略1 安全で環境に優しい施設整備	0(0)	0(0)	6(5)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	1(0)	7(6)	109	
戦略2 適正規模・適正配置	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	117	
戦略3 学校運営支援	0(1)	0(0)	4(4)	2(1)	1(0)	0(0)	1(1)	0(0)	8(7)	121	
戦略4 就学環境の整備	0(2)	0(0)	8(4)	3(2)	1(2)	0(0)	0(0)	0(0)	12(10)	129	
<b>【施策5】 子ども・若者が社会と関わる力を育成するための成長支援</b>											
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実	0(-)	0(-)	2(-)	5(-)	2(-)	1(-)	1(-)	0(-)	11(-)	137	
戦略2 家庭教育支援の充実	0(-)	2(-)	1(-)	0(-)	0(-)	2(-)	0(-)	0(-)	5(-)	147	
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援	0(-)	1(-)	2(1)	0(-)	2(-)	0(-)	2(-)	0(-)	7(-)	153	
<b>【集計】</b>											
活動指標数	6	8	57	30	15	7	6	4	133		
割合(%)	4.5	6.0	42.8	22.5	11.2	5.2	4.5	3.0	100		

表の見方

数値は活動指標数を示しています。

例えば、施策4の戦略4に掲載している活動指標(計12指標)の中で、自己評価をB評価としたものが8指標、Cが3指標、C-が1指標であったことを示しています。

( )内は昨年度の数値となっていますが、昨年度は施策1及び4のみの評価のため他は - となっています。

先進自治体への教員派遣など未実施のものは評価不能としております。

## イ 指標の達成状況一覧

成果指標および活動指標の達成率を示したものです。

こちらは新型コロナウイルス感染症の影響で測定不可となったもの等を除く施策1から施策5までの全ての指標の集計となっています。

達成率	活動指標		成果指標	
	156指標(151)	比率(%)	104指標(87)	比率(%)
50%未満	11(20)	7.0(13.2)	1(1)	0.9(1.1)
50%以上	12(10)	7.6(6.6)	1(6)	0.9(6.9)
70%以上	22(20)	14.1(13.2)	17(9)	16.3(10.3)
90%以上	32(24)	20.5(15.9)	45(28)	43.3(32.2)
100%以上	61(50)	39.1(33.1)	29(34)	27.8(39.1)
120%以上	6(18)	3.8(11.9)	5(5)	4.8(5.7)
140%以上	3(4)	1.9(2.6)	3(1)	2.8(1.1)
測定不可	9(5)	5.7(3.3)	3(3)	2.8(3.4)

( )内は昨年度の数値

## 表の見方

表の見方

- 1 成果指標・活動指標それぞれの令和4年度実績の目標値に対する達成率の分布を示しています。
- 2 成果指標と活動指標の関係ですが、複数の活動を行うことで、1つの成果につながるものもあるため、必ずしも対になっているわけではありません。
- 3 比率は、四捨五入しているため、その合計値は必ずしも100にはなりません。
- 4 令和5年度点検・評価では新型コロナウイルス感染症の影響等により、事業が実施できなかったなど、活動指標は9指標、成果指標は3指標が測定不可となりました。
- 5 指標の新規設定等により指標数は昨年度と今年度とで異なります。

# 外部評価について

## 1 外部評価の流れ

点検・評価委員は、以下の流れで指標の達成度や課題等について、戦略毎に外部評価を実施しました。

### 【令和5年度点検・評価委員】

＜学校教育分野＞ 横浜国立大学 石塚 等教授

＜就学前教育分野＞ 日本体育大学 齊藤 多江子教授

＜不登校施策、特別支援教育分野＞ 名古屋市立大学大学院 米川 和雄准教授

#### (1) 自己評価シートの確認とヒアリングの実施

点検・評価委員は、各所管が作成した自己評価シートを確認するとともに、疑問点の確認など、点検・評価に必要な情報を聞き出してもらうため、所管とのヒアリングを実施しました。

#### (2) 評価の実施

点検・評価委員は、(1)を踏まえ、以下のとおり評価を行いました。

ア P12の「基準表1 観点別評価基準表」に示す4つの評価観点から、施策・事業全体に対する意見・提言。

イ 4つの評価観点について、7段階の観点別評価を実施するとともに、P12の「基準表2 全体評価基準表」に基づき、AからEまでの7段階で全体評価を実施。(施策2、3及び5については、前年度評価対象外であったため、観点1「助言や今後の期待・要望への反映率」のみ評価対象外。したがって、全体評価も基準表2の( )内の基準での評価)。

ウ 全体評価を踏まえて、各自の専門領域の立場から、今後の施策・事業への期待や要望、専門的提言。

基準表1 観点別評価基準表

評点	評価観点			
	①助言や今後の期待・要望への反映率	②目標・成果の達成状況	③各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	④児童・生徒にとって真に効果的か
1	評価(助言)が全く反映されていない。 (反映率:0%程度)	多くの取組みに課題があり戦略の目標達成のための成果が出ていない。改善が必要である。		多くの取組みに課題があり、効果的でない。改善が必要である。
2	評価(助言)の反映が消極的である。 (反映率:20%程度)	いくつかの取組みにおいて課題があり、戦略の目標達成に向けた成果があまり出ていない。	各取組みが戦略の方向性に合致しておらず、手法の選択も抜本的に見直す必要がある。	いくつかの取組みにおいて課題があり、あまり効果的ではない。
3	評価(助言)を多少反映した。 (反映率:30%程度)	・いくつかの取組みにより戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 ・戦略の成果は出ているものの、多くの取組みに課題が見られる。	各取組みが戦略の方向性と合わない部分があり、手法の選択もやや課題がある。	いくつかの取組みにより、概ね効果的ではあるが、改善が必要である。
4	評価(助言)をある程度反映した。 (反映率:50%程度)	・いくつかの取組みにより戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 ・戦略の成果は出ているものの、課題が見られる。	各取組みが戦略の方向性に概ね適切であるが、手法の選択にやや課題がある。	いくつかの取組みにより、概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。
5	評価(助言)を積極的に反映した。 (反映率:70%程度)	優れた取組みがいくつかあり、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。	各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。	優れた取組みがいくつかあり、効果的である。
6	評価(助言)をより積極的に反映した。 (反映率:80%程度)	優れた取組みが多く、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。	各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため推進していく方がよい。	優れた取組みが多く、効果的である。
7	評価(助言)以上に反映した。 (反映率:100%以上)	優れた取組みが多く、戦略の目標達成に向け、十分な成果が出ている。	各取組みが戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため積極的に推進すべきである。	優れた取組みが多く、非常に効果的である。

基準表2 全体評価基準表【前年度評価対象外であった施策2、3及び5は( )内の基準で評価】

評定合計値	28～26 (21～20)	25～23 (19～17)	22～20 (16～14)	19～16 (13～12)	15～12 (11～9)	11～8 (8～6)	7～5 (5～4)
評価	A	B <sup>+</sup>	B	C	C <sup>-</sup>	D	E

## 2 外部評価結果

### (1) 結果概要

ア 全16戦略中、B<sup>+</sup>評価が最も高く3戦略、B評価が9戦略、C評価が4戦略と、C<sup>-</sup>評価以下の評価もありませんでした。

イ 全体評価B<sup>+</sup>を受けた中でも基準点が最も高かったのは施策3-戦略1「不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談」及び施策4-戦略1「安全で環境に優しい施設整備」でした。

#### 【評価されたポイント】

##### <施策3-戦略1「不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談」>

目標値を年々高めているのかかわらず、達成またはほぼ達成状況にあり、計画的な各取り組みの相互作用の結果によるものと評価されました。また、単純に登校＝解決だけを施課とせず、「改善」という、子どもの状況をより良くしていく項目が各機関の成果に定められているとし、意義あるものとして、観点2及び観点4で評価6を得ました。

##### <施策4-戦略1「安全で環境に優しい施設整備」>

他の工事の兼ね合いなどにより、計画の延期などがあったが、成果指標、活動指標ともほぼ目標値通り達成しており順調に進められていると評価されました。また、計画的な施設更新、空調やトイレの洋式化や環境に配慮した取組の順調な進捗は、子どもたちが快適で安心・安全な学習環境を目的としたものとして効果的であると、観点2、3及び4で評価6を得ました。

ウ 今回の評価で最も低いCの評価を得たのは、4戦略ありましたが、施策4-戦略3「学校運営支援」は昨年度に引き続き同評価となりました。

##### <施策4-戦略3「学校運営支援」>

働き方改革に係る成果指標が昨年度を下回った要因をコロナ感染症に求めているが、喫緊の課題であり、業務負担の軽減に向けた総合的な取り組みを進めて行かなければならないこと、中学校の学校図書館に係る成果指標は改善が見られるものの、目標値に達しておらず、図書館利活用の促進に向けて学校の理解を進めるべきとして、昨年度に引き続きC評価となりました。

エ 観点1「助言や今後の期待・要望への反映率」は6戦略(※2)中1戦略が「評価(助言)を積極的に反映した(80%)」の評価6、5戦略が「評価(助言)を積極的に反映した(70%)」の評価5でした。

コロナ禍の厳しい条件の下、手法を工夫した取組が見られた他、研修受講者の満足度に係る成果指標の追加など、助言が反映されていると評価されました。

※2 観点1「助言や今後の期待・要望への反映率」の評価対象戦略は令和4年度評価対象の施策1及び4にぶら下がる6戦略となる。

オ 観点2「目標・成果の達成状況」は12戦略が「成果が出ている」の評価5以上でした。

新型コロナウイルス感染症防止に伴う制約により目標値未達成となった指標や目標値の設定方法に課題があるために目標値未達となった指標があるものの、多くが概ね目標値を達成しており順調に進められていると評価されました。

カ 観点3「各取組みが戦略の方向性に沿ったものか」は13戦略で「方向性に合致しており、手法も概ね適切である」の評価5以上でした。

昨年度平均(※2)5.3点を下回ったものの平均5.2点と、概ね戦略の方向性に沿って実施されたと評価されました。施策3-戦略4「いじめの早期発見・早期対応」では、「人権感覚を醸成する」との方向性が、多様な人々が共生する地域社会の営みにおいても求められる感覚であり、重要な方向性であると評価されました。

施策4-戦略4「就学環境の整備」では、外国人児童・生徒の増加により日本語指導の充実が求められる中、日本語適応指導講師の派遣など先を見越した対応が行われているとして、いずれも評価6を得ました。

キ 観点4「児童・生徒にとって真に効果的か」は16戦略中6戦略が「さらなる努力が必要である」の評価4となりました。

観点4は平均4.8点と昨年度(※3)平均5.2点を下回りました。指標の達成率に課題があった戦略を中心に、取組みは概ね効果的であるが、さらなる改善が必要と評価されました。

※3 令和4年度は施策1及び施策4の計6戦略を評価

(2) 外部評価結果一覧

ア 令和5年度観点別評価及び全体評価一覧

施策名・戦略名	観点1 反映率	観点2 達成状況	観点3 方向性	観点4 効果的	全体	全体 (前年)	ページ
<b>【施策1】 児童・生徒の心身の健全な発達の支援</b>							
戦略1 豊かな心の育成	5 <sup>(5)</sup> /7	5 <sup>(4)</sup> /7	6 <sup>(6)</sup> /7	6 <sup>(5)</sup> /7	B	B	29
戦略2 健やかな体の育成	6 <sup>(5)</sup> /7	5 <sup>(4)</sup> /7	5 <sup>(5)</sup> /7	5 <sup>(5)</sup> /7	B	C	43
<b>【施策2】 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み</b>							
戦略1 教員の授業力向上	-(-) /7	4(-) /7	5(-) /7	4(-) /7	C	-	53
戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実	-(-) /7	4(-) /7	5(-) /7	4(-) /7	C	-	63
戦略3 就学前教育の推進	-(-) /7	5(-) /7	5(-) /7	4(-) /7	B	-	69
<b>【施策3】 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実</b>							
戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談	-(-) /7	6(-) /7	5(-) /7	6(-) /7	B+	-	77
戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援	-(-) /7	5(-) /7	4(-) /7	5(-) /7	B	-	89
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進	-(-) /7	6(-) /7	4(-) /7	4(-) /7	B	-	101
戦略4 いじめの早期発見・早期対応	-(-) /7	6(-) /7	6(-) /7	4(-) /7	B+	-	107
<b>【施策4】 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実</b>							
戦略1 安全で環境に優しい施設整備	5 <sup>(5)</sup> /7	6 <sup>(6)</sup> /7	6 <sup>(5)</sup> /7	6 <sup>(6)</sup> /7	B+	B	115
戦略2 適正規模・適正配置	5 <sup>(5)</sup> /7	5 <sup>(4)</sup> /7	6 <sup>(6)</sup> /7	5 <sup>(5)</sup> /7	B	B	119
戦略3 学校運営支援	4 <sup>(4)</sup> /7	4 <sup>(4)</sup> /7	5 <sup>(5)</sup> /7	5 <sup>(5)</sup> /7	C	C	127
戦略4 就学環境の整備	5 <sup>(5)</sup> /7	6 <sup>(6)</sup> /7	6 <sup>(5)</sup> /7	5 <sup>(5)</sup> /7	B	B	135
<b>【施策5】 子ども・若者が社会と関わる力を育成するための成長支援</b>							
戦略1 多様な体験活動の提供とその充実	-(-) /7	5(-) /7	5(-) /7	5(-) /7	B	-	145
戦略2 家庭教育支援の充実	-(-) /7	5(-) /7	5(-) /7	5(-) /7	B	-	151
戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援	-(-) /7	4(-) /7	5(-) /7	4(-) /7	C	-	159



## イ 全体評価及び各戦略の観点別評価集計表

## (ア)全体評価集計表(Aが最高評価)

評点	全体評価(戦略数)	割合(%)
A	0(0)	0(0)
B <sup>+</sup>	3(0)	18.8(0)
B	9(4)	56.3(67.7)
C	4(2)	25.0(33.3)
C <sup>-</sup>	0(0)	0(0)
D	0(0)	0(0)
E	0(0)	0(0)
合計	16(6)	100

( )内は昨年度の数値

## (イ)観点別評価集計表(7が最高評価)

評点	観点1(※4)		観点2(※4)		観点3(※4)		観点4(※4)		戦略数	割合(%)
	戦略数	割合(%)	戦略数	割合(%)	戦略数	割合(%)	戦略数	割合(%)		
1	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	/		0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
2	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
3	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(6)
4	1(1)	16.7(16.7)	4(4)	31.3(66.7)	2(0)	12.5(0)	6(0)	37.5(0)	13(5)	24.1(20.8)
5	4(5)	66.7(83.3)	7(0)	43.8(0)	9(4)	56.3(66.7)	7(5)	43.8(83.3)	27(14)	50.0(58.3)
6	1(0)	16.7(0)	5(2)	31.3(33.3)	5(2)	31.3(33.3)	3(1)	18.8(16.7)	14(5)	25.9(20.8)
7	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
平均点	5.0(4.8)		5.1(4.7)		5.2(5.3)		4.8(5.2)		5.0(5.0)	
戦略数	6(6)		16(6)		16(6)		16(6)			

( )内は昨年度の数値

令和5年度は全16戦略を評価しましたが、観点1は前年度評価を踏まえたものであり、昨年度は6戦略がその対象となったことから観点1のみ評価対象は6戦略となっております。

※4 観点1から観点4は以下のとおりです。

- ・ 観点1 助言・今後の期待への反映率
- ・ 観点2 目標・成果の達成状況
- ・ 観点3 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか
- ・ 観点4 児童・生徒にとって真に効果的か



## 第2章 評価シート

# 評価シートの見方

## 1 自己評価シート（各所管が作成）

### ■実績値と目標値の記載

各所管は当該年度の実績値と次年度の目標値を記載

ただし、令和2年度の目標値は既存の計画等で定めていた場合など一部を除き、令和6年度目標値を割り返した数値としている。

また、達成率は実績値/目標値(低減目標の場合は目標値/実績値)としている。

施策1	児童・生徒の心身の健全な発達の実現
戦略1	豊かな心の育成
施策1	児童・生徒の心身の健全な発達
戦略1	豊かな心の育成

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	年度						■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価				
				H30	R2	R3	R4	R5	R6							
成果1	教育指導課	「足立区学力定着に関する総合調査」で小学生及び中学生が「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	72	62	-	-	-	-	-	-				
				目標値	-	-	72.8	63.3	73.4	64	-	-			77	70
				達成率	-	-	-	-	0%	0%	-	-			-	0%
成果2	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	93	92.3	-	-	-	-	-	-				
				目標値	-	-	93.3	92.8	93.5	-	-	-			95	95
				達成率	-	-	-	-	0%	0%	-	-			-	0%
成果3	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「学校のまわりを守っている」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	86.3	93.3	-	-	-	-	-	-				
				目標値	-	-	86.9	93.6	87.2	93.7	-	-			90	95
				達成率	-	-	-	-	0%	0%	-	-			-	0%

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	年度						■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価		
				H30	R2	R3	R4	R5	R6					
活動1	教育指導課	教員対象の人権教育の研修会の参加小・中学校の割合【参加延べ人数】	人	実績値	100	96.3	-	-	-	-	-			1 C-
				目標値	-	100	97.2	-	-	-	100			
				達成率	-	96%	0%	-	-	-	0%			
				実績値	291	130	-	-	-	-			2 D	
				目標値	-	294	294	-	-	-	306			

### ■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)

各所管は、指標の実績値や達成率を踏まえて以下の視点から指標を分析

- ① 実績値及び進捗状況の結果
- ② 実績値・達成率へ至った要因の分析
- ③ 前年度の外部委員からの評価・助言を事業にどう反映させたかなど

### ■課題と今後の予定、方向性

各所管は「指標分析」を踏まえて以下の内容を記載

- ① 前年度に生じた課題や目標達成への障害など
- ② 今後、これらの課題をどのように解決を図るか、そのための具体的な方法や手立て
- ③ 今後の方向性(見通し)

### ■自己評価

各所管は活動指標のみ、実績値のほか、指標分析を踏まえ、7段階で評価を実施

A	B <sup>+</sup>	B	C	C <sup>-</sup>	D	E
目標を大きく上回った (達成率 140%以上)	目標を上回った (達成率 120%以上)	目標通り (達成率 100%以上)	概ね目標通り (達成率 90%以上)	目標を下回った (達成率 70%以上)	目標を大きく下回った (達成率 50%以上)	目標を著しく下回った (達成率 50%未満)

## 2 点検・評価シート（点検・評価委員が作成）

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
戦略1 健やかな体の育成

【点検・評価委員による評価】	
全体評価	今後の期待・要望

**■全体評価**

点検・評価委員は、所管の作成した評価シートと質問シートやヒアリングを通じて得られた情報に基づき、観点1から4までの4つの観点から施策・事業全体に係る意見や提言を記載。

**■今後の期待・要望**

点検・評価委員は、全体評価を踏まえて、各自の専門領域の立場から、今後の施策・事業への期待や要望、専門的提言を記載

全体評価レーダーチャート

【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か
5	3	5	5

**■全体評価レーダーチャート**

戦略の強みや弱みが分かるよう、外部評価をレーダーチャートで表記

**■全体評価(7段階)**

観点別点数の合計点を算出し、P12の表2を基準としてA、B<sup>+</sup>、B、C、C<sup>-</sup>、D、Eまでの7段階で全体評価を実施。

**■観点別評価**

観点1 助言・今後の期待への反映率  
 観点2 目標・成果の達成状況  
 観点3 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか  
 観点4 児童・生徒にとって真に効果的か

の4つの観点について、P12の「基準表1 観点別評価基準表」を基準に1から7までの7段階評価を実施。



## 施策 1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

戦略 1 豊かな心の育成·····	23
戦略 2 健やかな体の育成·····	31

第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略1 豊かな心の育成

施策1	児童・生徒の心身の健全な発達の支援	記入所属	教育指導課 学務課 青少年課 地域文化課
戦略1	豊かな心の育成		

戦略の達成度を測る成果指標

成果	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
成果1	1	教育指導課	「足立区学力定着に関する総合調査」で小学生及び中学生が「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	72	62	-	-	73.7	67.6	75.2	68.6	/	/	/	/
					目標値	-	-	72.8	63.3	73.4	64	74.7	65.9	75	68	77	70
					達成率	-	-	-	-	100%	106%	101%	104%	-	-	-	-
成果2	2	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	93	92.3	-	-	93.6	93.2	94.1	93.3	/	/	/	/
					目標値	-	-	93.3	92.8	93.5	93	94	93.6	94.5	94	95	95
					達成率	-	-	-	-	100%	100%	100%	100%	-	-	-	-
成果3	3	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「学校のきまりを守っている」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	86.3	93.3	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/
					目標値	-	-	86.9	93.6	87.2	93.7	87.6	93.8	88	94	90	95
					達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
成果4	4	教育指導課	研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	-	95.1	/	/	/	/		
					目標値	-	-	-	-	100	100	100					
					達成率	-	-	-	-	95%	-	-					



施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略1 豊かな心の育成

めざす方向性	人権教育を推進して人権尊重の意識の向上を図るとともに、道徳教育や様々な体験活動を通じて、基本的な生活習慣や規範意識を確実に身につける指導・支援を行います。 人間としての尊厳、自他の生命の尊重、倫理観などの道徳性を養い、法やルールを遵守する意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人の育成をめざします。
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
目標値を上回った要因として、各校の人権教育や道徳教育を核とした「豊かな心の育成」に向けた継続的な取組により、児童・生徒の自己肯定感が高まっていると考える。	【課題】 自己肯定感をより一層高めることのできる教育活動を推進。  【今後の予定・方向性】 引き続き、学校、就学前教育、保育施設と家庭、地域との連携・協働・協創を強め、人権教育や道徳教育、様々な体験活動を通して「豊かな心の育成」に努めていく。
新型コロナウイルス感染症対策の影響による、コミュニケーション能力の低下や児童・生徒相互の人間関係の希薄化等が社会的な課題となっている中でも、目標値を達成することができた。感染症対策による制限ある学校教育の中で、キャリア教育や道徳教育の充実を図ることができた成果であると考え。	【課題】 社会性、コミュニケーション能力の育成。  【今後の予定・方向性】 学校教育の中で、引き続き、教科横断的に児童・生徒の社会性に関わる資質・能力の向上に努めていく。
令和3年度の調査項目から削除されているため、実績値はない。しかし、「足立区学力定着に関する総合調査」の同様の問いについて、小学6年生88.5%、中学3年生94.3%と目標値を上回る結果となっている。	【課題】 児童・生徒のためになる学校のきまり・校則の推進。  【今後の予定・方向性】 引き続き、児童・生徒のためになる学校のきまり・校則等が各学校で設定されるよう、区立小中学校に働きかけていく。
目標値には達しなかったものの、教育指導課が開催している教員研修に延べ6,740名が参加し、延べ6,412名(95.1%)の教員が肯定的な回答をしている。	【課題】 学校や教員のニーズに応じた研修の実施。  【今後の予定・方向性】 研修内容の改善を図るとともに、集合形式とオンライン形式を使い分け、効率化を図る。

## 第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略1 豊かな心の育成

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動 1	教育指導課	教員対象の人権教育の研修会の参加小・中学校の割合 【参加延べ人数】	%	実績値	100	96.3	92.3	102		
				目標値	-	100	97.2	100	100	100
				達成率	-	96%	95%	102%	-	-
			人	実績値	291	130	96	105		
				目標値	-	294	294	103	102	102
				達成率	-	44%	33%	102%	-	-
活動 2	教育指導課	道徳教育研修会の実施回数	回	実績値	2	1	2	2		
				目標値	-	2	2	2	2	3
				達成率	-	50%	100%	100%	-	-
活動 3	教育指導課	道徳授業地区公開講座実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	7.7	33.7	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	8%	34%	100%	-	-

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略1 豊かな心の育成

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>人権教育の重要性についての学校の意識の高まりが継続しており、目標値に達することができた。</p>	<p>【課題】 区立小中学校のうち、1校、当日急遽欠席となり、一人も出席できなくなった学校があった。</p> <p>【今後の予定・方向性】 急な対応等で当日、教員が欠席した学校には、今後も研修資料等を学校に提供し、研修内容を広めていく。</p>	1	B
<p>計画通り年間2回の研修を実施した。区内全小中学校の道徳推進担当教員が各回1名ずつ参加した。</p>	<p>【課題】 学校の実態に即した研修の実施。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度は、区立小中学校の管理職や教員を講師として招聘し、より日常の授業に即した研修を実施していく。</p>	2	B
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各学校で実施方法を工夫しながら道徳授業地区公開講座を実施した。</p>	<p>【課題】 道徳科の授業のさらなる活性化と、学校・家庭・地域社会の連携。</p> <p>【今後の予定・方向性】 新型コロナウイルス感染症5類への移行後の、道徳授業地区公開講座を充実したものとしていく。</p>	3	B

## 第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援

戦略1 豊かな心の育成

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動 4	学務課	自然教室における各学校の体験活動数の合計(野菜の収穫、日光彫、田植え・稲刈り、笹団子づくり、磯の生物観察、文化遺産見学、ハイキング等)	回	実績値	905	205	525	1,072		
				目標値	-	905	905	905	905	905
				達成率	-	23%	58%	118%	-	-
活動 5	教育指導課	職場体験を実施している中学校の割合(令和4年度新規追加指標) 【再掲】	%	実績値	100	-	2.9	45.7		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	-	3%	46%	-	-
活動 6	青少年課	区内の小・中学校及びこども園を訪問し、音楽教育支援活動としての音楽鑑賞会及びワークショップ、音楽科授業の指導補助、部活動の指導補助などの開催校となった「こども園」・「小学校」・「中学校」の割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	40		
				目標値	-	-	-	52	52	53
				達成率	-	-	-	77%	-	-
活動 7	地域文化課	芸術鑑賞体験事業へ参加した小学校の割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	100		
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	100%	-	-

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略1 豊かな心の育成

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>令和4年度は、全ての小・中学校が2泊3日で自然教室を実施したこと、中学校の魚沼自然教室において、実施学年を元の1年生に戻すため2学年が実施したことに伴い、目標値を上回った。</p> <p>鋸南自然教室では、環境政策課との協働により海洋学習プログラムを提供し、13校が体験した。魚沼自然教室では、魚沼市の中学校との交流活動や、地元の方を講師に招いたSDGsの勉強会など各校が工夫をこらした体験活動を実施することができた。</p>	<p>【課題】                      学校がプログラムを選んで決定する仕組みのため、多様なプログラムを用意するとともに、多くの学校に参加してもらえるよう働きかけが必要となる。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      関係機関と連携し、子ども達に豊かな体験活動の場を提供できるよう工夫する。</p>	4	B
<p>令和4年度は目標値を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、約半数の中学校が職場体験を実施することができた。学校の規模や、受け入れ先の都合により、職場体験を実施することができなかった学校については、代替策としてキッズニア訪問や出前授業等を実施した。</p>	<p>【課題】                      新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、職場体験の実施日を縮小しなければならない学校があった。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      令和5年度は区内全中学校が職場体験を実施する予定である。足立区役所内でも受け入れが可能な所管の確認を行い、中学校に周知していく。</p>	5	E
<p>目標値を下回ったが、対面による演奏会や部活動指導に加え、コロナ禍の対応として授業や部活動に活用できる映像コンテンツ(DVD)を作成し、希望校に配付した。</p> <p>また、児童生徒が東京藝術大学による専門性の高い演奏や部活動指導が受けられる事業であり、子どもたちだけでなく、教育現場からも好評を得ている。</p>	<p>【課題】                      本事業の効果が届いていない、参加を見送っていると思われる学校に対して、働きかけが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      部活動指導や演奏会の成果をホームページ等で紹介するなど広く事業を周知することで、実績を伸ばしていく。</p>	6	C-
<p>学級閉鎖等なく、全ての区立小学校が参加することができた。参加した児童へ実施したアンケートでは、「自分もチャレンジしてみようと思った」「ミュージカルを目指したいと思った」等のコメントが寄せられ、児童の豊かな心の育成に大きく寄与した。</p>	<p>【課題】                      コロナ禍により文化芸術に触れる機会が減少している小学生の豊かな心を育むため、良質な文化芸術鑑賞事業を継続して提供していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      事業の継続を望む声も多くあり、引き続き全ての区立小学校の参加を維持できるよう、学校への周知や説明等に努めていく。</p>	7	B

第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略1 豊かな心の育成

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【助言・今後の期待への反映率】</b>                      評価(助言)を積極的に反映した。(反映率70%程度)                      研修会、公開講座等について感染防止に努めながら、実施方法等の工夫が見られた。                      成果指標4に参加者の満足度の指標が取り入れられた。</p> <p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      優れた取組がいくつかあり、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。                      成果指標は指標4を除き目標値を上回った。指標4も目標値を下回ったものの達成率95%を超え、参加者にとって有意義な研修会になったと捉えることができる。                      活動指標は令和3年度に目標値を大きく下回った指標1、3及び5について達成率100%を超える等の成果をあげている。                      一方、活動指標5は目標値を大きく下回ったものの職場体験の受け入れ先の都合等によるものであり、やむを得ないものと考えられる。                      また活動指標6は目標値を下回っており、周知方法等の工夫が求められる。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため推進していく方がよい。                      人権教育や道徳教育の研修会及び自然教室・職場体験・芸術鑑賞などの体験活動については、教師の指導力向上及び子どもたちの豊かな体験の保障の両面から、子どもたちの豊かな心の育成に資する取組を展開するものであり、戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      優れた取組が多く、効果的である。                      各取組は戦略の方向性に合致していること、多くの成果指標及び行動指標が目標値を上回っていることなどから、子どもたちにとって効果的に機能していると評価できる。</p>	<p>指標の多くが目標値を上回るとともに、前年度から大きく達成率を改善した指標もあるなど、取組の成果があがっている。                      コロナ禍が要因として目標値を下回ったと考えられる指標については、コロナが収束の方向にある中、令和5年度の方針を明確にし取組を進めてもらいたい。</p>								
	全体評価レーダーチャート								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	5	6	6
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	5	6	6						



第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

施策1	児童・生徒の心身の健全な発達の支援	記入所属	教育指導課 学務課 おいしい給食担当課 子ども政策課 子ども施設指導・支援課 子ども施設運営課
戦略2	健やかな体の育成		

戦略の達成度を測る成果指標

成果	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6				
					小1	中6	中2	小1	中6	中2	小1	中6	中2	小1	中6	中2	小1	中6	中2
成果1	1	教育指導課	研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	-	95.1								
					目標値	-	-	-	-	-	100	100	100						
					達成率	-	-	-	-	-	95%	-	-						
成果2	2	学務課	小・中学生の適正体重割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	94.6	83.6	83.6	94.1	81.8	83.8						
					目標値	-	-	-	-	-	94.4	83.4	85.1	95	83	85	95.5	84.6	86.8
					達成率	-	-	-	-	-	100%	98%	98%	-	-	-	-	-	-
成果3	3	学務課	小児生活習慣病予防健診結果における管理不要率(中学2年生) ※令和4年度点検及び評価より男女別に変更した。	%	実績値	77	74.9	78.8	67	78.1	68.9								
					目標値	-	77.3	80.2	70.7	80.8	71.4	80	72	82.1	72.8				
					達成率	-	97%	98%	95%	97%	96%	-	-	-	-				
成果4	4	子ども政策課	むし歯のある就学前児童(年長児)の割合 *低減目標	%	実績値	33.1	29.3	23.9	22.7										
					目標値	-	32.3	29	28	28	28								
					達成率	-	110%	121%	123%	-	-								



施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
戦略2 健やかな体の育成

めざす方向性	<p>足立区の子どもの健康状態については改善傾向が見られるものの、むし歯被患率や小児生活習慣病の有所見者率は依然として高く、一層の改善に向けた取り組みが必要です。今後は、保健教育の一層の充実を通じて、児童・生徒が身近な生活における健康に関する知識を身につけることや、必要な情報を収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、健康な生活を実践する力を育成していきます。</p> <p>幼い頃から楽しく体を動かす体験や様々な動きを経験することにより、生涯にわたって積極的に運動・スポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育みます。加えて、運動を通じて体力の向上を図るとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣を形成する取り組みを積極的に進めます。</p>
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>目標値に達しなかったものの、教育指導課が開催している教員研修に延べ6,740名が参加し、延べ6,412名(95.1%)の教員が肯定的な回答をしている。</p>	<p>【課題】 学校や教員のニーズに応じた研修の実施。</p> <p>【今後の予定・方向性】 研修内容の改善を図るとともに、集合形式とオンライン形式を使い分け、効率化を図る。</p>
<p>令和4年度より新規追加している指標である。 どの学年も目標値より実績値が下回る結果となった。令和3年度実績と比較すると、小6が2ポイント減少しているが、コロナ禍による活動制限の影響もあり、運動不足、スクリーンタイムの増加、生活リズムの乱れなどの様々な要因が考えられる。</p>	<p>【課題】 年々、肥満傾向の子どもが増加している。生活習慣が乱れる生活環境が大きく影響していると考えられるが、一方で家庭生活も含めた肥満指導の難しさもある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 子どものうちから健康な生活習慣が身につけられるよう、学校での指導や保護者への啓発を充実させていく。貧血・小児生活習慣病予防健診の小学生へのモデル実施を進めていく。</p>
<p>令和4年度の実績は、男子はほぼ横ばい、女子は約2ポイント増加したが、目標値は下回っている。また、健診結果からは、肥満や血清脂質の項目で所見が見られる生徒が多かった。思春期のホルモンが脂質に影響することも考えられるが、朝食欠食や運動不足、スクリーンタイム増加等の生活習慣の影響も大きいと考えられる。</p>	<p>【課題】 近年、生活習慣の乱れ等からの肥満傾向や有所見の子どもが増加傾向にある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き、学校保健行動計画に基づいた健康な生活習慣の取り組みを促すとともに、学校での保健指導や、事後講演会・個別相談等を充実させていく。</p>
<p>あだちっ子歯科健診やその他の取り組みの成果として、むし歯のある子どもの割合は減少した。</p>	<p>【課題】 年長児でむし歯がないよう、おやつを食べ方や歯みがき等、低年齢からの取り組みが必要となっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 データ分析からハイリスク園を検討し、施設での取り組みが効果的になるよう歯科衛生士が支援をしたり、家庭に向けた啓発をしていく。</p>

## 第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

### 戦略の達成度を測る成果指標

成果	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
5		学務課	むし歯のある児童・生徒の割合 *低減目標	%	実績値	43	33	38.7	30.9	38	30.8	36.1	29.5	/	/	/	/
					目標値	-	-	41.8	32.7	38.7	30.9	38	30.8	33	29	36	31
					達成率	-	-	108%	106%	102%	100%	105%	104%	-	-	-	-
6		学務課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「朝と夜、歯みがきをしていますか」に「朝と夜している」と回答した割合【学務課】（令和3年度新規追加指標）	%	実績値	-	-	-	-	76.1	86.6	76.2	85.2	/	/	/	/
					目標値	-	-	-	-	75	86	76.1	86.6	76.2	85.2	77	87
					達成率	-	-	-	-	101%	101%	100%	98%	-	-	-	-

### 成果指標を達成するための活動指標

活動	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6	
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
1		教育指導課	養護教諭対象の研修会参加の小・中学校の割合	%	実績値	77.9		83.7		85.5		0	/	/		
					目標値	-		81.6		87.8		91.5		91.5		100
					達成率	-		103%		97%		-		-		-
2		学務課	貧血・小児生活習慣病予防健診受診率(中2)	%	実績値	89.5		86.6		85.8		81.3	/	/		
					目標値	-		90.1		90.1		90.1		90		93
					達成率	-		96%		95%		90%		-		-

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
小学校、中学校ともに、むし歯のある児童・生徒は年々減少してきており、令和4年度も目標値を達成することができた。	【課題】 むし歯のある子どもの割合は年々減少傾向にあるものの、足立区は東京都平均を上回っている状態が続いている。  【今後の予定・方向性】 引き続き、学校歯科医や養護教諭、衛生部等関係部署と連携し、歯科保健の取組みを継続していく。
小学生は目標値を達成できたものの、中学生は1.4ポイント減少した。また、学年が上がるにつれて実績値も高くなっている。	【課題】 コロナ禍による生活習慣の乱れや学校での取組みや働きかけが減少した状態が続いている。  【今後の予定・方向性】 学校歯科医や養護教諭、衛生部等と連携し、引き続き、子どもたちが朝と夜に習慣的に歯みがきできるよう、発達段階に合わせた歯みがき習慣定着の取組みを学校ごとに実施していく。

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
令和4年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う対応のため、養護教諭対象の研修会を中止とした。	【課題】 養護教諭対象の研修会参加率の向上、養護教諭のニーズに合った最新の情報の提供。  【今後の予定・方向性】 集合による研修だけでなく、オンライン研修やオンデマンド配信など、多様な方法で研修を行っていく。	1	C
令和4年度の受診率は、前年度より低下し、目標値を下回る結果となった。主な要因として、該当の学年は長期欠席者が多い学年であったことや健診日が定期試験等の学校行事と重なったこと、及び感染や採血への不安等が考えられる。	【課題】 受診しやすい健診日程の調整を図る。また、受診の必要性等について、丁寧な説明が必要である。  【今後の予定・方向性】 指導用パンフレットや案内等を充実させ、健診の必要性等が十分に伝わるよう、学校での事前説明を促していく。	2	C

第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6								
				小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中							
活動3	子ども政策課	年少児から給食後の歯みがき(毎日)に取り組む園の数	園	実績値	132		42		34		39		/		/							
				目標値	-		145		145		70						130		210			
				達成率	-		29%		23%		56%						-		-			
活動4	学務課	給食後の歯みがき(全学年・毎日)を実施する小・中学校の割合	%	実績値	67	11	14.7	5.9	11.6	8.6	13.2	8.6	/		/		/					
				目標値	-	-	72.5	17.5	72.5	17.5	20	12							20	12	100	50
				達成率	-	-	20%	34%	16%	49%	66%	72%							-	-	-	-
活動5	学務課	歯科健診でむし歯があった児童・生徒のうち、医療機関を受診した子どもの割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	56.4	26.3	55.9	27.7	/		/		/					
				目標値	-	-	-	-	50	28	58	28							58	30	61	36
				達成率	-	-	-	-	113%	94%	96%	99%							-	-	-	-

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>前年度と比較すると微増はしたものの、飛沫防止対策をしながら給食後の歯みがきを再開することは難しかったようで、目標を大きく下回った(歯みがき再開が難しい施設や年齢にはうがい推奨し、むし歯予防に努めた)。</p>	<p>【課題】            コロナ禍に歯みがきを中止した影響で、施設職員のスキルが低下し、再開するにあたり支援を必要としている園がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】            子ども家庭部歯科衛生士が園長会や施設訪問をとおして、感染症対策をとりながら安全に年少からの給食後の歯みがき実施ができるよう、啓発・支援していく。</p>	3	D
<p>給食後の歯みがきを実施している学校は、小学校でやや増加し、中学校は横ばいであった。コロナ禍により、感染対策として実施を中止している学校が多いが、代わりとして、うがいのみの実施や家庭での歯みがき促しを強化する等の取組みが行われている。</p>	<p>【課題】            学校の状況によって歯磨き実施よりも感染対策を優先せざるを得ない場合がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】            引き続き、歯磨き実施校の工夫内容等や各校の実施状況を他校へも共有し、実施率の向上を図っていく。</p>	4	C
<p>小学校は前年より割合が低下したが、中学校は前年よりやや改善した。感染不安等のため、歯科受診を控えている家庭が多い現状が続いていると考えられる。</p>	<p>【課題】            コロナ禍における感染不安により、受診を控えていた家庭が多かったと考えられる。</p> <p>【今後の予定・方向性】            引き続き、学校を通じて、子どもたちと保護者へ歯科保健の啓発を行い、むし歯があった児童・生徒への歯科受診勧奨を行っていく。</p>	5	C

## 第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

### 戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				中2	小6	中2	小6	中2	小6	中2	小6	中2	小6	中2	小6	
成果 7	おいしい給食担当課	ごはん、みそ汁、目玉焼き程度の料理を自分で作ることができる子どもの割合(中学2年生) ※小学6年生は、ごはん、みそ汁を自分で作ることができる割合	%	実績値	75	78	70	62	70	61	70	67				
				目標値	-	80	79.2	81.7	90	90	90	90	90	90	100	100
				達成率	-	98%	88%	76%	78%	68%	78%	74%	-	-	-	-
成果 8	おいしい給食担当課	給食のときに自ら一番はじめに野菜を食べる割合	%	実績値	56	57	59	62	60	59	63	66				
				目標値	-	70	63.3	64.2	70	70	70	70	70	70	100	100
				達成率	-	81%	93%	97%	86%	84%	90%	94%	-	-	-	-

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				園	小中	園	小中	園	小中	園	小中	園	小中	園	小中	
活動 6	【園】 子ども施設 指導・支援 課  【小中】 おいしい給 食担当課	「ひと口目は野菜から」の取り組みを実施した就学前教育・保育施設数及び小・中学校数  ※ 平成30年度 就学前教育・保育施設 142園 小・中学校 104校  ※ 令和6年度 就学前教育・保育施設 222園 小・中学校 102校	園・校	実績値	106	97	156	80	167	95	174	91				
				目標値	-	-	120	104	168	104	170	103	180	102	190	102
				達成率	-	-	130%	77%	99%	91%	102%	88%	-	-	-	-
活動 7	おいしい給食担当課	「給食メニューコンクール」応募作品数	作品	実績値	7,072	4,884	7,214	7,221								
				目標値	-	7,100	7,100	7,300	7,300	7,500						
				達成率	-	69%	102%	99%	-	-						
活動 8	おいしい給食担当課	長期休み期間に「わが家のシェフになろう！」で子どもたちが実際に調理した食数	食	実績値	7,373	8,602	7,532	6,317								
				目標値	-	9,818	9,780	9,524	9,352	9,900						
				達成率	-	88%	77%	66%	-	-						

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>目標を下回ったが、小学校6年生については前年度より6ポイント増加した。新型コロナウイルス感染症拡大防止策など、多くの制約により食に関する学習や体験の機会が減少していることが原因として考えられる。</p>	<p>【課題】                      学校現場や家庭内における子どもたちの食への関心、意識を低下させることなく維持、向上を図っていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      庁内を含め、食材生産者、民間団体などから寄贈された食育に関する動画や資料等を有効に活用し、家庭も含めた啓発を継続していく。</p>
<p>給食の時に自ら一番はじめに野菜を食べる子どもの割合は、目標を達成することができなかったが、学校で継続している日々の野菜摂取啓発などにより令和3年度を上回ることができたと考えられる。</p>	<p>【課題】                      学校現場や家庭内における子どもたちの食への関心、意識を低下させることなく維持、向上を図っていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      庁内を含め、食材生産者、民間団体などから寄贈された食育に関する動画や資料等を有効に活用し、家庭も含めた啓発を継続していく。</p>

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>栄養士が各園の巡回訪問時に実施方法などの具体的な支援をしたことで、実施施設が増加し、目標値を達成した。</p>	<p>【課題】                      私立幼稚園・認定こども園での実施が少ない。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      私立幼稚園・認定こども園への支援を強化する。</p>	6a	B
<p>目標値を下回った。新型コロナウイルス感染症防止徹底などにより実施した学校が令和3年度から若干減少した。</p>	<p>【課題】                      取り組みなかった学校への働きかけが必要。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      引き続き、「ひと口目は野菜から」のさらなる定着を目指していく。</p>	6b	C-
<p>目標値を下回ったが、昨年度よりも若干応募数が増え、過去最高の実績となった。</p>	<p>【課題】                      夏休みの課題として取り組んでいない学校への働きかけが必要。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      今年度においても、各学校へ「給食メニューコンクール」の実施について依頼し子どもたちの食の意識を向上させる。</p>	7	C
<p>目標値を下回った。家庭科授業実施後、夏休み期間中に取り組むものであるが、令和3年度よりも取り組んだ生徒数が減少した。</p>	<p>【課題】                      家庭内における子どもたちの食への関心、意識を低下させることなく、向上を図っていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      今年度においても、「わが家のシェフになろう！」を通じて、家庭内での食への意識向上を図る。</p>	8	D

## 第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

### 戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	小5	中2	
成果 9	教育指導課	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	93.3	86.6	-	-	62.5	57.2	92.7	87.6	/	/	/	/
				目標値	-	-	93.4	87	93.5	87.2	93.6	87.8	93.7	88.4	94	89
				達成率	-	-	-	-	67%	66%	99%	100%	-	-	-	-
				実績値	87.8	77.8	-	-	50.1	41.5	85.8	77.2	/	/	/	/
				目標値	-	-	87.8	78	87.9	78.1	87.9	78.3	87.9	78.5	88	79
				達成率	-	-	-	-	57%	53%	98%	99%	-	-	-	-
成果 10	教育指導課	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力調査のボール投げの平均値	m	実績値	20.6	19.8	-	-	19.1	19.4	19.4	19.3	/	/	/	/
				目標値	-	-	20.9	20	21.1	20.1	21.3	20.3	21.5	20.3	22.5	21
				達成率	-	-	-	-	91%	97%	91%	95%	-	-	-	-
				実績値	13	11.9	-	-	12.7	12	12.4	11.6	/	/	/	/
				目標値	-	-	13.2	12.1	13.3	12.2	13.5	12.4	13.5	12.4	14	13
				達成率	-	-	-	-	95%	98%	92%	94%	-	-	-	-
成果 11	教育指導課	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「運動やスポーツをどのくらいしていますか(学校の体育の授業は除く)」に「週1日以上運動している」と回答した割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	78.7	72	82.7	77.6	/	/	/	/
				目標値	-	-	-	-	81.6	71.6	82.4	72.7	83.6	74.6	84.6	74.6
				達成率	-	-	-	-	96%	101%	100%	107%	-	-	-	-

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動 9	教育指導課	体力向上推進計画実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	/	/
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動 10	教育指導課	オリンピック・パラリンピックに関連した取り組みを実施した小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	/	/
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-



施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	
<p>「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」の質問項目に対して、「好き」「やや好き」と回答した児童・生徒の割合が目標値にほぼ達した。長なわ・短なわチャレンジ実施校が大幅に増える等、学校や各家庭において、運動する機会が戻ってきているためと考える。</p>	<p>【課題】 児童・生徒が運動やスポーツをすることが好きになるような取組を各学校で進めていけるよう、教育活動の充実につなげていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 体育科・保健体育科授業力向上研修や、体育健康教育推進校の取組の周知を行い、各学校の体育の授業の取組の充実を図る。</p>	
<p>目標値に届かなかった。体力調査は、令和4年度6月に実施しているため、令和3年度のコロナ禍による運動不足が原因として考えられる。</p>	<p>【課題】 「投力向上」のみだけでなく、総合的な体力向上に向けた取組の実施。</p> <p>【今後の予定・方向性】 運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒を増やすとともに、運動やスポーツに触れる機会を増やすことで、ボール投げを含む総合的な体力向上に向けて取組を実施する。</p>	
<p>目標値を達成することができた。コロナ禍において、学校や各家庭においてできることが定着してきていることが考えられる。また、コロナ禍が明けて、運動に取り組む機会が戻ってきているためと考える。</p>	<p>【課題】 各校の「体力向上推進計画」に基づき、体育科・保健体育科の授業のみならず、休み時間等も活用して、運動に取り組む機会を確保する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 各学校において、児童・生徒が自らすすんで運動に取り組むことができるよう、研修会を通して、体育科・保健体育科の授業力向上を図っていく。</p>	

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>目標値を達成した。各学校において、体力テストの調査結果や児童・生徒の状況から「体力向上推進計画」を作成し、その計画に基づき体力向上の取組を推進することができた。</p>	<p>【課題】 各学校での調査結果や児童・生徒の状況から「体力向上推進計画」の作成を実施。</p> <p>【今後の予定・方向性】 体育健康教育推進校やTokyoスポーツライフ推進事業の取組などを区内に周知することで、各校の体力向上をさらに進めていく。</p>	9	A
<p>各校において、講師を招いての講演会や、体育科・保健体育科の授業、休み時間を通して、オリンピック・パラリンピックに関連した取組を実施した結果、目標値を達成した。</p>	<p>【課題】 東京2020大会以降も継続した取組となるための仕組みを構築する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度も、各学校でオリンピック・パラリンピックに関連した取組を実施し、「学校2020レガシー」を推進していく。</p>		

## 第2章 評価シート

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

### 成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	1	教育指導課	「足立区小学生長なわ・短なわチャレンジ」の実施校の割合	%	実績値	95.6	50.7	50	91.5		
					目標値	-	96.3	51	70	95	100
					達成率	-	53%	98%	131%	-	-
活動2	1	子ども施設運営課	年齢別研修のうち、集合研修(運動)への参加割合(保育士、幼稚園教諭) 目標値=募集人数の7割程度を想定(令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	58.3		
					目標値	-	-	-	70	70	70
					達成率	-	-	-	83%	-	-
活動3	1	子ども施設運営課	1日1時間の運動遊びを実施している就学前施設の割合(令和3年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	64	89.2		
					目標値	-	-	-	70	90	90
					達成率	-	-	-	127%	-	-

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>目標値を大きく上回った。コロナ禍が落ち着き、集団での運動やスポーツが盛んになり、長なわチャレンジに取り組む学校が増えたと考える。</p>	<p>【課題】 運動やスポーツの実施頻度や意欲の向上を図る。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度も、区内共通の達成目標を設け、それぞれの目標を達成した児童が学校を表彰することで、児童の体力向上に加え、意欲喚起を行っていく。</p>	11	A
<p>令和4年度は目標値420人に対し、350人(区立園185人、私立園165人)と目標を下回った。 私立園では体育専門講師が導入されている園もあり、研修内容の周知不足も相まって参加者の増につながらなかった。</p>	<p>【課題】 私立園の参加率向上に向けて、研修内容について、より詳細な周知を図る。</p> <p>【今後の予定・方向性】 日体大と連携して実施している運動あそびのモデル事業を通して指導案等を作成し、公私立園への浸透と普及を図る。</p>	12	C-
<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を実施したうえで運動遊びを実施している就学前施設が増えたこともあり、目標を上回った。 保育者が年齢別担任研修に参加し子どもの発達を理解したうえで保育に入ることで、子どもの意欲向上にもつながった。</p>	<p>【課題】 研修や運動遊びのモデル事業を通して、幼児期の運動遊びの重要性について共有する。</p> <p>【今後の予定・方向性】 幼児期運動指針に基づき、意欲的に楽しく体を動かすことを通して子どもの様々な活動への意欲や社会性、創造性を育む。</p>	13	B+

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

【点検・評価委員による評価】(就学前)									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【助言・今後の期待への反映率】</b>                      成果指標2を追加されており、助言が反映されていると評価できる。</p> <p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      &lt;健康な生活&gt;                      成果指標の項目1～6、および活動指標の5については、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。一方で、活動指標3、4については目標値までには大幅に開きがあるが、コロナの感染防止に伴う制約があったことが影響していると考えられる。</p> <p>&lt;食習慣&gt;                      成果指標の8、および活動指標6(園)、7については、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。一方で、成果指標の7、活動指標8については目標値までには大幅に開きがある。コロナの感染防止の意識が「食事を作る」という行為にも働いていた可能性は考えられる。</p> <p>&lt;運動習慣&gt;                      成果指標の項目9～11、および活動指標9、10、11、13については、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。一方で、活動指標12は、目標値までに若干の開きがある。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      &lt;健康な生活&gt;                      成果指標3は目標値をほぼ達成しているが、それに関連する活動指標2の健診受診率が目標値に対して90%達成しているものの、受診率としては約8割にとどまっている。取り組みの方向性としては評価できるが、課題の重要性を鑑みると、受診率のさらなる向上には必要である。</p> <p>成果指標4、5のむし歯のある就学前児童および児童・生徒の割合は減少しており、取り組みの成果が表れていると考えられる。これに関連する活動指標3、4は、給食後の歯磨きを実施している園や小・中学校の割合であり、集団生活の場における歯磨きの実施は歯磨き習慣を身に付ける意味においては一定の効果はあると考えられる。しかし、活動指標5のむし歯があった児童・生徒の医療機関受診率がほぼ目標値を達成しているものの、小55.9%、中27.7%にとどまっていることを考えると、本人や親の意識を変えていくための、さらなる取り組みが必要だと考えられる。</p> <p>&lt;食習慣&gt;                      成果指標7、および活動指標8は、子どもが自分で料理をすることに着目した指標である。もちろん、自分で料理をすることは食に関心をもつ機会になると考えられる。しかし、食への関心を育てるための視点には、他者の存在がある。家族(祖父母、親、兄弟など)、仲間、教員、地域といった多様な他者をどのように巻き込むことができるのか、ということも取り組みとして必要だと考えられる。</p> <p>&lt;運動習慣&gt;                      活動目標12以外は、目標を達成もしくはほぼ達成しており、取り組みの方向性としては評価できる。運動習慣を身に付けたり、身体を動かすことを肯定的に感じたりすることは、生涯にわたり、影響を及ぼす。そのため、今後は身体を動かすことを肯定的に感じていない園児、児童・生徒に対する取り組みが必要になると考えられる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      ①健康な生活を実践する力                      健康に関する知識を身に付け、適切な意思決定・行動選択を行う力を育成することを目指すことは評価できる。</p> <p>②望ましい食習慣                      食事(給食)についても、健康への意識をもち、児童・生徒が自ら食生活を実践することを目指していることは評価できる。</p> <p>③生涯にわたって積極的に運動に親しむ習慣                      体力向上に向けて、実態把握を行い、それを踏まえた推進計画の策定に取り組んでおり、一定の評価ができる。</p>	<p>&lt;健康な生活&gt;                      特に、生活習慣予防やむし歯について、児童・生徒が適切な意思決定・行動選択を行う力があるかどうかを確認したり、それを育成するための取り組みをより一層充実させることが重要だと考える。園児においても、子どもが自ら取り組んでいるかどうかという視点や、そのための保育者の取り組み方についても視点が必要だと考える。</p> <p>&lt;食習慣&gt;                      「食べるのが楽しい」「人と食べるのが楽しい」という、生きていくうえで重要な感覚を持てるかどうかも重要であるため、他者の存在にも目を向けることが必要だと考える。</p> <p>&lt;運動習慣&gt;                      運動に苦手意識を持っている等、運動を肯定的に捉えていない児童・生徒への取り組みが必要だと考える。</p>								
全体評価レーダーチャート									
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">6</td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">5</td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">5</td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">5</td> </tr> </tbody> </table>	【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	6	5	5	5	
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
6	5	5	5						

施策1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援  
 戦略2 健やかな体の育成

<b>【点検・評価委員による評価】(学齢期)</b>	
全体評価	今後の期待・要望
<p><b>【助言・今後の期待への反映率】</b>            評価(助言)を積極的に反映した。(反映率80%程度)            給食後の歯磨き、調理実習、運動などコロナ禍の厳しい条件下、手法を工夫した取組が見られた。            成果指標1に参加者の満足度の指標が取り入れられるとともに、成果指標2が追加された。</p> <p><b>【目標・成果の達成状況】</b>            優れた取組がいくつかあり、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。            成果指標については、ほとんどが目標値を達成又は達成までわずかに足りない状況であり、全体的には概ね目標値を達成していると考えられる。            成果指標7については目標値を達成できない数値が続いている。コロナ禍による制約があったと考えられるが、コロナが収束する方向にある中、食に関する学習や体験の充実に向けて取組の工夫が求められる。            活動目標については目標値を達成できなかった指標がいくつかみられる。特に活動指標1、3、4及び8は大きく目標値を下回っている。コロナ禍の影響が考えられるが、令和5年度にどのように改善するのか方針を定め取り組むことが求められる。特に活動指標4は徐々に実績値が上昇しているものの目標値までには至っていない。令和5年度の取組に期待したい。            なお養護教諭の研修会が中止となったが、実施方法の工夫も含めた検討が求められる。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>            各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。            子どもたちが生涯にわたって健康な生活を実践する力を身につけるため、養護教諭の力量の向上を図るための研修の充実が重要な取組である。また子どもの健康な生活を確保するため貧血・小児生活習慣病予防検診受診率の向上に向けた取組も必要である。            おいしい給食推進事業は、子どもたちが健康を考え望ましい食生活の習慣を培うようにする、食育のための効果的な取組である。            子どもたちの体力向上に向けて、すべての小中学校で体力向上推進計画及びオリンピック・パラリンピック教育が取り組まれている。また小学生長なわ・短なわチャレンジも子どもたちの体力向上や運動への意欲に寄与するものである。            健康な生活を実践する力、望ましい食習慣、体力の向上など子どもたちの健やかな体の育成に資する取組が行われており、戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>            優れた取組がいくつかあり、効果的である。            各取組は戦略の方向性に合致しているものの、活動指標において目標値を達成できなかった指標がいくつかみられることなどから、これらを着実に進めていくことが必要である。</p>	<p>成果指標については達成率が概ね100%の指標が多いものの、活動指標については目標値までに差がある指標がいくつか見られる。            成果があがっている取組がある一方で、進んでいない取組も見られる。コロナ禍の影響によるものが考えられるが、目標値を下回った指標について課題を分析して取組を進めてほしい。</p>



## 施策 2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み

戦略 1 教員の授業力向上 -「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-	47
戦略 2 個に応じた学習指導・学習機会の充実……………	55
戦略 3 就学前教育の推進……………	65

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

施策2	確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	記入所属	学校ICT推進担当課 学力定着推進課 教育指導課
戦略1	教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6			
				小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
成果1	学力定着推進課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業はわかる」に肯定的な回答をした割合	%	実績値		89.3	73.9	-	-	88.2	68.1	87.7	67.4	/	/	/	/
				目標値		-	-	-	-	90	80	90	80	90	80	90	80
				達成率		-	-	-	-	98%	85%	97%	84%	-	-	-	-
成果2	学力定着推進課	「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差(※1)	%	国		※2		-	-	4.5	-0.4	1.5	-3.3	/	/	/	/
				目標値		-	-	-	-	2	0.5	3	1	3	0	5	2
				達成率		-	-	-	-	104%	99%	98%	94%	-	-	-	-
				算(数)		※2		-	-	2.6	-2	1.8	-2.1	/	/	/	/
				目標値		-	-	-	-	1.5	0	2	0.5	2	0.5	3	1
				達成率		-	-	-	-	102%	97%	100%	94%	-	-	-	-
成果3	学校ICT推進担当課	「足立区学力定着に関する総合調査」で、「グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合うことができたと思う」に肯定的な回答をした割合(令和元年度より実施)	%	実績値		-	-	-	-	74.3	65.9	74.3	66.9	/	/	/	/
				目標値		-	-	-	-	72.5	63.5	75	65	75	70	80	70
				達成率		-	-	-	-	102%	104%	99%	103%	-	-	-	-
成果4	学校ICT推進担当課	ICT機器の活用で「子どもたちはスムーズに調査活動ができた」と思う教員の割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値		-	-	-	-	-	-	79.4	/	/	/	/	
				目標値		-	-	-	-	-	-	80	80	80			
				達成率		-	-	-	-	-	-	99%	-	-			
成果5	学校ICT推進担当課	ICT機器の活用で「子どもたちは効率的に協働的な学習ができた」と思う教員の割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値		-	-	-	-	-	-	66.5	/	/	/	/	
				目標値		-	-	-	-	-	-	80	80	80			
				達成率		-	-	-	-	-	-	83%	-	-			

※1 成果指標2の達成率の算出方法  
 区正答率÷(国正答率+目標値)×100

※2 平成30年度「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差  
 <小学6年生> <中学3年生>  
 国語A 0% 国語A -1.5%  
 国語B 3% 国語B -1.1%  
 算数A 2.9% 算数A -2.4%  
 算数B 1.4% 算数B -2.7%



施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

めざす方向性	学校における教育活動の根幹は「わかる授業」「魅力ある授業」です。これらを実現するため、教員の授業力向上や授業改善の支援に取り組む必要があります。 従来の教員研修やOJTによる育成をはじめ、高い専門性や指導経験を備えた教員経験者による指導、授業改善ツールとしての足立スタンダードやSP表の活用と充実を図り、教員の授業力向上を支えます。 また、大型ディスプレイやタブレット型PC、デジタル教科書などの学校ICT機器等を活用し、より魅力的でわかりやすい授業を実現できる環境づくりを進めます。
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
「学校の授業はわかる」に肯定的な回答をした割合は小学生87.7%、中学生67.4%であった。小・中学生いずれも目標値及び前回調査実績を下回る結果となった。 コロナ禍で様々な学校行事が中止となっていた前年度と比較し、各種行事を再開した一方で、学習内容の理解や定着に至る指導の丁寧さに課題が残る結果となった。	【課題】 当区は、若手教員が多く配置されることから、常に若手教員への指導力向上の育成・支援が必要となる。 【今後の予定・方向性】 教科指導専門員による巡回指導とタブレット活用を基盤とした「個別最適な学び」「協働的な学び」を推し進め、児童・生徒に「わかる授業・魅力ある授業」を届けていく。
「全国学力・学習状況調査」における国の正答率との差は、小学校6年生は、国語が+1.5ポイント、算数は+1.8ポイントと目標には達しなかったものの、国の正答率を上回ることができた。 一方、中学3年生は国語が-3.3ポイント、数学は-2.1ポイントといずれも国の正答率を下回った。 成果指標No.1と同様の背景から、その結果の現れと考える。	【課題】 小学校段階では国の平均正答率を上回ることが出来ている一方で、中学校になると国の平均正答率を下回る傾向が続いており、小・中学校が連携することで、学びの連続性を担保し、学力の維持・向上を図る必要がある。 【今後の予定・方向性】 教科指導専門員制度や小中連携を核とした授業力向上の取組に加え、大仙市教員派遣事業の再開により「わかる授業・魅力ある授業」の実現を目指していく。
「足立区学力定着に関する総合調査」で、「グループ活動やペア活動では、自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合うことができたと思う」に肯定的な回答をした割合は、小学生74.3%、中学生66.9%と横ばいであった。	【課題】 授業や学校活動においてタブレット端末を有効活用し、「協働的な学び」を実現させていく必要がある。 【今後の予定・方向性】 児童・生徒が情報収集や考えの整理、意見発表などの道具としてタブレット端末を活用できるような頻度を高めていく。
小・中学校ともに、スムーズに調査活動ができたと思う教員の割合は、概ね目標値に近い状況であった。 また、「全くあてはまらない」と思う教員の割合は減少しており、子どもたちのスキルが定着してきていると考えられる。	【課題】 さらなる定着を図るため、授業の中でインターネット検索などの調査活動する機会を意図的に確保する必要がある。 【今後の予定・方向性】 インターネットと図書をうまく活用し、効果的な調査活動ができる児童・生徒を育成していく。
効率的に協働的な学習ができたと思う教員の割合は、小学校が65.1%、中学校が67.9%であった。 ICTを活用した協働的な学習を展開する教員のスキルと児童・生徒が作業するスキルが十分でないことが、目標値に達しなかった要因と考えられる。	【課題】 子どもたちがコミュニケーションツールとして活用する機会を意図的に確保する必要がある。 【今後の予定・方向性】 モデル校の実践事例を横展開し、その活用事例を参考に授業の中で展開・共有するスキルを教員が身に付けるとともに、コミュニケーションツールとして活用できる児童・生徒を育成していく。

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
活動1	教育指導課	「足立スタンダード」実践の小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	/		/					
				目標値	-	100	100	100	100	100	100					
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-						
活動2	学力定着推進課	教科指導の対象となる教員が教科指導専門員から受けた指導の回数(教員一人あたり)	回/人	実績値	9.9	17.6	7.9	13.8	7.1	12.8	6.6	14.7	/		/	
				目標値	-	-	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20
				達成率	-	-	79%	69%	71%	64%	66%	74%	-	-	-	-
活動3	学力定着推進課	英語教育アドバイザーの配置(支援)時数(小学校外国語活動アドバイザーより名称変更)	時数	実績値	13,557	14,267.5	12,033	11,438	/		/					
				目標値	-	24,646	24,451	24,255	24,426	24,941						
				達成率	-	58%	49%	47%	-	-						
活動4	教育指導課	教員研修(1~4年次研修)の受講修了割合	%	実績値	84.2	91.2	97.3	88.4	/		/					
				目標値	-	86.8	93.4	97.5	90	100						
				達成率	-	105%	104%	91%	-	-						
活動5	学力定着推進課	先進自治体への教員派遣人数	人	実績値	12	-	-	-	/		/					
				目標値	-	12	12	12	12	12						
				達成率	-	-	-	-	-	-						

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>区立学校教員により組織する「足立スタンダード委員会」を小学校5教科(国語、社会、算数、理科、外国語・外国語活動)、中学校5教科(国語、社会、数学、理科、英語)で設置し、伝達授業を実施していることの成果であると考え。</p> <p>教育指導課においては、2年次教員に対して、伝達授業への参加を悉皆としたことで、若手教員の足立スタンダードへの理解につながったと考える。</p>	<p>【課題】 区外から転入した教員に「足立スタンダード」の理解を深めていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 教員経験年数の幅を広げ、多くの教員が伝達授業に参加出来るようにする。授業動画の保管数を増やし、区内の教員がいつでも視聴できる環境を整える。</p>	1	B
<p>指標2は、中学校において前年度より指導回数が増加したものの、目標を下回った。 実績値は全指導対象者を分母としている。転入者は数回の指導で終了とする一方、主たる指導対象者(採用から概ね1～5年目)には、重点的に相当数の指導・助言を行っている。</p>	<p>【課題】 今後も教員個々の力量や課題に応じて指導・助言していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ベテラン教員の減少に加え、新規採用職員を含む若手教員が多い当区の現状を踏まえ、学校管理職の理解と協力を得ながら、教員の授業力向上に取り組んでいく。</p>	2	C-
<p>指標3は、配置時間数が減少し、目標を著しく下回った。 英語教育アドバイザーの実人員の減少が要因であるが、1時限目の授業支援時は自宅から直接学校に向かうなど柔軟な対応により支援時間を確保した。</p>	<p>【課題】 指標3は、英語教育アドバイザーの実人員の減少により、必要な配置時間数確保が困難である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 年度途中の採用募集を行い優良な人材の確保に努めるほか、英語専科教員や都時間講師の活用、ALT派遣の拡充など検討していく。</p>	3	E
<p>新型コロナウイルス感染症や受講教員の状況により、受講修了割合は9割程度の数値が続いている。</p>	<p>【課題】 年度内に受講完了となる教員の割合を増やす。</p> <p>【今後の予定・方向性】 可能な限り研修の代替課題を準備し、より多くの教員が年度内に受講修了となるようにする。</p>	4	C
<p>令和4年度は令和2、3年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大により、教員派遣を中止した。</p>	<p>【課題】 4年ぶりの派遣に向けて、視察の目的や内容を先方と確認し、双方にとって意義のある派遣計画を策定する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度は8月26日(月)～9月1日(金)に小学校教員6名、中学校教員6名を派遣予定。 1月22日(月)の小中連携研修会にて派遣報告会を実施する。</p>	5	

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
活動6	学校ICT推進担当課	教員用タブレット端末等を使用して授業を実施した教員の割合(令和元年度より実施)(令和4年度目標値変更指標)	%	実績値	-	-	85.4	82.1	94.3	89.5	77.6	66.7	/	/	/	/
				目標値	-	-	-	-	80	80	100	100	100	100	100	100
				達成率	-	-	-	-	118%	112%	78%	67%	-	-	-	-
活動7	学校ICT推進担当課	児童・生徒用タブレット端末を使用して授業を実施した教員の割合(令和元年度より実施)	%	実績値	-	-	41	16.9	76.3	50.1	91.2	27.6	/	/	/	/
				目標値	-	-	-	-	80	50	100	100	100	100	100	100
				達成率	-	-	-	-	95%	100%	91%	28%	-	-	-	-
活動8	学校ICT推進担当課	プログラミング教育の実施回数(タブレット端末使用・教員の割合)	%	実績値	-	-	80.7	94.3	68.9	97.2	79.5	82.6	/	/	/	/
				目標値	-	-	-	-	80	80	80	80	80	80	80	80
				達成率	-	-	-	-	86%	122%	99%	103%	-	-	-	-
活動9	学力定着推進課	小中連携による学力向上に係る研究・研修会の実施回数	回	実績値	245		67		227		226		/	/		
				目標値	-	245	245	245	245	245	245					
				達成率	-	27%	93%	92%	-	-						

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>小学校は77.6%、中学校は66.7%の教員が教員用タブレット端末を活用した授業を実施できている状況である。 モデル校の授業公開や認定教育者研修の実施により、教員が授業で展開できるICTスキルを身に付けることや校内体制が整いつつあると考える。</p> <p>※ 令和4年度に算出基準を見直したため、前年比較はできない</p> <p>【R3基準】 小:担任が週3回以上 中:国数英週2回以上・社理週1回以上</p> <p>【R4基準】 小:担任が週5時間以上 中:5教科担任が週5時間以上</p>	<p>【課題】 小・中学校ともに、ICTを活用した授業を行うことに不安感がある教員が一定数いるため、スキル状況に応じた研修等の設定が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 初級者向けの研修「Google Workspace オンラインプログラム」や校内OJTにより、活用できていない教員のICTスキルの底上げを図る。</p>	6	C-
<p>小学校は91.2%と実施割合は高く、中学校は27.6%と実施割合が低い状況であった。 中学校は、高校受験等に向けた知識詰め込み型の授業形態が多いことも、生徒用タブレット端末を活用した授業の割合が低調している要因の一つであると考えられる。</p> <p>※ 令和4年度に算出基準を見直したため、前年比較はできない</p> <p>【R3基準】 小:担任が月1回以上 中:国英社半期に3回以上・数理半期5回以上</p> <p>【R4基準】 小:担任が週1回以上 中:5教科担任が週3時間以上</p>	<p>【課題】 現在検討が進められている国の学力調査のCBT化を踏まえて、児童・生徒の情報活用能力を育成していかなければならない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 情報活用能力の育成という視点で、タブレット端末を活用する必要性を教育委員会が明確に示し、今後の活用を促していく。</p>	7	C
<p>ICTを活用したプログラミング教育の実施回数は、小・中学校ともに概ね目標値に近い状況であった。ICTを使うプログラミング教育は小・中学校ともに、定着している状況である。</p> <p>※ 令和5年度(修正版)において、すでに算出基準を見直しているため、令和4年度は新基準で算出した</p> <p>【R4基準】 小:4～6年生担任が半期に1回以上 中:技術科担当が半期に1回以上</p> <p>【R5基準】 小:5～6年生担任が年間2時間以上 中:技術科担当が年間2時間以上</p>	<p>【課題】 学習内容に応じて、様々なプログラミング教育を取り入れながら、効果的にプログラミング教育を推進していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ICTに詳しい地域の方を講師に招くなど、効果的な取り組みを実施するとともに、様々な好事例を横展開をするなど、引き続き、学習内容に応じたプログラミング教育が実施できるよう支援していく。</p>	8	B
<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、実施方法を工夫し、各グループが「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善にかかる研究会を年間6回以上、共通課題の解決に向けた研究・研修会を数回、計7回を目安に実施した。</p> <p>また、令和5年度から小中連携計画のフォーマットを改善し、エビデンスに基づいた児童・生徒像、連携校間における共通実践事項、成果と課題の評価指標を小中連携計画書に記載することを必須とした。</p>	<p>【課題】 エビデンスに基づいた各校の共通実践事項の取組みの進捗状況の把握が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 中学校区をベースとした各連携ブロックの取組状況を共有し、好事例の横展開を図っていく。</p>	9	C

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略1 教員の授業力向上-「わかる授業」「魅力ある授業」の実現-

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      いくつかの取組により戦略として成果が概ね出ているが、さらなる努力が必要である。                      成果指標1について、小学校では目標値と差がなくほぼ達成していると言える。一方、中学校では目標値と比べると差がみられる。                      成果指標2について、国語、算数・数学ともに小学校では国の正答率を上回っているものの、中学校では国の正答率を下回っている。                      成果指標1及び2について、特に中学校での課題を踏まえその要因等を分析した上での対策が求められる。                      成果指標4は概ね目標値を達成しているのに対し、成果指標5は目標値を下回った。これからの学習指導においてICT機器の有効な活用は重要である。成果指標4及び5の実績値を踏まえ、活動指標6、7及び8に示す、教員のICT活用能力の向上に向けた取組を進めることが求められる。                      それ以外の成果指標については、概ね目標値を達成又はそれに近い数値を達成している。                      活動指標3の英語教育アドバイザーの配置(支援)時数は目標値を大きく下回った。要因を把握し具体的な対策に向けて取り組むことが求められる。                      活動指標5については、コロナ禍により自治体への派遣を中止に至ったものでやむを得ないと考える。コロナが収束の方向にある中、令和5年度からの取組に期待したい。                      活動指標6、7及び8については、前述のとおりICT機器の有効な活用に向けての取組が必要である。これらの指標は新しく基準を見直したものであり、特に目標値を下回った指標について要因の分析を進めた上での対応が求められる。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。                      わかる授業・魅力ある授業を目指して、教員の指導力向上のために、教科指導員専門員の巡回、教員研修、先進自治体への教員派遣、ICT教育や小中一貫の推進など多様な取組を位置付けている。これらは戦略の方向性に沿ったものと評価できる。なおコロナ禍により十分な取組が行うことができなかったものもあり、令和5年度の取組の方針を明確にして取組を進めることが求められる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      いくつかの取組により、概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。                      各取組は戦略の方向性に合致しているものの、活動指標において目標値を達成できなかった指標がかなり見られることから、これらを着実に進めていくことが必要である。</p>	<p>成果指標について目標値を大きく下回るものはないものの、活動指標には目標値を大きく下回るものが見られる。                      コロナ禍による影響が考えられるが、特に目標値を下回った指標について課題を分析し今後の方針を明確にして改善に取り組んでほしい。</p>								
	<p>全体評価レーダーチャート</p>								
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か		4	5	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
	4	5	4						



第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

施策2	確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	記入所属	教育政策課 教育指導課 学力定着推進課 くらしとごとの相談センター 生活保護指導課
戦略2	個に応じた学習指導・学習機会の充実		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6			
				小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
成果1	学力定着推進課	「足立区学力定着に関する総合調査」における小・中学校の区全体の通過率	%	国	実績値	78.4	63.1	-	-	83.1	68.1	83.1	68	/	/	/	/
					目標値	-	-	-	-	80	70	80	70	80	70	80	70
					達成率	-	-	-	-	104%	97%	104%	97%	-	-	-	-
				算・数	実績値	79.1	59.4	-	-	84.9	68.6	84.3	67.4	/	/	/	/
					目標値	-	-	-	-	80	70	80	70	80	70	80	70
					達成率	-	-	-	-	106%	98%	105%	96%	-	-	-	-
				英	実績値	/	52.4	/	-	/	65.4	/	62.6	/	/	/	/
					目標値	/	-	/	-	/	70	/	70	/	70	/	70
					達成率	/	-	/	-	/	93%	/	89%	/	-	/	-
成果2	学力定着推進課	英語チャレンジ講座の事後テスト結果が事前テスト結果を上回った生徒の割合(令和4年度より指標名変更)	%	実績値	83.5	97.8	93.5	97	/	/							
				目標値	-	90	90	90	90	90							
				達成率	-	109%	104%	108%	-	-							
成果3	学力定着推進課	足立はばたき塾を受講し、第一志望の高校に進学した生徒の割合	%	実績値	67.9	78	67.9	82.4	/	/							
				目標値	-	80	80	80	80	80							
				達成率	-	98%	85%	103%	-	-							
成果4	くらしとごとの相談センター	居場所を兼ねた学習支援に利用登録のある中学3年生の高校進学率(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	100	/	/							
				目標値	-	-	-	-	100	100							
				達成率	-	-	-	-	-	-							



施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

めざす方向性	<p>各種の学力調査結果を分析し、児童・生徒の学力実態を踏まえ、データに基づいた適切な学習指導を継続して行います。放課後や長期休業期間を活用した補習体制の充実や、学習支援等の人材配置、民間教育事業者の活用により、つまずきの解消による学力未定着層の底上げや、学力上位層のさらなる学力向上を図ります。また、全ての子どもたちが家庭環境や経済状況に左右されることなく、自分の能力・可能性を伸ばし、夢に挑戦できるよう、学びの環境整備や居場所の確保等を図ります。</p>
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>「足立区学力定着に関する総合調査」における小・中学校の区全体の通過率は、小学生が2教科ともほぼ横ばいであった。中学生の国語は昨年同様目標値を上回ったが、数学は前年比-1.1ポイントとなり目標値を下回った。</p> <p>コロナ禍で様々な学校行事が中止となっていた前年度と比較し、各種行事を再開したことで児童・生徒の個々のつまずきの把握とその解消に向けた取組が十分に行えなかった可能性がある。</p>	<p><b>【課題】</b>                      中学校においても、一定の通過率を維持できるよう、小学校段階からつまずきの早期発見・早期解消が必要である。</p> <p>また、小学校段階で一定の学力の定着が見られる一方、中学校段階で伸び悩んでいる傾向が続いている。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b>                      上記課題解決のため、今後は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」に「学びに向かう力(主体的に学習に取り組む態度)」を加えた、資質・能力のバランスのよい育成に力を注いでいく必要があると考える。                      これらの資質・能力を育成することで、全体の通過率を高めていく。</p>
<p>令和2年度以降、毎年目標値を上回ることが出来ている。日本人講師とネイティブ講師によるレッスンを織り交ぜながら、中学1年生の学習単元を総復習することで、着実につまずきの早期解消、基礎学力の定着に繋がっている。</p>	<p><b>【課題】</b>                      全中学校(35校)で実施していることから、受託出来る民間教育事業者に限られている。4グループに分けることで、小規模事業者が参入出来るよう工夫しているが、新規参入がない状況が続いている。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b>                      成果が現れている事業であるため、多くの教育事業者が参入し、ある程度の競争が生まれることで講座の質がさらに高まるように、見直しも含めて、引き続き事業内容について検討していく。</p>
<p>令和4年度は都立高校入試に英語スピーキングテストが初めて導入される等、変化の大きな年であったが、目標値を上回ることが出来た。                      上記テストに対応するため、講座の中で、英語によるやりとりの場面や、講師から英語で問いかける場면을積極的に設ける等の工夫を施した。                      また、令和4年度は安全圏の高校を第一志望とした生徒が比較的多いように見受けられ、このことも実績値向上の一因と考えられる。</p>	<p><b>【課題】</b>                      毎年集団の傾向が変わる中で、その特性やニーズを踏まえた柔軟な対応(講座の進め方や進路情報の提供等)が必要となる。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b>                      委託事業者との連携を密にしなが、生徒が高い目標にチャレンジできるよう、その時々状況を踏まえ、柔軟に対応していく。</p>
<p>令和4年度は、登録した中学3年生76名全員が高校等へ進学した。                      生徒一人ひとりの能力や状況に応じた日々の丁寧かつ継続的な支援により、生活習慣や学習習慣が継続、自信や自己肯定感が育まれ、高校等進学率100%の実績に結びついたと分析する。</p>	<p><b>【課題】</b>                      高校進学となった登録生徒のうち数名が高校中退となっている。(令和4年度中 高校中退者5名)</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b>                      高校進学に向けた支援は継続しつつ、今後は中退防止など高校進学後の支援にも着目する。予防的観点から学業の遅れや家庭状況の変化など生徒を取り巻く中退リスクの兆候を適確に察知し、適切なサポートにより、生徒一人ひとりの能力や適性を最大限引き出し、自己肯定感がさらに醸成されるような支援、生徒の将来に寄与する支援を目指していく。</p>

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動1	学力定着推進課	そだち指導の充足率(そだち指導員の年間指導時間数/そだち指導対象児童に必要な指導時間数) (令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	101		
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	101%	-	-
活動2	学力定着推進課	MIMの指導回数 ※ 学校数 平成30年度 69校 令和6年度 67校	回	実績値	3,450	3,105	3,450	3,400		
				目標値	-	3,450	3,450	3,400	3,350	3,350
				達成率	-	90%	100%	100%	-	-
活動3	教育政策課	・ 学習支援ボランティアの登録者数<人> ・ 活動件数<回> ・ 充足割合(活動件数/活動予定数(年度当初の調査に対して回答した件数))<%>	人	実績値	463	267	347	407		
				目標値	-	452	464	476	488	500
				達成率	-	59%	75%	86%	-	-
			回	実績値	8,404	5,153	6,090	6,344		
				目標値	-	7,800	8,100	8,400	8,700	9,000
				達成率	-	66%	75%	76%	-	-
			%	実績値	-	-	-	71		
				目標値	-	-	-	80	90	100
				達成率	-	-	-	89%	-	-
活動4	教育指導課	学習支援員配置の小学校の割合	%	実績値	100	96	97	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	96%	97%	100%	-	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>そだち指導員と学級担任が連携し、組織的に対象者を選定し、計画通り実施した結果、目標値を超えることができた。</p> <p>また、卒業アンケート結果より成果として、対象児童の満足度が99.7%と高く、つまずきの解消を実感できている児童の割合も99.6%と高いことが挙げられる。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の拡大で、第一期の指導の中断や延長、第二期の指導開始時期が遅れた対象児童がいたことにより、卒業児童が令和3年度より48名(R3:2,664名→R4:2,616名)減少している。</p>	<p>【課題】 そだち指導員と担任が、児童のつまずきと明確な指導目標を共有しておく必要がある。また、抜き出した授業の学習内容とつまずき解消の双方への対応を図るには指導員の高度な指導技術が求められるが、人材確保が難しい。</p> <p>【今後の予定・方向性】 学力定着指導員の巡回を通じて、つまずきの分析や指導方法の改善を支援していく。また、新規そだち指導員への研修会を充実させるなどして、指導員の指導力向上を図る。</p>	1	B
<p>指導主事や退職校長である学力定着指導員による巡回指導、学校訪問、MIM指導相談会の実施に加え、MIM指導動画の配信等、様々な機会を捉えて指導することで、計画通り指導することができた。</p>	<p>【課題】 新規採用教員や転入教員に対し、毎年研修を継続し、地道にMIM指導に係る理解を深めてもらうことが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 MIMに造詣の深い外部講師を招聘し、教員研修を行う。また、令和5年度にデジタル版を全小学校に導入し、研修等も含め、好事例を横展開していく。</p>	2	B
<p>登録者数について、目標値を下回ったが、新型コロナウイルス感染症を踏まえた対応から通常の学校運営へと戻りつつある中、オンライン申請システム導入もあり、登録者数はR2年度267人に留まっていたところ、407人まで増加した。</p> <p>活動回数について、目標値を下回ったが、上記の状況の中、活動件数も回復基調にある。</p> <p>充足割合についても、目標値を下回った。しかし、学校の需要に対して7割以上の供給を満たすことができおり、量的な面では一定程度の効果を果たしている。</p>	<p>【課題】 感染症対策の中で、コロナ禍以前の学校運営に戻りきっていない様子が見てとれる。今後は学校の通常運営を見据えて、学校のニーズを踏まえた補習などの支援を行うための多様な人材確保に向けた取り組みを進めて行く必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ボランティアの人材確保に向けて、広報活動等事業のPRを行う。また、各学校の需要状況や条件面を集約したリストにより区内大学生に需要状況を周知し、ミスマッチ解消を図っていく。さらに、近隣区の報酬支給状況を確認し、報償の支給方法(現金・図書カード)や支給額の検討を行う。</p>	3	C-
<p>ホームページ等を通して学習支援員募集を継続して行い、全校に配置できるよう努め、目標を達成することができた。</p>	<p>【課題】 年度途中退職者による欠員の発生。</p> <p>【今後の予定・方向性】 ホームページやTEPROの活用を継続して行い、必要な人材を確保していく。</p>	4	B

第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動5	学力定着推進課	各小学校におけるサマースクールの実施日数	日	実績値	-	-	-	9.9		
				目標値	-	-	-	10	10	10
				達成率	-	-	-	99%	-	-
活動6	学力定着推進課	英語チャレンジ講座実施延べ時間数(対象生徒数525人)(令和4年度変更指標)	時間	実績値	-	-	-	4,807.5		
				目標値	-	-	-	7,000	5,600	5,600
				達成率	-	-	-	69%	-	-
活動7	学力定着推進課	英語マスター講座実施延べ時間数(対象生徒数90人)(令和4年度変更指標)	時間	実績値	-	-	-	4,258		
				目標値	-	-	-	5,400	5,400	5,400
				達成率	-	-	-	79%	-	-
活動8	学力定着推進課	算数・数学の授業において、Aドリルでつまずきの多かった問題を週1回以上取り上げて、解説を行った教員数/算数・数学の授業を行った教員数(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	34.2		
				目標値	-	-	-	80	90	100
				達成率	-	-	-	43%	-	-
活動9	学力定着推進課	中1夏季勉強合宿で、4泊5日の全行程をやり遂げた生徒の割合【参加者数 ※低減目標】	%	実績値	100	-	-	-		
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	-	-	-	-
			人	実績値	121	-	-	-		
				目標値	-	-	100	70	40	100
				達成率	-	-	-	-	-	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>一部の学校で集団感染等により、7日程度の実施に留まった学校もあったが、新型コロナウイルスの感染対策を施しながら、ほぼ全ての小学校において計画通り実施することが出来た。</p>	<p>【課題】 教員の負担感軽減と基礎学力定着に向けた補習実施のバランスを考える必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 夏季休業期間中の学習支援はつまずき解消に欠かせないため、引き続き、全校で10日間程度実施していく。</p>	5	C
<p>参加生徒を1校あたり15名以内と定めているところ、各校平均11名の参加に留まったことから、目標値を大きく下回る結果となった。 特に小規模校においては、英語に苦手意識のある生徒が10名未満となることがあり、実績値を引き下げる要因となっている。 令和5年度以降は、1校あたり12名を目標とし、受講勸奨を行う。</p>	<p>【課題】 中学1年生の早い段階における苦手解消を目的とした事業であり、学校によって対象生徒数に乖離がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 受講者の事前・事後テストの結果から、一定の成果があるものと受け止めており、支援を必要とする生徒が1人でも多く受講出来るよう実施方法を検討していく。</p>	6	D
<p>受講辞退と講座欠席により、目標を下回った。 受講生には全講座への参加を促しているが、部活動への参加により講座に間に合わない、通塾や他の習い事との重複により、受講辞退(途中辞退含む11名)と欠席があった。 また、高校受験を控えた中学3年生においては、1月以降の出席率が低くなる傾向が見受けられた。</p>	<p>【課題】 新型コロナウイルスの影響が申込者が少ない状況が続いたが、受講生の人数確保とともに講座のレベル確保も必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 欠席がちな生徒には、講座前の面談や声掛けなどでフォローしていく。また、令和6年度以降の事業者選定においては、ICTの活用や東京都スピーキングテスト等の動向などを見据えながら、英語力の更なる向上につながる事業となるよう、公募要件を検討していく。</p>	7	C-
<p>取扱う単位によってはAIドリルの活用が適さない等の理由から「週1回以上」とは言い切れない教員や、授業ではなく放課後補習で解説をしている教員等がいることから、想定よりも低い割合となり、左記の達成率に留まった。</p>	<p>【課題】 蓄積されたログを効果的に活用する方法を検討する必要がある。また、活用率の低い学校・教員の底上げを図る必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 問題を解くだけでなく、学習状況を把握することが大切との認識から指標を設定した。その趣旨は活かし有効活用を促すとともに、より適切な指標となるようの見直しも含め検討していく。</p>	8	E
<p>令和2年度から3年間、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施出来ていない。 なお、中止となった年度については、合宿で使用予定だった教材を放課後補習で使用する等、各校にてつまずきを解消するための支援を行った。</p>	<p>【課題】 マンツーマン指導を徹底することに加え、宿泊を伴う事業のため、引率する教職員の負担が大きい。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度は規模縮小・期間を短縮したうえで、4年ぶりの実施に向けて計画するとともに、モデル校を設けて通所型でも実施し効果検証を行う。</p>	9	

## 第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動 10	学力定着 推進課	足立はばたき塾の在籍率(全講座終了時)	%	実績値	81.6	96.7	89	91		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	97%	89%	91%	-	-
活動 11	くらしとごとの相談センター	居場所を兼ねた学習支援の年間登録数【平成30年度 7箇所、令和4年度以降 6箇所】	人	実績値	308	325	345	356		
				目標値	-	330	330	330	360	370
				達成率	-	98%	105%	108%	-	-
活動 12	生活保護指導課	生活保護世帯の小・中学生のうち、塾代支援を利用して通塾している小学1年生～中学2年生の割合	%	実績値	22.6	17.8	19.3	18		
				目標値	-	23.8	23.8	25.3	27.7	30
				達成率	-	75%	81%	71%	-	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>足立はばたき塾は、難関高校への進学を目指す生徒向けの事業であり、毎週課している宿題の量が多く、授業の難易度が高い。また、一斉ではなく個別指導を希望するなどの理由から、年度途中で退塾する生徒が毎年一定数いる。</p> <p>入塾希望者向け説明会にて、本事業の意図や計画を入念に、生徒・保護者へ伝えることで、入塾後のミスマッチ解消に努め、令和4年度は91%の生徒が最後まで在籍することが出来た。</p>	<p>【課題】 難関高校への進学を目指す生徒だけでは、入塾定員を満たすことが難しくなっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き、ミスマッチ解消のための予防策を講じるとともに、本事業のターゲットに情報が届くよう、様々な手段で発信していく。</p>	10	C
<p>令和4年度は目標及び前年度を上回る実績となった。中学生の登録者数は前年度比7人増(R3:214人→R4:221人)であった。特に、関係機関(中学校、SSW、福祉CW)を通じて新規登録に至った人数が前年度比で大きく増加した(R3:24/96→R4:54/111人)。関係機関との連携により、利用が必要と思われる生徒を対象を限定して案内した取組みが、主な増加要因であると分析する。</p> <p>高校生の登録者数は前年度比4人増(R3:129人→R4:133人)であった。大学生などの若いスタッフを中心とした居心地の良い環境を提供することで、中学卒業後も利用継続を希望する生徒が増加している。</p>	<p>【課題】 登録後、さまざまな事由により利用定着に至らず、適切な支援が行き届かない生徒が一定数存在する。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き、登録者の増加に向けた情報発信は工夫して進めていく。 利用定着に至らず適切な支援が行き届きにくい生徒に対しては、居場所サポート相談員が中心となり各関係機関と連携しながら、利用生徒や保護者の思いに丁寧に寄り添ったうえで、家庭訪問等アウトリーチ型支援も織り交ぜた積極的かつきめ細かな支援を提供していく。</p>	11	B
<p>実績値はほぼ横ばいである。生保世帯の子の学習に対する保護者の意識や学習環境の影響が大きいこともあるが、モデル実施の有子世帯での取り組みの検証から課題も見えてきた。</p>	<p>【課題】 ①将来に渡る支援の見通しが立たない→学習支援策の可視化 ②受け入れる塾が限定的→煩雑な塾の事務処理の見直しと要件緩和</p> <p>【今後の予定・方向性】 ①学習支援策のリーフレット(R5作成)によりCWが子どもと保護者に学習支援を説明 ②-1 R5から塾の請求等の事務手順見直し ②-2 R5から学習支援対象を塾だけでなく通信学習にも拡大</p>	12	C-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略2 個に応じた学習指導・学習機会の充実

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      いくつかの取組により戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。                      成果指標1について小学校の通過率は目標値を上回っているものの、中学校では下回っている。特に中学校での課題を分析し取り組むことが求められる。中学校の課題を除くと、成果指標は目標値を達成している。                      活動指標については目標値を達成しているものがある一方、目標値を下回っている指標もかなり見られた。                      活動指標6の英語チャレンジ講座、活動指標7の英語マスター講座はともに目標値を下回った。下回った要因を分析し目標値の設定方法を含めて改善に努めることが求められる。                      活動指標9の中1夏季勉強合宿はコロナ禍により中止となったが、令和5年度以降、コロナの状況を鑑みながら実施を検討していきたい。                      なお、活動指標8については新規追加指標で目標値を大幅に下回ったが、AIドリルが目指す取組の趣旨がより反映できるような指標への検討が望まれる。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。                      子どもたちの学力の状況を把握し、学力未定着層から学力上位層にいたる子ども一人ひとりに応じた指導の充実に向け、そだち指導員の配置、MIMの指導、学習支援員の配置、サマースクール、足立はばたき塾など多様な取組を位置付けており、戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      いくつかの取組により、概ね効果的ではあるが、さらなる努力が必要である。                      各取組は戦略の方向性に合致しているものの、活動指標において目標値を達成できなかった指標がかなり見られることから、これらを着実に進めていく必要がある。</p>	<p>成果指標については、概ね目標値を達成しているものの、活動指標について課題が見られた。                      目標値を下回った指標について課題を分析するとともに、活動指標の設定について取組の趣旨がより反映できる指標への検討が望まれる。</p>								
	<p style="text-align: center;">全体評価レーダーチャート</p> <p style="text-align: right;">全体評価 <b>C</b></p>								
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	4	5	4	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
4	5	4	4						





第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略3 就学前教育の推進

施策2	確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	記入所属	子ども施設運営課 子ども施設指導・支援課
戦略3	就学前教育の推進		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果1	子ども施設運営課	基本的な生活習慣(※1)が身についている小学1年生の割合	%	実績値	90.6	88.4	87	87.9		
				目標値	-	90	90	90	90	90
				達成率	-	98%	97%	98%	-	-
成果2	子ども施設運営課	教育・保育力向上研修(集合)の受講者アンケート回答者の内、「研修内容を、現場で活用していきたい」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園教諭等) (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	95.6		
				目標値	-	-	-	90	90	90
				達成率	-	-	-	106%	-	-
成果3	子ども施設指導・支援課	指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の実地調査等の際に改善されていた教育・保育施設の割合	%	実績値	100	100	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
成果4	子ども施設運営課	接続期教育研修の受講者アンケート回答者の内、「幼保小連携の重要性を理解できた」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園・小学校教諭等) (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	94.7		
				目標値	-	-	-	90	90	90
				達成率	-	-	-	105%	-	-

※1 基本的な生活習慣の内容…挨拶や返事、姿勢良く座る、静かに話を聞く の3項目

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略3 就学前教育の推進

めざす方向性	人間形成の基礎をつくる重要な乳幼児期において、基本的な生活習慣や学びの芽を育む取り組みを推進するとともに、教育内容を豊かにすることを通して子どもの学びの構えを育み、幼児教育から小学校教育への滑らかな移行を図ります。また、教育・保育施設の運営が適正になされるよう、計画的に指導検査や実地調査、巡回訪問、研修を実施し、教育・保育の質の維持・向上に取り組みます。
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、基本的な生活習慣の取り組みも少しずつ行われたことから、子どもたちの活動が広がり、目標値に近づいた。	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭への啓発活動を十分に実施できていない。SNSやイベントを通して家庭への啓発を図る。</p> <p>【今後の予定・方向性】 子どもたちの体験の積み重ねを重要と捉え、幼保小連携活動を通して子どもの理解を深め、子どもの育ちにつなげていく必要がある。</p>
前年度の各研修参加者の声をもとに研修を企画しており、目標を上回った。 実際の園での活用方法や好事例も紹介しており、研修後すぐに活用しやすい内容となっている。	<p>【課題】 研修受講後の活用について把握できるよう、受講報告書の様式を変更する。</p> <p>【今後の予定・方向性】 研修を実践、振り返りまで活かすことで、保育の質の向上を図る。</p>
令和3年度に指導検査を実施した104施設のうち、65施設に対し「文書指摘」または「口頭指導」を発したが、令和4年度巡回訪問において、全施設で改善されていることが確認できた。	<p>【課題】 指導検査で指摘を受ける施設が減っていない。同様の指摘が繰り返されている傾向がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き、各施設の課題等を分析・共有し、巡回訪問等において「足立区教育・保育の質ガイドライン」を活用しながら、丁寧な寄り添い支援を行っていく。</p>
令和4年度の接続期教育研修には対象施設290(小学校68、就学前施設222)の内、183施設が参加した。  今後の幼保小連携活動の指針となる「幼保小の架け橋プログラム」について共有を図ることで、目標を達成した。	<p>【課題】 今後、対面形式での交流活動が再開されるにあたり、教育・保育の現場での活用に応じた内容で研修を実施する。</p> <p>【今後の予定・方向性】 あだち幼保小接続期カリキュラムの活用を、各施設に研修やブロック会議を通して浸透させ、幼児教育から小学校教育への滑らかな移行を図る。</p>

## 第2章 評価シート

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略3 就学前教育の推進

### 成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動	1	子ども施設運営課	幼児教育研修のうち、教育・保育力向上研修(集合)への参加職員数(保育士、幼稚園教諭等)(令和元年度より実施) 目標値=参加職員数[※研修定員数(令和6年度:3,000人)の7割程度を想定]	人	実績値	-	2,324	2,318	2,840		
					目標値	-	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
					達成率	-	111%	110%	135%	-	-
活動	2	子ども施設指導・支援課	実地調査等をした教育・保育施設の割合(実地調査等対象施設)	%	実績値	96.5	100	99.7	99.7		
					目標値	-	97.1	100	100	100	100
					達成率	-	103%	100%	100%	-	-
活動	3	子ども施設指導・支援課	「足立区教育・保育の質ガイドライン」を活用した保育実践をしている施設の割合	%	実績値	48.1	82	85	85		
					目標値	-	54.3	85	87	87	85
					達成率	-	151%	100%	98%	-	-
活動	4	子ども施設運営課	5歳児が在籍する就学前施設の内、幼保小連携活動の中であだち幼保小接続カリキュラムを活用している園の割合【令和4年度より指標変更】	%	実績値	-	-	68.9	83.5		
					目標値	-	-	90	90	90	90
					達成率	-	-	77%	93%	-	-
活動	5	子ども施設運営課	小学校との交流活動を実施した教育・保育施設の割合	%	実績値	86	85.8	72.6	92		
					目標値	-	86.7	87.6	87.6	90	90
					達成率	-	99%	83%	105%	-	-

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略3 就学前教育の推進

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>令和4年度は、全国的に課題となった不適切な保育を防ぐために、人権研修を急遽1回増やした。</p> <p>このため、研修参加目標の2,100人に対して、740人上回る2,840人(区立園1,155人、私立園1,665人、小学校20人)の参加となり、目標を大きく上回った。</p>	<p>【課題】 運動あそび研修は参加人数が目標の7割に達していない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 運動習慣モデル事業を通して、運動あそびの重要性や好事例を横展開していく必要がある。</p>	1	B+
<p>指導検査を142施設、巡回訪問を349施設に対し実施した。対象施設に対し、計画通り実施することができた。巡回訪問及び事故確認の实地調査は延べ515回実施し、教育・保育の質の向上・維持に寄与した。</p>	<p>【課題】 指導検査や巡回訪問の対象施設が増えており、体制等の整備が必要となっている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 計画的な指導検査と巡回訪問を実施し、各施設に対し丁寧な寄り添い支援を継続していく。</p>	2	B
<p>「足立区教育・保育の質ガイドライン」の活用率は、私立認可保育所において前年の75%から64%にダウンした。家庭的保育事業者が100%など高い施設がある反面、私立幼稚園・こども園が50%と施設種別でばらつきが見られた。</p>	<p>【課題】 私立幼稚園・こども園、私立認可保育所での活用率が高くない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 保育の質の維持・向上のために、活用率の低い私立幼稚園・こども園、私立認可保育所に対し、巡回訪問等を通してガイドラインの活用を継続して働きかけていく。</p>	3	C
<p>令和4年度は、前年度に比べ大きく目標値に近づいた。新型コロナウイルス感染防止を徹底したうえで、13ブロック中12ブロックでブロック会議を対面で実施したことで、連携活動における「あだち幼保小接続期カリキュラム」の重要性を共有できた。</p>	<p>【課題】 カリキュラムを活用し、子どもの実態に沿った保育・教育の基盤作りを計画する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 あだち幼保小接続期カリキュラムを活用し、小学校教員と保育者の架け橋期における相互理解を図る。</p>	4	C
<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止を徹底したうえで、対面での子ども同士や職員同士の連携活動を行った。新型コロナウイルスの影響により実施できなかった体験給食などの活動も再開したため、活発な交流活動につながり目標を上回った。</p>	<p>【課題】 対面での活動が3年振りのため、前例踏襲の域を出ない活動が多くみられた。</p> <p>【今後の予定・方向性】 子ども同士の交流活動により、入学への期待や意欲を高め幼児教育から小学校教育への円滑な移行を図る。</p>	5	B

施策2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み  
 戦略3 就学前教育の推進

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      成果指標の全ての項目(1～4)、および活動指標の全ての項目(1～5)は、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      &lt;基本的な生活習慣や学びの芽を育む&gt;                      成果指標1は目標値をほぼ達成しているが、指標名が「基本的な生活習慣が身につけている小学1年生の割合」となっている。「めざす方向性」には、「基本的な生活習慣や学びの芽を育む取り組みを推進する」とあるので、指標にも盛り込むことが必要だと考える。また、成果指標1にダイレクトに関連する活動指標があると、「めざす方向性」がより一層明確に伝わるのではないかとと思われる。取り組みの方向性としては評価できる。                      &lt;教育内容の向上&gt;                      成果指標2、および活動指標1、3は、教育内容の向上を目指すために、研修会の受講やガイドラインの活用に着目した指標である。成果2については、研修で学んだことを教育に活かそうとする意識があるかどうかという意識を問うた指標であり、方向性として評価できる。しかし、活動指標3は、ガイドラインの活用の有無を問う指標であり、その割合も前年より減少している。活用率をあげることも重要であるが、活用の仕方にも目を向け、教育内容の向上にガイドラインがどのように寄与することができるのか、改めて検討することも必要である。                      &lt;幼児教育から小学校教育への移行&gt;                      成果指標4、および活動指標4、5は、幼児教育から小学校教育に滑らかな移行を目指すために、研修会の受講や「幼保小接続期カリキュラム」の活用に着目した指標である。成果指標4は、幼保小連携の重要性への理解度の指標であり、方向性としては評価できる。活動指標4は「幼保小接続期カリキュラム」の園の活用の有無、活動指標5は交流活動を実施した教育・保育施設の割合を指標としていることから、子どもが滑らかに移行できているかどうかの実態を成果指標にすることも重要ではないだろうか。                      &lt;教育・保育施設の適正な運営&gt;                      成果指標3、および活動指標2は、教育・保育施設の運営が適正になされることを目指した実地調査や巡回訪問の実施や、指導への改善に着目した指標である。そのため、達成率が100%となるのは、ある意味当然の結果ともいえる。適正な運営を目指すための指標として、着目する視点を工夫する必要があると考える。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      基本的な生活習慣や学びの芽を育むこと、教育内容の向上、幼児教育から小学校教育への移行については、実態把握を行い、それを踏まえて課題を捉えたり、今後の計画に取り組んでおり、一定の評価ができる。教育・保育施設の適正は運営に関しては、今後、より「子どもの最善の利益」を重視した取り組み方が必要になると考えられる。</p>	<p>&lt;基本的な生活習慣や学びの芽を育む&gt;                      成果指標に、「学び意欲がある」等の幼児期に育つことが期待される資質・能力が明確に伝わる指標を加えることも必要だと考える。</p> <p>&lt;教育内容の向上&gt;                      「足立区教育・保育の質ガイドライン」の活用の仕方にも目を向け、実際に活用している園の好事例を示すなど、園に多様な活用方法を提案していくことも必要だと考える。</p> <p>&lt;幼児教育から小学校教育への移行&gt;                      子どもが保育園や幼稚園から小学校に滑らかに移行できているかどうかの実態を成果指標にすることも重要ではないだろうか。</p> <p>&lt;教育・保育施設の適正な運営&gt;                      指導検査で指摘を受けた施設は、施設長等が区が提供している研修の受講を義務化することも必要だと考える。</p>								
<b>全体評価レーダーチャート</b>									
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か		5	5	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
	5	5	4						

### 施策 3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略 1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談	71
戦略 2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援・・・	79
戦略 3 切れ目のない特別支援教育の推進・・・・・・・・・・	91
戦略 4 いじめの早期発見・早期対応・・・・・・・・・・	103

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	教育相談課
戦略1	不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果1	教育相談課	個別のカウンセリングや心理・知能検査等を行う教育相談により、不登校等が解決または改善した割合	%	実績値	82	84	87	81.1		
				目標値	-	82.5	84	84.5	84.5	85
				達成率	-	102%	104%	96%	-	-
成果2	教育相談課	学校内で支援を行うSCIにより、不登校児童・生徒が解決または改善へとつながった割合	%	実績値	72	80.1	77	79.3		
				目標値	-	72.8	74	75	76	77
				達成率	-	110%	104%	106%	-	-
成果3	教育相談課	家庭や生活環境も踏まえた支援を行うSSWIにより、不登校等が解決または改善した割合	%	実績値	34	32.7	38.7	36.2		
				目標値	-	29	32	35	38	40
				達成率	-	113%	121%	103%	-	-
成果4	教育相談課	校内委員会での協議に基づく指導により、不登校の状況が改善した児童・生徒の割合	%	実績値	37	32	40	41		
				目標値	-	38.3	40	45	45	45
				達成率	-	83%	100%	91%	-	-



施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

めざす方向性	児童・生徒が抱える様々な悩みや課題の解決・改善を図ることができるよう、①教職員の専門的な知識・技術の習得、②各校における相談・支援体制の整備、③専門家や関係機関との連携協力に取り組み、一人ひとりに寄り添った支援を推進していきます。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
・綾瀬教育相談係では、一時移転(R4.4月～R5.3月)の影響により思うように相談を行うことができず、最終数及び解決数ともに前年度より減少した。 ・年度内に解決できない困難な相談(不登校を含む)が増加している。	【課題】 教育相談だけでなく複数の関係機関と連携する必要がある等、難しい相談も多い。 【今後の予定・方向性】 着実に一つ一つの相談に向き合い、主訴の解消をめざす。
児童・生徒へのカウンセリングに加え、保護者や教職員との面談及び連携を積極的に進めたことにより、不登校の改善につながり、解決・改善率が目標値を上回った。	【課題】 SCの人材確保とSC全体の支援レベルの維持、向上が課題となっている。 【今後の予定・方向性】 SC一人ひとりが担当校において十分な活動ができるように、適正配置を進めていく。また、事例検討等によりSC全体の支援レベル向上を図る。
3地区(西新井、竹の塚、綾瀬)それぞれで統括SSWを中心とした活動体制を組み、各小中学校への巡回、相談対応、家庭訪問等を効果的に展開した結果、解決・改善率が目標値を上回った。	【課題】 SSW個々の負担を軽減し、SSW活動の更なる充実を図る必要がある。 【今後の予定・方向性】 SSWが区全体として機能するための体制整備を図る中で、SSWの配置について計画的に進めていく。
校内委員会での協議が行われたのは、小学校241件、中学校552件である。うち、小学校111件、中学校220件で不登校の状況が改善したが、目標値は下回った。	【課題】 不登校の児童・生徒の増加に伴い、校内委員会が単なる情報共有の場となっているケースがある。 【今後の予定・方向性】 校内委員会で取り上げる議題を、情報共有にとどまらず、支援方針や事例の検討を行うことができるようにする。

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6						
				実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標					
活動1	教育相談課	教育相談の人数(実数)	人	実績値	1,468	1,478	1,555	1,616	/		/									
				目標値	-	1,473	1,500	1,500	1,500	1,500										
				達成率	-	100%	104%	108%	-	-										
活動2	教育相談課	SCの相談延べ回数(区SC・都SC合計数)	回	実績値	74,517	66,126	66,387	71,143	/		/									
				目標値	-	62,165	75,000	75,000	75,000	75,000										
				達成率	-	106%	89%	95%	-	-										
活動3	教育相談課	SSWによる相談人数(実数)	人	実績値	363	444	473	439	/		/									
				目標値	-	369	400	400	400	400										
				達成率	-	120%	118%	110%	-	-										
活動4	教育相談課	SSWが関係機関と連携した回数	回	実績値	304	492	460	371	/		/									
				目標値	-	320	340	360	380	400										
				達成率	-	154%	135%	103%	-	-										
活動5	教育相談課	校内委員会にSSWが参加している割合(令和3年度目標値変更指標)	%	実績値	29	77	39.1	97.1	53.6	100	58.8	100	/		/		/		/	
				目標値	-	-	35	80.8	40	100	50	100	80	100	100	100				
				達成率	-	-	112%	120%	134%	100%	118%	100%	-	-	-	-				

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1,600件を超え、近年の最高数となった。うち、新規の相談件数は764件(前年度比30件増)である。</li> <li>・ 相談内容は、不登校が854件(前年度比80件増)と、最も多い。</li> <li>・ 例年、目標を上回る相談数に対応している。</li> </ul>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談内容が複雑化している。</li> <li>・ 保護者の就労により、土曜日の相談希望が増加</li> </ul> <p>【今後の予定・方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談内容により早期に初回面接を必要とするケースは、別枠での対応を調整する。</li> <li>・ あだち広報・SNS等による事業周知を継続</li> </ul>	1	B
<p>新型コロナウイルス感染症の収束傾向により学校活動が正常化に向かうとともに、SCの相談対応件数が増加した。その結果、延べ相談件数は昨年度よりも4,700件以上増加したが、目標値は下回った。</p>	<p>【課題】</p> <p>SCの役割は行動観察や校務分掌の活動等もあり、時間的制約の中で、対応できる件数に限りがある。</p> <p>【今後の予定・方向性】</p> <p>SCの人材確保と再配置により、増加しつつある相談依頼に対応していく。</p>	2	C
<p>(成果指標3と同様)3地区(西新井、竹の塚、綾瀬)それぞれで統括SSWを中心とした活動体制を組み、各小中学校への巡回、相談対応、家庭訪問等を効果的に展開した結果、解決・改善率が目標値を上回った。</p>	<p>【課題】</p> <p>(上記の成果3と同様)SSW個々の負担を軽減し、SSW活動の更なる充実を図る必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】</p> <p>(上記の成果3と同様)SSWが区全体として機能するための体制整備を図る中で、SSWの配置について計画的に進めていく。</p>	3	B
<p>(成果指標3と同様)3地区(西新井、竹の塚、綾瀬)それぞれで統括SSWを中心とした活動体制を組み、各小中学校への巡回、相談対応、家庭訪問等を効果的に展開した結果、解決・改善率が目標値を上回った。</p>	<p>【課題】</p> <p>(上記の成果3と同様)SSW個々の負担を軽減し、SSW活動の更なる充実を図る必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】</p> <p>(上記の成果3と同様)SSWが区全体として機能するための体制整備を図る中で、SSWの配置について計画的に進めていく。</p>	4	B
<p>SSWが区内全小学校に派遣されるようになって以来、各校の校内委員会のSSW参加を常々呼び掛けている。各学校の理解が進み、SSWの派遣体制を整えてきた結果、参加割合は目標値を上回った。</p>	<p>【課題】</p> <p>各校の校内委員会開催のタイミングは様々で、現状、すべての委員会にSSWが予定通り参加できる状況ではない。</p> <p>【今後の予定・方向性】</p> <p>校内委員会は問題のある児童・生徒及びその家庭の事情を把握する重要な機会であり、すべてのSSWが参加できるよう体制を整備していく。</p>	5	B

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動 6	教育相談課	教育相談に係る研修会の教員受講者数 (令和3年度目標値変更指標)	人	実績値	150	0	158	137		
				目標値	-	150	150	150	150	150
				達成率	-	0%	105%	91%	-	-
活動 7	教育相談課	教育相談研修の受講教員が、各学校において、研修内容を活用した割合(令和2年度よりアンケート実施予定)	%	実績値	-	0	64	94		
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	64%	94%	-	-
活動 8	教育相談課	学校支援員の派遣により支援した学級数【学校支援員の数】 (令和3年度目標値変更指標)	学級	実績値	20	24	33	36		
				目標値	-	25	30	35	43	50
				達成率	-	96%	110%	103%	-	-
			人	実績値	6	7	7	9		
				目標値	-	8	10	10	10	10
達成率	-	88%	70%	90%	-	-				

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍のため、オンラインでの研修受講となった。</li> <li>・ 受講者数は前年度より減少したが、管理職や各校のコーディネーターなど、様々な立場の教員の参加があった。</li> </ul>	<p>【課題】 研修内容のバリエーションを増やす必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 アンケート結果も参考にして研修内容の充実を図る。</p>	6	C
<p>アンケート結果から、多くの学校で研修内容の活用を検討・実践していることが確認できた。</p>	<p>【課題】 アンケート未提出の学校への促し方をどうするか。</p> <p>【今後の予定・方向性】 研修を受講した教員だけでなく、学校全体で活用してもらえるように説明を継続していく。</p>	7	C
<p>学校からの申請件数は49件であり、そのうち35件に学校支援員を派遣した。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ学校への派遣が多い。</li> <li>・ 全く利用していない学校もある。</li> </ul> <p>【今後の予定・方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全く利用していない学校への事業周知</li> <li>・ 多く利用している学校に対しては、必要性の優先順位をつけてもらう。</li> </ul>	8	B

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実

戦略1 不登校や発達支援等の課題を抱える子どもの心のケア・悩み相談

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      目標値を年々高めているにも関わらず、成果としては91%以上と高く、計画的な各取り組みの相互作用の結果が反映していると思われる。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取り組みは、戦略の方向性に合致するものが多く、その達成を維持継続させていくことを期待されるべきものと思われる。一方で、成果に対する各活動は、各成果に相互に絡み合っており、各成果に対する根拠として合致しているかどうかについては、毎年度の検討が必要である。その理由は以下の通りである。                      例えば、成果2におけるSCによる不登校児童・生徒の解決や改善についての根拠である活動②は、不登校の児童・生徒以外の支援も含めた実績値となっており、成果の対象となる不登校児童・生徒への支援効果を示した資料としてはわかりづらい。また成果4における不登校の状況が改善した児童・生徒の割合についての根拠の一つである活動⑧は、主として不登校ではない児童・生徒への校内支援である点も同様のわかりづらさがある。さらに成果4そのものは、成果3に寄与する活動の一つではないだろうか。                      つまり、これら一つ一つの活動は、戦略の方向性に沿っており、価値ある活動ではあるが、成果の根拠としては必ずしも合致しているとは言い難い。成果と活動の関係について因果関係を吟味していく必要がある。そのほうが同じ活動を根拠に持つ成果の捉えがより自己評価する側もわかりやすくなる可能性がある。これには、「不登校の児童生徒など」という“など”記載にて、成果の対象となる児童・生徒の幅を持たせた記載にて合致させていくことができるだろうが、明確に不登校の児童・生徒の効果について実績値を出していくことも必要であろう。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      全体を通して、不登校には様々な理由が要因となるなか、単純に登校＝解決だけを成果とせず、“改善”という、子どもの状況をよりよくしていく項目が各機関の成果に定められていた点は意義のあることと考えられる。                      これには、“登校という解決”だけに目を向けてしまえば、子どもに寄り添う、健全育成に資する教育相談というよりは、不登校＝問題行動であると定義づけし、その問題行動へ対処する教育相談となり得てしまう懸念があるからである。それが本当に子ども達に寄り添っているかは別次元になってしまう可能性をはらんでいるのである。但し、その改善がどのレベルまでを認めるのかの指標範囲については、日々の検討が必要である。                      次に所管による自己評価では、成果達成が高いことを踏まえ、真なる効果の要因を抽出しつつあることをヒアリングより感じる点があった。例えば、成果2の“課題と今後の予定、方向性”では、SCの適正配置を進めるとあるが、真なる効果の一つと言える高度な専門性を持つSCの配置のことを捉えているとのことだった。その配置のためにいかに専門性を高めていくか育成方法まで考えられていた。                      とことで、“適正”や“効果的”という言葉の活用がいくつかなされていたが、単純に結果が出たから適正や効果的とするのではない、適正や効果的となるプロセス等の理解も継続的に捉えていただきたい。</p>	<p>全体的な成果達成は、単一での成果や活動の結果ではなく、それぞれの教育相談事業のあり方が相互に寄与した結果であることは十分に評価すべき事項と捉えられる。今後もこれからの区を担う子ども達への支援を維持・向上していただきたい。                      このとき、今後の各成果の目標値には、専門職の増員を踏まえた段階的上昇値の一部では定められていた。伴走型の寄り添う支援は、長期的な支援とも言え、短時間・短期的な支援により結果が必ずしも結びつくものではない。各機関が結果を急ぐあまり失敗してしまう関りとは異なる、人権的なアプローチである点を大切に増員への働きかけをしていただくことを願う。                      一方で、成果の根拠となる活動の吟味、成果同士の因果関係の吟味等を通じて、所管側が戦略を自己評価しやすくするとともに、区民でもわかる施策の評価のあり方を検討していくことは必要であろう。そのためには、担当課が評価のための評価提出ではないよう、戦略を検討できるだけの時間を持てる業務量の調整も必要により検討していただきたい。</p>								
<p>全体評価レーダーチャート</p>									
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か		6	5	6
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
	6	5	6						



第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	教育相談課
戦略2	不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援		

戦略の達成度を測る成果指標

成果	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
成果1	1	教育相談課	不登校児童・生徒数(年間30日以上 の欠席者) ※低減目標	人	実績値	239	697	312	665	318	678	371	791	/	/	/	/
					目標値	-	-	236	691	280	656	300	650	300	700	220	660
					達成率	-	-	76%	104%	88%	97%	81%	82%	-	-	-	-
成果2	2	教育相談課	新規の不登校児童・生徒数 *低減目標	人	実績値	110	316	197	177	183	295	189	455	/	/	/	/
					目標値	-	-	107	303	100	280	170	280	130	260	90	240
					達成率	-	-	54%	171%	55%	95%	90%	62%	-	-	-	-
成果3	3	教育相談課	中学1年生の不登校生徒数に占める 新規不登校生徒の割合 *低減目標 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	-	-	65	/	/	/	/		
					目標値	-	-	-	-	80	75	70					
					達成率	-	-	-	-	123%	-	-					
成果4	4	教育相談課	校内委員会での協議に基づく指導に より、不登校の状況が改善した児童・ 生徒の割合	%	実績値	37	32	40	41	/	/	/	/				
					目標値	-	38	40	45	45	45						
					達成率	-	83%	100%	91%	-	-						



施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

めざす方向性	不登校の未然防止・早期対応については、魅力のある学校づくりや学校・教育委員会・関係機関等との連携により、各校における組織的対応の強化を図っていきます。 不登校児童・生徒への支援については、学校への復帰や社会的自立に向け、個の状況に応じた多様な教育機会・学習機会を確保していきます。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童・生徒は、小学校で53人増加し、中学校で113人増加した。</li> <li>コロナ禍の影響によるライフスタイルの変化や学校生活における様々な制限などが起因して不登校児童・生徒の増加は続いていると考えられる。</li> </ul>	<p>【課題】 不登校児童・生徒の増加</p> <p>【今後の予定・方向性】 各学校において不登校の未然防止、早期発見に努めるよう具体的な手立てについて指導助言を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>新規の不登校児童・生徒数は、前年度と比べ小学校は2人、中学校は62人増加し、中学校での増加が目立つ。</li> <li>小学校、中学校ともに原因は「無気力・不安」が最も多い。</li> </ul>	<p>【課題】 中学校における新規不登校生徒の増加。</p> <p>【今後の予定・方向性】 関係機関と連携しながら効果的な支援や長期欠席の未然防止策について検討し、充実を図る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学1年生の不登校生徒数228人のうち、新規不登校生徒は148人であった。</li> <li>半数以上が新規不登校生徒であり、中学校進学に伴う生活面、学習面、友人関係など様々な環境の変化に順応できない生徒が多いことが考えられる。</li> </ul>	<p>【課題】 中学1年生の新規不登校生徒の増加。</p> <p>【今後の予定・方向性】 小学校から中学校への確かな情報伝達を行うとともに、小学校からの情報に基づく中学校での適切な対応を行う。</p>
校内委員会での協議が行われたのは、小学校241件、中学校552件である。うち、小学校111件、中学校220件で不登校の状況が改善したが、目標値は下回った。	<p>【課題】 不登校の児童・生徒の増加に伴い、校内委員会が単なる情報共有の場となっているケースがある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 校内委員会で取り上げる議題を、情報共有にとどまらず、支援方針や事例の検討を行うことができるようにする。</p>

## 第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

### 戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果	5	教育相談課	登校サポーター派遣で別室登校支援をし、状況が改善した児童・生徒の割合	%	実績値	68	68.1	66.8	58.5		
					目標値	-	70	70	72	74	75
					達成率	-	97%	95%	81%	-	-
成果	6	教育相談課	チャレンジ学級で支援し、状況が改善した児童・生徒の割合	%	実績値	70	70.1	72.2	64.8		
					目標値	-	71	72	73	74	75
					達成率	-	99%	100%	89%	-	-
成果	7	教育相談課	オンライン授業に定期的に参加できる等、学習活動のリズムが改善された不登校児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	12.9		
					目標値	-	-	-	5	10	20
					達成率	-	-	-	258%	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>状況が改善した児童・生徒数は前年度より10人以上増加したが、利用する児童・生徒数が前年度より50人以上増加した結果、改善した割合が8ポイント以上減少し、目標値を下回った。</p>	<p>【課題】 別室登校支援を利用する児童・生徒数は年々増加しており、需要に見合う支援が行き届かなくなる可能性がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 別室登校支援を行うサポーターの確保に向けて、増員を図っていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通級者数は105人(前年度比22人増)と増加している。</li> <li>・ 学校には行かないものの、チャレンジ学級には安定して通級できている児童・生徒が一定数いる(この場合、改善した数として計上していない)。</li> <li>・ 学校へ行ける回数が増えていく生徒と、全く行くことができない生徒がおり、個人差がある。</li> </ul>	<p>【課題】 中学3年生は受験のこともあり在籍校とつながりやすい。つながりにくい中学1・2年生の学校へのつなげ方が課題である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 まずは、チャレンジ学級に安定して通級できるように支援する。その後、チャレンジを利用しながら学校への促しを行っていく。</p>
<p>不登校の児童・生徒数は増加したものの、学校でのICTの活用も進んだことで目標値を上回った</p>	<p>【課題】 オンライン授業の視聴等学校以外の場での学習の評価方法が確立されていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 学校以外の場での学習の評価方法を検討していく。</p>

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	教育相談課	不登校児童・生徒に対して不登校対応マニュアルに基づき支援した割合(令和2年度より算定)	%	実績値	-	100	100	100		
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	100%	100%	-	-
活動2	教育相談課	SCの相談延べ回数(区SC・都SC合計数) (戦略1の再掲)	回	実績値	74,517	66,126	66,387	71,143		
				目標値	-	62,165	75,000	75,000	75,000	75,000
				達成率	-	106%	89%	95%	-	-
活動3	教育相談課	SSWによる相談人数(実数) (戦略1の再掲)	人	実績値	363	444	473	439		
				目標値	-	369	400	400	400	400
				達成率	-	120%	118%	110%	-	-
活動4	教育相談課	校内委員会において支援方法等を協議した延べ回数【対象児童数】【対象生徒数】 (令和3年度変更指標)	回	実績値	-	5,287	5,576	5,580		
				目標値	-	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
				達成率	-	88%	93%	93%	-	-
			人	実績値	-	-	-	241		
				目標値	-	-	-	292	283	274
				達成率	-	-	-	83%	-	-
			人	実績値	-	-	-	552		
				目標値	-	-	-	625	606	587
				達成率	-	-	-	88%	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>各学校において「不登校対応マニュアル」を作成し、不登校の早期対応に努めている。</p>	<p>【課題】 不登校の要因、背景の多様化、複雑化</p> <p>【今後の予定・方向性】 様々なケースに対応できるよう、各校で「不登校対応マニュアル」の見直しを定期的に行う。</p>	1	B
<p>(戦略1の活動指標2に同じ)新型コロナウイルス感染症の収束傾向により学校活動が正常化に向かうとともに、SCの相談対応件数が増加した。その結果、延べ相談件数は昨年度よりも4,700件以上増加したが、目標値は下回った。</p>	<p>【課題】 (戦略1の活動指標2に同じ)SCの役割は行動観察や校務分掌の活動等もあり、時間的制約の中で、対応できる件数に限りがある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 (戦略1の活動指標2に同じ)SCの人材確保と再配置により、増加しつつある相談依頼に対応していく。</p>	2	C
<p>(戦略1の活動指標3に同じ)3地区(西新井、竹の塚、綾瀬)それぞれで統括SSWを中心とした活動体制を組み、各小中学校への巡回、相談対応、家庭訪問等を効果的に展開した結果、解決・改善率が目標値を上回った。</p>	<p>【課題】 (戦略1の活動指標3に同じ)SSW個々の負担を軽減し、SSW活動の更なる充実を図る必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 (戦略1の活動指標3に同じ)SSWが区全体として機能するための体制整備を図る中で、SSWの配置について計画的に進めていく。</p>	3	B
<p>・ 各校の教育相談コーディネーターを中心に、校内委員会が定期的に、また、必要に応じて臨時的に行われた。          ・ 校内委員会では、不登校児童・生徒の把握、状況の情報共有、支援方法についての協議が行われた。</p>	<p>【課題】 校内委員会による協議により不登校が改善されたケースも見られるが、情報共有のみで支援方法の協議までされていないケースもある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 校内委員会において、引き続き不登校児童・生徒への支援方法について協議するとともに、未然防止についても検討できるようにしていく。</p>	4	C

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
活動 5	教育相談課	校内委員会にSSWが参加している割合 (戦略1の再掲)	%	実績値	29	77	39	97	54	100	59	100	/	/	/	/
				目標値	-	-	35.0	80.8	40	100	50	100	80	100	100	100
				達成率	-	-	112%	120%	134%	100%	118%	100%	-	-	-	-
活動 6	教育相談課	長期欠席児童・生徒状況表で情報のあがった人数 ※低減目標 【中学1年生の数 ※低減目標】 (令和4年度目標値追記指標)	人	実績値	1,622		1,939		2,404		2,359		/	/		
				目標値	-	1,602		1,600		1,570		1,550		1,500		
				達成率	-	83%		67%		67%		-		-		
			人	実績値	-	-		-		441		/	/			
				目標値	-	-		-		167		160		156		
				達成率	-	-		-		38%		-		-		
活動 7	教育相談課	小学校が小学6年生の長期欠席児童・生徒支援シート(共通シート)を作成し、進学先の中学校へ引き継ぎ指導を行った割合 (令和2年度より算定)	%	実績値	-	88		100		100		/	/			
				目標値	-	-		90		93		95		100		
				達成率	-	-		111%		108%		-		-		
活動 8	教育相談課	登校渋りや教室に入れない児童・生徒に対し、登校サポーターを派遣した回数 【登校サポーターの人数】 (令和3年度目標値変更指標)	回	実績値	1,852	4,578		5,096		5,250		/	/			
				目標値	-	4,500		4,500		4,500		4,500		4,500		
				達成率	-	102%		113%		117%		-		-		
			人	実績値	51	74		104		99		/	/			
				目標値	-	54		70		70		70		70		
				達成率	-	137%		149%		141%		-		-		

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>(戦略1の活動指標5に同じ)SSWが区内全小学校に派遣されるようになって以来、各校の校内委員会のSSW参加を常々呼び掛けている。各学校の理解が進み、SSWの派遣体制を整えてきた結果、参加割合は目標値を上回った。</p>	<p>【課題】            (戦略1の活動指標5に同じ)各校の校内委員会開催のタイミングは様々で、現状、すべての委員会にSSWが予定通り参加できる状況ではない。</p> <p>【今後の予定・方向性】            (戦略1の活動指標5に同じ)校内委員会は問題のある児童・生徒及びその家庭の事情を把握する重要な機会であり、すべてのSSWが参加できるよう体制を整備していく。</p>	5	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期欠席児童・生徒状況表で情報があがったのは、小学校922人、中学校1437人である。うち中学1年生は、441人である。</li> <li>・ 中学1年生は中学校進学に伴い、学校や家庭での環境の変化したことが影響していると考えられる。</li> </ul>	<p>【課題】            長期欠席児童・生徒状況表に情報があがった人数は減っているが、不登校児童・生徒数は増加している。</p> <p>【今後の予定・方向性】            長期欠席児童・生徒状況表を情報共有のツールとして活用し、関係機関が一体となって組織的・計画的な対応を行う。</p>	6	D
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校から進学先の中学校へ引き継ぎが行われた長期欠席児童・生徒支援シートは136件であった。</li> <li>・ 小学6年時に不登校であった児童136名分すべて引き継ぎが行われた。</li> </ul>	<p>【課題】            長期欠席児童・生徒支援シートで支援の方法について確実に引き継ぎを行う。</p> <p>【今後の予定・方向性】            小学校時代の欠席状況、支援の方法等について引き継ぎを行い、継続的な支援につなげる。</p>	7	B
<p>児童72人(前年度比-17人)、生徒257人(前年度比+58人)の合計329人に登校サポーターの支援を実施した。特に利用生徒数が増加したことにより、派遣回数は前年度から約150回の増となった。</p>	<p>【課題】            登校サポーターを利用する児童・生徒は年々増加しているが、一方で出番の少ないサポーターがおり、ミスマッチが生じている。また、サポーターの人数増加に伴い、個々の活動実態の把握が難しくなりつつある。</p> <p>【今後の予定・方向性】            登校サポーターに対しては、手引きの見直しにより一定の支援レベルを確保するとともに、連絡会等情報共有の場を設けて活動の実態把握に努めていく。</p>	8	B+

## 第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動 9	教育相談課	登校サポーターが支援した児童・生徒数【お迎え支援】 (令和4年度新規追加指標)	人	実績値	-	-	-	52		
				目標値	-	-	-	-	20	20
				達成率	-	-	-	-	-	-
活動 10	教育相談課	登校サポーターが支援した児童・生徒数【別室登校支援】 (令和4年度新規追加指標)	人	実績値	-	-	-	277		
				目標値	-	-	-	-	180	180
				達成率	-	-	-	-	-	-
活動 11	教育相談課	チャレンジ学級へつなげるため、不登校児童・生徒に対し働きかけを行った回数 【正式通級となった人数】	回	実績値	1,362	1,209	933	1,718		
				目標値	-	1,435	1,500	1,500	1,650	1,800
				達成率	-	84%	62%	115%	-	-
			人	実績値	78	88	83	105		
				目標値	-	120	120	120	120	120
				達成率	-	73%	69%	88%	-	-
活動 12	教育相談課	NPOと連携した学習・居場所支援の登録児童・生徒数【平成30年度 1箇所10人、令和3年度以降 4箇所70人】 (令和4年度目標値変更指標)	人	実績値	10	52	67	79		
				目標値	-	50	60	60	70	70
				達成率	-	104%	112%	132%	-	-
活動 13	教育相談課	チャレンジ学級・あすテップでオンライン授業を受講した通級生の割合 (令和4年新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	54		
				目標値	-	-	-	60	80	100
				達成率	-	-	-	90%	-	-



施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
小学生のお迎え支援が前年度より11人減となったが、引き続き50人以上の利用がある。	<p>【課題】            (活動指標8と同様)登校サポーターを利用する児童・生徒は年々増加しているが、一方で出番の少ないサポーターがおり、ミスマッチが生じている。また、サポーターの人数増加に伴い、個々の活動実態の把握が難しくなりつつある。</p> <p>【今後の予定・方向性】            (活動指標8と同様)登校サポーターに対しては、手引きの見直しにより一定の支援レベルを確保するとともに、連絡会等情報共有の場を設けて活動の実態把握に努めていく。</p>	9	A
特に中学生の利用が前年度より50人以上増えており、中学校での別室登校支援の必要性が高まっている。	<p>【課題】            (活動指標8と同様)登校サポーターを利用する児童・生徒は年々増加しているが、一方で出番の少ないサポーターがおり、ミスマッチが生じている。また、サポーターの人数増加に伴い、個々の活動実態の把握が難しくなりつつある。</p> <p>【今後の予定・方向性】            (活動指標8と同様)登校サポーターに対しては、手引きの見直しにより一定の支援レベルを確保するとともに、連絡会等情報共有の場を設けて活動の実態把握に努めていく。</p>	10	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正式通級生が増えた(前年度比22人増)ことにより、働きかけを行った回数も増加している。</li> <li>・安定して通級できるまでに時間がかかるケースも多く、働きかけを行った回数が増加している。</li> </ul>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正式通級生になった後、安定した通級につながらない児童・生徒もいる。</li> <li>・各教室で正式通級生の人数を増やす。</li> </ul> <p>【今後の予定・方向性】            正式通級生になったあとも安定して通級できるよう支援する。</p>	11	B
定員は4箇所合計70人であるが、年度内に利用児童・生徒の入れ替わりがあり、登録者数は定員を超え、目標値を上回った。	<p>【課題】            利用申し込みが多くキャンセル待ちが出ている施設がある一方、空きのある施設もあり、ミスマッチが生じている。</p> <p>【今後の予定・方向性】            利用を希望する児童・生徒が各施設で均等に入るよう調整を行っていくとともに、現在の通級生がチャレンジ学級やあすテップへに移行していくよう働きかけていく。</p>	12	B+
毎日3時間目に時間割に組み込んで実施したことで、通級生の半数以上が受講することができた。	<p>【課題】            生徒が参加しやすいオンライン授業を展開できるようにすること。</p> <p>【今後の予定・方向性】            ICT支援員を活用し生徒が参加しやすいオンライン授業にし受講率を高める。</p>	13	C

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略2 不登校の未然防止と学校復帰・社会的自立の支援

<b>【点検・評価委員による評価】</b>									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      前年度までの推移と異なり、著しく令和4年度の不登校生徒が増加したことから、成果1、2においては達成率が低くなっていた。一方で、令和4年度から新規追加された成果3については、達成率が123%と高かった。想定しえない状況による達成率の増減は起こりうる可能性があることから、その達成率だけを見た評価は戦略2においては合致しない可能性がある。不登校の増加に伴い、成果4における校内委員会も単なる情報提供の場となっているとのことも同様に想定を超えた状況の結果と言えるだろう。</p> <p>このとき、成果3の令和5年度以降の目標値は令和4年度を踏まえた設定となっているかには疑問が残る。新規の指標においては、初年度の結果を踏まえた次年度以降の目標値設定が必要である。さらに毎年5%低減させていく目標値の設定に明確な根拠が薄いように感じたが、目標値は単に慣例的に低減させればよいわけではなく、低減できうるだけの根拠が必要である。例えば、「新たな取り組み」、「専門職の増員」、また「担当の専門性の深化が結実した」等の根拠が必要である。このように捉えれば戦略2における全ての成果と活動に対する目標設定は根拠のなさがかげらる。</p> <p>但し、教育相談側は、そもそも児童・生徒全体を支援しているわけではないことから、結果としての新規で増える「無気力・不安」のある児童・生徒等を予想していくことに限界がある。だとすれば、新規追加指標は前年度、それ以外は2~3年度の平均値等を踏まえた目標値が妥当ではないだろうか。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取り組みは、戦略の方向性に合致する事項であると思われる。これには、不登校児童・生徒だけでなく、その傾向がある児童・生徒まで対象となる取り組みが示されているからである。一方で、戦略1とも関わるが、各成果の根拠となる活動の設定については再度、吟味する必要がある。例えば、成果1~3については、活動1~13の全てが相まった結果と言えるのではないだろうか。</p> <p>また活動1にあるように「不登校対応マニュアル」に基づき100%対応されているにも拘らず、成果への因果関係がわかりづらい点については一度吟味いただくほうがよいかもしれない。とはいえ、活動1の「課題」や「今後の予定・方向性」より、いかにマニュアルを充実させていくかが学校現場に求められるとするならば、その情報が学校に伝わっているか、また吸い上げ方等の定期的な情報伝達が必要である。</p> <p>このとき、マニュアル100%達成の強みを活かし、活動7における長期欠席者の引継ぎを小学校から中学校にするという項目をマニュアルに記述することで、活動7の目標設定を100%にする価値が出てくるのではないだろうか。そもそも活動7の引継ぎが100%できていることは必須であろう、またはそうなるよう目標設定すべきである。その目標を所管が100%にしていな、その児童・生徒に対する支援の質の不公平性については他の指標と異なり、重く受け止めてほしい。なお活動6は児童・生徒全体に対する長期欠席児童・生徒数の割合を減らしていくという目標値のほうが妥当ではないだろうか。</p> <p>活動11では、「指標分析」にて「通級できるまで時間が掛かるケースも多い」との指摘があるが、だからこそそクラス担任等での対応は困難であり、教育相談事業の価値があるのだと考える。また「課題」にある安定した通級につながらない児童・生徒においては、通級以外の学習保障を検討するのも一つであろうし、この他の要因の理解を踏まえた働きかけが求められる可能性もある。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      本評価は、実際の不登校となった児童・生徒やその保護者の方々がそのように思う支援がなされているか判断されるべきものであるため、評価は困難である。しかし、上述までに改善すべき点が挙がっているとすれば、まだまだ所管が真に迫るためにすべきことはあると考える。</p> <p>この他、上記で挙がっていない事項として、単一的に捉えている不登校児童・生徒の「無気力・不安」の要因は何か、その情報の集積も必要であろう。「無気力・不安」の要因は様々であるとヒアリングで回答されたが、様々な状況に対応できているのがベテランだという指摘もあった。真に効果的かどうかは、児童・生徒や不登校の子を持つ保護者にいかに寄り添えているかにも関わることから、様々な要因の詳細や傾向についても捉え、人材育成につなげていく必要があるだろう。</p>	<p>年度毎に変わり得る子どもたちの状況を予測する本戦略の「成果の予測」は困難であり、単純にその達成の有無だけを批判することに意味はない。日々のそれぞれの活動を丁寧に試みるだけでも大いに価値や意義があると思われる。</p> <p>上記を踏まえた上で、全体評価で示したような成果の根拠となる活動の吟味、成果や活動に対する妥当な目標設定の検討、そもそも適切な成果の検討が求められる。さらに、これは戦略同士をつなげる設定であってもよいかもしれない。例えば、戦略1では、不登校の改善がその成果指標として定められていた。そのため、戦略2では、支援開始前と開始後での児童・生徒が「他者と会話した時間数の差や割合」、「登校日数の差や割合」(一例)など改善を捉える指標を追加してよいかもしれない。</p> <p>またさらに上記の目標設定については、活動の自己評価のあり方についても吟味いただきたい。そもそも何%達成を目指しているのかわからない。例えば、目標達成が132%で活動12はB+評価となっている。つまり100%を超えてもAとならないのである。適正な評価概念が定められているのか疑問に思われる。100%を目指すのでないならば、本来目指す数値を目標値にする必要があるのではないだろうか。もちろん予測できない点から間違った目標設定だったならば自己評価を低くすることはあり得るだろうが、担当課に対する適正な評価になっているのか心配である。外部評価基準との乖離があることから、現場の頑張りを反映できる評価基準となしてほしい。</p> <p>なお本評価に関わる時間が確保されていないことから、吟味されていないことがあるならば、ぜひ働き方改革を通じ、本来あるべき事業運用を検討できるようにしていただきたい。</p>								
<b>全体評価レーダーチャート</b>									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th style="width: 25%;">【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th style="width: 25%;">【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th style="width: 25%;">【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">5</td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">4</td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">5</td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">5</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	4	5	5
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	4	5	5						



第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	支援管理課
戦略3	切れ目のない特別支援教育の推進		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果1	支援管理課	就学相談が完結した割合<小学校入学、小・中学校>	%	実績値	99	99	99	99		
				目標値	-	99.2	99	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	99%	-	-
成果2	支援管理課	こども支援センターげんきで発達相談を受けた児童のうち、関係機関と連携できた割合<就学前>(令和4年度目標値変更指標)	%	実績値	90	97	98	98		
				目標値	-	91.3	98	98	98	99
				達成率	-	106%	100%	100%	-	-
成果3	支援管理課	発達支援児の行動上の課題が軽減又は現状維持したと判定された児童の割合【支援軽減・維持人数/継続支援児数】<就学前>(令和4年度目標値変更指標)	%	実績値	89	95	96	97		
				目標値	-	90	95	96	97	97
				達成率	-	106%	101%	101%	-	-
成果4	支援管理課	特別支援教室での指導により困り感が改善(退室)した児童・生徒の割合	%	実績値	5.8	7.1	9.1	12.9		
				目標値	-	6.5	7.5	9.5	13	10
				達成率	-	109%	121%	136%	-	-
成果5	支援管理課	ペアレント・メンター(発達障がい特性のある子の育児経験がある保護者)による相談件数のうち、2回以上相談にかかっているリピーターの割合	%	実績値	68	59	85	75.9		
				目標値	-	69.2	72	85	75	75
				達成率	-	85%	118%	89%	-	-
成果6	支援管理課	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を実践している教員の割合	%	実績値	-	0	70	80		
				目標値	-	-	70	80	90	100
				達成率	-	-	100%	100%	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

めざす方向性	心身の発達に支援を必要とする子どもたちに、早い時期から発達段階に応じた支援を行うため、「気づく」「つなぐ」「支える」の3つの視点から、関係機関同士の連携を図り、一人ひとりの成長や生活環境に応じた切れ目のない相談・支援を強化していきます。
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
就学相談の申込み件数は1,137件で、うち完結した件数は1,135件となった。未完結の2件については、申し込みが遅く保護者の迷いなどもあったため検査などが進まず相談継続となった。	<p>【課題】 1,000件を超える相談へ対応するために必要な相談員や医師などの人員体制の確保。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き学校や関係機関と連携し、円滑に判定を行い適正な就学へつなげていく。</p>
来所相談時以降もフォロー電話を定期的に行っており、保護者の不安軽減に努めたことで適切な支援機関につなげることができた。保護者の同意のもと関係機関と連携を図ることで、アドバイスを活かしてもらうことができた。	<p>【課題】 相談件数が増加しているため、人員の確保を検討し相談体制を充実していく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 来所時以降のフォロー電話相談についても、職員体制を整え丁寧な支援をしていく。</p>
保育者と専門職(心理士・作業療法士)と連携し、児童の発達特性に応じた対応を行ったので、問題行動の軽減につながった。令和4年度途中から担当課(こども施設運営課就学前教育推進担当)と連携し、専門性を活かした支援を行っている。	<p>【課題】 専門職派遣の回数に限りがあり、担当課と連携をとりフォロー体制を構築していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度も担当課と連携し、専門性を活かした支援を継続する。</p>
利用児童・生徒数 2554名。 困り感の改善により退出した児童・生徒数 330名。	<p>【課題】 東京都教育委員会の要請により、通級指導教室の利用を1年ごとに見直す必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 退出の基準を明確にしていく。</p>
発達障がい特性のある子を育てた保護者からアドバイスを受けることで、身近で具体性があり相談のしやすさがピーターにつながっている。	<p>【課題】 相談支援機関と連携していくことで、より相談者が支援につながりやすくなる。</p> <p>【今後の予定・方向性】 関係機関と検討していく。</p>
区の特別支援教育研修でユニバーサルデザインを学んだ受講生が、学んだことを校内の教員へ還元するため、校内研修会を開催した。校内研修を受けた各教員はそれぞれ受け持ちの教室においてユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を実践できた。	<p>【課題】 教員の力量によりユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導に差が生じるため、一人ひとりの教員の指導力向上が課題である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 区の研修会をととして、教員がより理解して実践にうつせるよう、具体的な実践事例を多く紹介する。そして、ユニバーサルデザインのイメージをもてるようにし、各校の実践に生かしていく。</p>

## 第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

### 戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
成果 7	支援管理課	特別支援教室利用の児童・生徒のうち、教室環境の改善を図ることで、困難さが軽減されたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	29.5		
				目標値	-	-	-	80	80	100
				達成率	-	-	-	37%	-	-
成果 8	支援管理課	個別学習において、学力に応じたICTの学習支援を受け、主体的に学習に取り組めたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	24.9		
				目標値	-	-	-	30	35	50
				達成率	-	-	-	83%	-	-
成果 9	支援管理課	ICTを活用し、読み・書きの困難さに応じた学習支援を受け、積極的に授業に参加できたと感じた児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	44.2		
				目標値	-	-	-	25	50	65
				達成率	-	-	-	177%	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>区立小中学校において教室環境の改善を図る実践は進めているものの、実際に困難さが軽減されたと感じた児童は3割程であった。ユニバーサルデザインの取組が形式的なものになっている可能性があるため、より児童・生徒の特性にあわせた効果的な実践につながるようにする必要がある。</p>	<p>【課題】 児童・生徒の発達課題に即した環境整備に至っていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 児童・生徒の特性に合わせた効果的な教室環境づくりを行えるように、ユニバーサルデザインに関する知識や実践方法については、研修会で実践的な例を提示するなど、より学校現場に即した指導・助言を行えるように進めていく。</p>
<p>区立小中学校において、ICTを活用した学習支援を進めているが、児童・生徒が主体的に学習に取り組めるようにするためには課題が残る結果である。教員がICTを活用する場面をしっかりと事前に検討し、明確な意図をもって学習支援を行う必要がある。</p>	<p>【課題】 児童・生徒が主体的に学習に取り組めるためのICT活用について、十分な検討がなされておらず、効果的な指導につながっていない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 研修会で具体的な実践例を示したり、指導主事が学校訪問を行い教員の指導方法について助言を行ったりし、教員の指導力を高めていく。</p>
<p>読み・書きに困難さを感じている児童・生徒にとって、ICTの活用は効果的であった。視覚的・聴覚的にも、ICTを積極的に活用することは今後も継続していく必要がある。</p>	<p>【課題】 ICTを活用しても積極的に授業に参加できない児童・生徒に対しては、具体的なICTの指導方法を検討する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 研修会で具体的な実践例を示したり、指導主事が学校訪問を行い教員の指導方法について助言を行ったりし、教員の指導力を高めていく。</p>

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	支援管理課	「心理相談」「発達相談」「出張相談」の件数	件	実績値	2,226	2,236	2,346	2,399		
				目標値	-	2,272	2,250	2,420	2,400	2,500
				達成率	-	98%	104%	99%	-	-
活動2	支援管理課	子育てサロンへの出張講座の開催【参加者(組)】(令和元年度新規事業)	回	実績値	-	0	0	10		
				目標値	-	-	10	10	10	24
				達成率	-	-	0%	100%	-	-
			組	実績値	-	0	0	95		
				目標値	-	-	70	70	100	140
				達成率	-	-	0%	136%	-	-
活動3	支援管理課	「4歳の気づきのしくみ」の実施園の割合(対象園:認可保育所・区立認定こども園)	%	実績値	70	65.4	70.7	73.1		
				目標値	-	73.3	67	75	77	90
				達成率	-	89%	106%	97%	-	-
活動4	支援管理課	チューリップシート(就学支援シート)の提出率	%	実績値	67	97.9	100	100		
				目標値	-	72.5	100	100	100	100
				達成率	-	135%	100%	100%	-	-
活動5	支援管理課	発達支援委員会で特別支援を要すると判定された3~5歳児のうち、「園生活支援シート(個別支援計画)」を作成した割合(令和2年度より算定)	%	実績値	-	46	47	78		
				目標値	-	-	49	75	80	100
				達成率	-	-	96%	104%	-	-
活動6	支援管理課	就学移行プログラムの実施小学校数	校	実績値	3	7	0			
				目標値	-	7	7			67
				達成率	-	100%	0%	-	-	-
活動7	支援管理課	就学支援委員会の実施回数	回	実績値	30	22	20	27		
				目標値	-	30	20	24	27	30
				達成率	-	73%	100%	113%	-	-



施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>感染症の緩和により園・学校への訪問支援件数が伸びた。保健センターの健診再開に伴い子ども相談を希望する保護者が増え、発達特性に気づき、げんきの相談受理件数が増加した。</p>	<p>【課題】 げんきへの相談件数の増加に伴う予約待ちの期間を解消していく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 保健センターや学校の相談室を利用し、出張相談の回数を増やしていく。</p>	1	C
<p>感染症の緩和により子育てサロンへの出張を予定通り行うことができた。音楽療法士による音あそびを通して、保護者に児童との関わり方を学ぶ機会を設けることができた。</p>	<p>【課題】 出張できる回数が限られているため、担当課(住区推進課)と調整しながら開催するサロンを検討していく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度も2か所のサロン(千住大橋・関原)で開催予定。</p>	2	B+
<p>実施園については、児童について園との共有や保護者への気づきに繋がらなかった。私立園は希望制のため全園実施できていない。</p>	<p>【課題】 私立保育園に気づきのしくみの効果も理解していただき、実施園を増やしていくことが課題である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度の私立園の追加協力園は7園。引き続き、園長会での説明、マニュアル配布、必要に応じて訪問時に心理士から説明するなど啓発を図る。</p>	3	C
<p>「支援」の文言を削除し、全員提出を明記して以降、保護者の抵抗感がなくなり提出に対する苦情もなくなった。ホームページからもダウンロードできるようにしたため、シートをなくした保護者も提出しやすくなった。</p>	<p>【課題】 就学先での活用状況を確認し、必要に応じて活用方法のフォローをしていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 今後も保護者や学校からご意見をいただき、必要に応じて内容等を検討していく。</p>	4	B
<p>園に対して個別支援計画についての研修を行い、訪問時に専門職が計画内容の確認・助言をしている。専門職の訪問回数も限りがあり助言後のフォローにうかがうことができていない状況である。</p>	<p>【課題】 計画内容の確認・助言後の取り組みについて、フォロー体制を検討していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 担当課(子ども施設運営課就学前教育推進担当)とフォロー内容の共有を密にしていく。必要に応じ専門職の追加派遣も検討していく。</p>	5	B
<p>感染症の影響により、小学校での開催が難しくなったことを受け、R4年度は保育園2園での実施に移行した。事前に就学に向けてスキル(話を最後まで聞く、わからないことを質問する等)を身に付けられるようなプログラムを実施した。</p>	<p>【課題】 就学移行プログラムを実施する保育園を広げていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 R5年度は保育園5園にて実施予定。</p>	6	
<p>就学相談件数が多く一回で審議できなかった場合や年度末など急ぎの場合に臨時会を開催した結果、予定回数を上回った。</p>	<p>【課題】 臨時会の場合、委員の出席調整が困難なため少人数での略式審議となった。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き円滑に委員会を開催し、適正な就学につなげる。</p>	7	B

## 第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動8	支援管理課	特別支援学級(固定学級)の設置校数	校	実績値	29	29	30	30		
				目標値	-	29	30	30	30	30
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動9	支援管理課	特別支援教室(コミュニケーションの教室)の設置校数	校	実績値	81	104	104	103		
				目標値	-	104	104	103	102	102
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動10	支援管理課	スクールアシスタントの配置申請に基づき、スクールアシスタントを配置することができた子どもの割合(令和3年度指標名変更)	%	実績値	93	94.6	97.8	92		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	95%	98%	92%	-	-
活動11	支援管理課	ペアレント・メンターによる相談件数【利用者数】	件	実績値	103	99	87	90		
				目標値	-	106	108	90	100	120
				達成率	-	94%	81%	100%	-	-
			人	実績値	52	128	130	143		
				目標値	-	69	140	140	145	156
				達成率	-	185%	93%	102%	-	-
活動12	支援管理課	特別支援に係る研修会に参加した学校の割合(令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	85		
				目標値	-	-	-	90	90	100
				達成率	-	-	-	94%	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
令和4年度は小学校20校、中学校10校に設置している。	<p>【課題】 定員により希望校に入級できない児童・生徒がいる。</p> <p>【今後の予定・方向性】 地域的な需要を総合的に判断し必要があれば新設等の検討をしていく。</p>	8	B
江北小学校と高野小学校が統合したため、令和4年度は103校に設置(全校設置)。	<p>【課題】 教員配置は区全体の児童・生徒数に対応しており学校によっては教員1名配置できなくなる状況がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 経験の浅い担当教員に対して、学びの場(研修等)を提供し指導方法に苦慮しない環境を整えていく必要がある。</p>	9	B
特別な支援が必要な児童・生徒が増えているため、学校から対応に苦慮する相談が増加している。それに比例するようにスクールアシスタントの配置申請も増えている。	<p>【課題】 スクールアシスタントに対し、発達特性に応じたかわり方の理解を促す必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 スクールアシスタント向けに研修動画を作成し、業務内容の理解につなげていく。</p>	10	C
相談件数・人数は多少増加傾向にある。発達特性のあるお子さんを育てた経験者からのアドバイスを受けられるため、身近に相談しやすい環境である。	<p>【課題】 学校を含める支援機関及び区民の方に広く周知していく必要がある。相談拠点へ通いにくい方も多いため、アウトリーチを増やしていく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 校長会やSSWの研修会などで事業周知していく。令和5年度はげんきでの相談を月1回程度行い、他にも相談場所を検討していく。</p>	11	B
特別支援教育に係る研修会については、原則各校1名の教員が参加しているが、児童・生徒の対応や学校行事の関係等の校内事情により急遽研修を欠席される教員がいたものの、概ね研修に参加できていた。	<p>【課題】 研修当日に急な対応が入ると研修に参加できない状況がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 研修は各校1名の教員を参加させ、対象者が参加できない場合は、別の教員が参加できるように促していく。</p>	12	B

## 第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動 1 3	支援管理課	個別学習において、学力に応じたICTの学習支援を受けた対象児童・生徒の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	33		
				目標値	-	-	-	40	60	90
				達成率	-	-	-	83%	-	-
活動 1 4	支援管理課	ICTを活用し、読み・書きの困難さに応じた学習支援を受けた対象児童・生徒の割合 (令和4年度追加指標)	%	実績値	-	-	-	57		
				目標値	-	-	-	50	70	90
				達成率	-	-	-	114%	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>特別支援教室や特別支援学級において、ICTの学習支援を受けている児童・生徒は3割程であった。児童・生徒の発達特性や指導内容に応じて、今後もICTを活用して児童・生徒にとって効果的な学習支援を行う必要がある。</p>	<p>【課題】 児童・生徒にとって、ICTの学習支援が効果的であるかどうか、しっかりとアセスメントを行い、効果的な支援を実践していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 児童・生徒や保護者の願いを受け止め、発達課題の克服のために必要なICTによる学習支援を展開できるよう、研修会や指導主事の学校訪問による助言を行う。</p>	13	C-
<p>読み・書きに困難さを感じている6割弱の児童・生徒が、ICTを活用した学習支援を受けている。目標値は越えているものの、さらにICTを活用した効果的な支援が広がっていきけるようにする必要がある。</p>	<p>【課題】 読み・書きの困難さを感じている児童・生徒に対するきめ細かな支援策を講じる必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 デージー教科書の活用など、区立小中学校においてよりICTを活用していきけるよう、研修会や指導主事の学校訪問による助言を行う。</p>	14	B

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略3 切れ目のない特別支援教育の推進

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      概ね目標達成しており、所管における実際の取り組みへの次なる方向性(展望)もあり、今後に期待できる状況と思われる。とくに目標設定は、事業運用等の成熟度等も踏まえられており、無理なく段階的であり、現実的である。                      なお成果5では、育児経験のある方に相談の受け皿となっていた一方で、相談者と支援機関をつなぐ機能は担当課が担うという配慮のある方向性であった。このような配慮のある視点が戦略3では多く、目標達成すべく行政側の住民の福祉向上の気概を感じるほどであった。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      戦略の方向性としては各成果や活動は合致したと思われるが、とりわけ施策にある“不登校児など”の“など”に着目した戦略とも捉えられる。そのため、そこには、小1プロブレムや中1ギャップから不登校への予防を意識した取り組みでもありと解釈も可能であるが施策3を超えた枠組みにも思える。                      成果1において、概ね目標達成しており、所管における実際の取り組みへの次なる方向性もあり、今後に期待できる状況と思われる。一方で、成果1では、目標100%達成できない理由が示されていたが、“めざす方向性”にある通り、“一人ひとりの成長や生活環境に応じた”対応をするのであれば、保護者の迷いに寄り添うことも重要なあり方であり、完結することだけが成果ではないはずである。そうであるならば、これまでを踏まえ、目標値は99%くらいにするほうが妥当ではないだろうか。                      また成果7では、教室環境の改善においてチェックリストを用いて初任教員等でもユニバーサルな視点を実践できる点は評価できる。一方で、“課題と今後の予定、方向性”では、児童・生徒の発達課題に即した環境整備に至っていないとある。本成果は児童・生徒が困難さを感じたかどうかを問う指標であるものの、目の前の児童・生徒に環境整備の工夫について配慮されているかの確認をしていない点があるとのこと、基礎的環境整備であっても合理的配慮のような工夫の効果を捉えるならば、その場にいる子ども達の意見を吸い上げていく視点は必要である。そもその“めざす方向性”との乖離がある成果指標構造となっている。また成果7の教室環境の改善には、スクールアシスタントそのものが教室環境改善に関与しないとのことだった。成果7の一つの根拠となるのが活動10のスクールアシスタントの配置割合である。この因果関係がどのように成果に寄与しているかがわかりにくいので、再度、吟味してもよいだろう。例えば、スクールアシスタントだからこそ理解できる教室環境への意見をときに吸いあげてもよいのではないだろうか。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      成果や活動の内容は、それぞれ吟味されており、所管ができる限りのことをしているように感じた。例えば、成果8では、ICT化が進み、学習や発達に課題がある児童・生徒へのICT活用が一般化されつつあるが、必ずしもICTが適する児童・生徒ばかりではない。だからこそ、ICTを活用する教員側が明確な意図を持つことや意図を検討をしていくことが必要であるという担当課の認識は、子どもに寄り添おうとする教育のあるべき方向性のように感じられた。とくにICT技術操作に着目するだけでなく、ヒアリングより、そもその子ども達の気持ちの尊重(理解)も大事であるという視点は“めざす方向性”に合致する視点と考える。さらに教員側のICT活用技術の成熟度を踏まえた目標値の上昇は担当課の気概を垣間見れる点でもあった。                      一方で、成果3では、支援回数に限りが、活動1では、相談への予約待ち期間の長さがあり、早期の対応が求められるケースにおいては一律に決定されるべきではないだろう。予約待ち期間の短期化も当然目指すべきではあるが、まずは柔軟な体制整備へ尽力いただきたい。</p>	<p>全体評価で示したが担当課における戦略におけるあり方は、子ども達等を支える重要な視点であり、ぜひそれによる成果や活動の維持・向上を目指していただきたい。これに関り、マニュアルや技術に頼り過ぎて目の前の子ども達の声を無視してしまわないよう、本来の教育や支援のあり方とは何か、絶えず涵養する機会を関係者が持てるようにしていただきたい。ここには、特別支援教育は、合理的配慮が一つのコンセプトになることがあるが、配慮する側、される側という“特別性”を超えるような関係性づくりや(人権的・ノーマライゼーション的な)学校環境・社会環境づくりの涵養も含まれること、さらに義務教育後のつなぎも含めた区民を支える視点も含まれることを願う。</p>								
全体評価レーダーチャート									
<p style="text-align: right; border: 1px dashed black; padding: 5px;">全体評価 <b>B</b></p>									
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th style="width: 25%;">【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th style="width: 25%;">【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th style="width: 25%;">【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: 2em;">6</td> <td style="font-size: 2em;">4</td> <td style="font-size: 2em;">4</td> <td style="font-size: 2em;">4</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	6	4	4	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
6	4	4	4						



第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略4 いじめの早期発見・早期対応

施策3	不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実	記入所属	教育指導課
戦略4	いじめの早期発見・早期対応		

戦略の達成度を測る成果指標

成果	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
成果1	1	教育指導課	いじめに関するアンケートで「相談できる人がいる」に肯定的な回答をした小・中学生の割合 ※2月実施	%	実績値	99.3	98.6	99.6	98.1	99.4	97.9	99.6	98.4	/	/	/	/
					目標値	-	-	99.4	98.8	99.7	98.6	99.8	98.8	99.9	99.9	100	100
					達成率	-	-	100%	99%	100%	99%	99%	99%	-	-	-	-
成果2	2	教育指導課	小・中学校におけるいじめの解消率	%	実績値	67.8	75.5	77	77.4	83.8	84.9	74.5	79.6	/	/	/	/
					目標値	-	-	69	76.3	76.5	78	84	85	75	80	75	80
					達成率	-	-	112%	101%	110%	109%	89%	94%	-	-	-	-
成果3	3	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」に肯定的な回答をした小・中学生の割合	%	実績値	95.8	95.2	-	-	96.2	95.4	96.4	95.9	/	/	/	/
					目標値	-	-	96.5	96.0	96.8	96.7	97	97	98	98	100	100
					達成率	-	-	-	-	99%	99%	99%	99%	-	-	-	-



施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
戦略4 いじめの早期発見・早期対応

めざす方向性	いじめはどの学校でもどの子どもにも起こり得るとの認識の下、いじめに関する相談体制の充実や、学校と各関係機関における情報共有及び連携した対応により、いじめの早期発見・早期対応を図ります。
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>年度末にかけて「相談できる人がいる」の数値が大幅に向上した。</p> <p>傾向自体は、例年と変わらないが 新型コロナウイルス感染症の影響が多少和らぎ、教員及び児童・生徒同士の関わりが深くなった分、改善傾向が強まった。</p> <p>また、いじめに関するアンケートをタブレット端末を使用して実施できるようにもしたことで、指標がより正確なものとなった。</p>	<p><b>【課題】</b> 学校に登校できない、登校しているが周囲と信頼関係を築くことができない児童・生徒への支援。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 引き続き、学校での関わりを重視した取組を推進する。 加えて、周囲との信頼関係を築くことができない児童・生徒には、スクールカウンセラー等を活用してカウンセリング等の特別な支援を実施するとともに、タブレット端末を使用した支援を実施する。</p>
<p>目標値を下回った。いじめの報告件数が増加したことが前年度よりも解消率が低下した一因であると考ええる。</p> <p>また、教員も世代交代が進み、経験の浅い教員が増加していることで、事案の解消まで支援できないケースが散見される。</p> <p>さらに、いじめ等の事案が発生した際、保護者が十分な話し合いに応じず関係性を断つことで、家庭の協力を得ることが難しく、解消に至らないケースが増加していると考えられる。</p>	<p><b>【課題】</b> 若手教員の対応力の向上と、保護者と連携した対応。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 様々な事案について、若手教員と中堅以上の教員をペアもしくはチームにして対応を進めることで、若手教員の対応力の向上を図る。また、学校行事や学校公開等を通じて保護者との連携・交流を深め、保護者と信頼関係を築くとともに、学校との協力体制をより強固なものにしていく。</p>
<p>前年度から微増の結果となった。学校が、ふれあい月間や特別の教科 道徳等でいじめや、善悪の判断、親切・思いやり、友情・信頼等を丁寧に指導している結果である。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぎ、児童・生徒同士が関わり、信頼関係を構築することができていることも、周囲への配慮につながっていると考える。</p>	<p><b>【課題】</b> 道徳的価値観の理解が深まらない児童・生徒への指導。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 道徳的価値観の理解が深まらない児童・生徒については、発達特性があったり、家庭環境に課題があったりすると考えられる。 必要な児童・生徒に対しての特別支援教育のより一層の支援はもちろん、学校が核となって保護者同士のつながりを強めるとともに、道徳授業地区公開講座等を通じて保護者への啓発も進めていく。</p>

## 第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略4 いじめの早期発見・早期対応

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	教育指導課	いじめ相談(いじめ電話相談、ネット相談)受付件数	件	実績値	35	20	38	77		
				目標値	-	36	25	30	35	40
				達成率	-	56%	152%	257%	-	-
活動2	教育指導課	足立区いじめ等問題対策委員会の実施回数	回	実績値	3	3	3	3		
				目標値	-	3	3	3	3	3
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動3	教育指導課	「いじめ・自殺予防に関する研修会」への参加割合【受講対象者306人】(令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	103		
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	103%	-	-
活動4	教育指導課	教科等において、いじめ防止に関する指導を行う学校の割合(令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	100		
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	100%	-	-

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
戦略4 いじめの早期発見・早期対応

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>前年度と比較すると2倍の件数が寄せられた。新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者が学校に入る機会が減少し、教員等との信頼関係を築きにくい状況が続いていることが一因であると考えられる。</p> <p>また、過去3年間、コロナ禍により児童・生徒同士の関わりも少ない中で、教育活動が再開された下半期に相談が急増している。</p>	<p>【課題】 児童・生徒のソーシャルスキルの向上。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度は、制限が緩和され、前年度よりも教育活動が正常に戻る。それぞれの教育活動において、児童・生徒同士が発達の段階に合わせて関わる機会を意図的・計画的に設けることで、児童・生徒のソーシャルスキルを向上させる。</p>	1	A
<p>前年度と同様に3回実施し目標を達成した。</p> <p>課題と考えている「相談できる人がいない」児童・生徒への支援について助言を求め、委員からは児童・生徒の発達の段階に合わせた助言を得た。</p> <p>委員からは、小学校5年生と中学校2年生の肯定的な回答が少なくなるのは発達の段階から当然であるが、それぞれの最高学年に向けて、丁寧に対応し続けることの重要性を助言された。</p>	<p>【課題】 具体的な助言をもらうため、委員会への諮問内容の明確化が必要。</p> <p>【今後の予定・方向性】 委員会に諮問する内容をより具体化し、より具体的な助言を得ることで問題解決を図る必要がある。令和5年度は、「いじめ問題に関わる保護者対応」等を想定している。</p>	2	B
<p>令和4年度は、「いじめ防止研修会」を1回、「自殺防止研修会」を2回実施し、各校から1名以上を悉皆としたため、受講対象者306人に対して、315人の参加者であり、目標値を上回る結果となった。</p>	<p>【課題】 いじめ・自殺予防には、継続的な啓発が必要であり、令和5年度も令和4年度と同様の回数を実施する予定である。引き続き参加者を募っていく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 前年度と同様の形態で実施する。 学校のニーズを事前に情報収集し、学校の実態に沿った内容に改善していく。</p>	3	B
<p>令和4年度は、全ての区立小中学校103校において指導を実施したため、目標値を満たす結果となった。</p>	<p>【課題】 いじめ・自殺予防には、継続的な啓発が必要であり、引き続き各学校においていじめ防止に関する指導を徹底する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 日々の学校訪問や、いじめ防止研修会、道徳教育研修会等において、優れた実践を紹介するなどして各校での授業改善を図る。</p>	4	B

第2章 評価シート

施策3 不登校児など子どもの状況に応じた支援の充実  
 戦略4 いじめの早期発見・早期対応

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      本戦略は“重大事態”として扱われることもあり、重く受け止めるべき成果や活動であると思われる。結果として、成果2における小学生のいじめの解消率89%以外、成果達成率は94%以上であり、活動達成率においては全て100%を超えていた。教員の意識や担当課の展開の価値が示されたものと判断される。</p> <p>上記一部解消率が下がった成果2における“指標分析”や“課題と今後の予定、方向性”では、「経験の浅い教員への対応力の向上」等の具体的な取り組みが示されており、期待できる。本成果達成の困難な側面は、教育委員会や学校側だけの取り組みで必ずしも解消できるものではないことから、保護者間の連携・交流については時間を掛け取り組んでいただきたい。</p> <p>一方で、成果2の目標値はおおよそ前年度を踏まえた数値となっているが、報告件数と解消率が乖離する可能性がある中で、年度ごとに一喜一憂する設定のあり方については吟味してもよいだろう。例えば、過去2～3年間の解消率を踏まえた数値にすることも一つであろう。</p> <p>また活動1や2は、その件数の高低により成果に寄与するという判断に必ずしもつながるものではない。担当課ヒアリングでも「達成率以上に「受け付けたもの」、「報告を受けたもの」をいかに対応したかが重要である」とのことから、活動1では“継続的な相談ができてきているか”、または“関係機関とのつながりを持てたか”等、活動2では“新たな視点を得られたか”、または“新たな取り組みを行ったか、それを維持できているか”等の実質的な活動内容にてもよいのかもしれない。</p> <p>いずれにしろ、達成が“いじめの早期発見・早期対応”と必ずしも合致しない活動については一度吟味してもよいだろう。また活動3は、参加人数で目標値設定すれば、参加していない学校があったとしても達成率は高まってしまうことから参加学校数にて100%と設定したほうがよいだろう。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      本取り組みの解釈の難しい点は、成果同士の反比例の関係性があり得る点である。具体的には、成果1“相談できる人がいる”は「教員及び生徒同士の関りが深くなった分、改善傾向が強まった」ことが一つの要因とされるが、人と人との関係性が深まれば、成果2に関わるいじめの報告件数は増えることは想定できる。結果として、対応する人員側の限界もあることから解消率が抑えられてしまうこともあるだろう。しかも、成果3において100%に近い子ども達が「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」と判断しているのにそれがなくなることはないのだからである。</p> <p>これに関し、担当課のヒアリングにおいては、人権感覚を醸成する(成果の指標分析の言葉としては、「信頼関係構築」や「周囲への配慮」)という方向性(方針)を聞くことができた。これは多様な人々が共生する地域社会の営みにおいても求められる感覚であり、重要な方向性と思われる。このような意識が解消へ結ぶまでには時間が掛かるだろう。だからこそ、まず「いじめがいけないことだと思う」という意識が醸成されていた結果は、日々の教育の成果が示された事項と言えないだろうか。なお成果3の根拠となる活動2においては、因果関係を捉えにくい点があるため、再度、関係性を吟味してもよいだろう。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      真に効果的かどうかは、本成果や活動だけを捉えれば明確に示すことは困難である。この理由には、成果の根拠となる活動を含め、戦略に対して間接的に関与する内容が多いからである。現在の指標では、最終的に解消の有無に焦点を当てた提示となってしまいかねない。</p> <p>具体的には、どの成果や活動においても戦略4としての“いじめの早期発見”や“いじめの早期対応”について直接問うものがない。そのため、どのくらいの早期発見や早期対応ができてきているのか具体的な指標(活動等)を加えること、研修参加等による“いじめの理解や認知の差”を捉えること、さらにそれぞれの指標の因果関係等を踏まえ、早期発見や対応のモデルを予測していくことも一つであろう。</p>	<p>全体評価で指摘したようにそれぞれの事項を検討いただくことで、より戦略の達成に資する取り組みになることを期待する。また協力関係を得ることの難しい保護者に対しては、保護者側の背景も踏まえ(尊重し)、ときに担当課だけで背負うことなく、第三者委員会等も活用しながら、子ども達の健全育成を支えていただきたいと願う。この他、活動に対する“所管の自己評価”では、外部評価基準に合わせて適正な評価となるよう一度検討いただきたい。</p> <p>ところで、本評価において、もう一つ評価したいと思えたのは、担当課の文章には表現されていない様々な現実的な認識や展望等である。それは単純に達成率では評価ができない点である。例えば、成果3にある保護者同士のつながりを強めるという点では、いじめを含めた人権意識を相互に醸成できるような関係性づくり等とのことだった。人権意識は、大人にも不可欠なものであり、地域社会として育むべき取組につながるものである。またいじめが起きた段階から担当課が学校側と関与する働きかけが生まれること、重大事態の報告後速やかに第三者委員会が開かれること等、担当課自体(学校の設置者として)の早期発見・早期対応への気概を大いに感じさせられた。</p> <p>これらから思われることは、そのような豊かな人権意識を持つ教員の育成の重要さである。温かな人権意識のある環境による大人や子どもとの相互作用が、結果として「夢や希望を信じていることができる」区や社会づくりへつながることを期待したい。</p>								
<p>全体評価レーダーチャート</p> <p>観点1: 7                  観点2: 6                  観点3: 6                  観点4: 4</p> <p style="text-align: right;">全体評価 <b>B+</b></p>									
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か		6	6	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
	6	6	4						

## 施策 4 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実

戦略 1 安全で環境に優しい施設整備	109
戦略 2 適正規模・適正配置	117
戦略 3 学校運営支援	121
戦略 4 就学環境の整備	129

▪

## 第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	学校ICT推進担当課 学校施設管理課
戦略1	安全で環境に優しい施設整備		

### 戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果1	学校施設管理課	令和2～6年度までの全体保全工事 予定校12校のうち、全体保全工事が 完了した学校の割合(令和2年度より 指標名変更)	%	実績値	-	0	42	67		
				目標値	-	-	50	58	75	100
				達成率	-	-	84%	116%	-	-
成果2	学校施設管理課	トイレ洋式化率	%	実績値	61	75.5	86.3	88.2		
				目標値	-	64.2	84.6	88.1	88.5	88.5
				達成率	-	118%	102%	100%	-	-
成果3	学校施設管理課	教室照明のLED化率	%	実績値	22.1	30.8	42.7	52		
				目標値	-	27.2	44.7	54.9	60.8	73.5
				達成率	-	113%	96%	95%	-	-
成果4	学校ICT推進担当課	普通教室・特別教室のうち、Wi-Fi環境 導入が完了した教室の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	83.1		
				目標値	-	-	-	83.1	100	100
				達成率	-	-	-	100%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略1 安全で環境に優しい施設整備

めざす方向性	改築による施設更新や保全工事による長寿命化、設備更新等を計画的に実施することにより、学習・防災機能の両面から快適で安全・安心な施設に整備していくとともに、照明や冷暖房等の設備機器の効率化などを通じて環境対策に取り組んでいきます。
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>令和4年度は、1校(鹿浜未来小学校)の新築工事が予定どおり完了した。</p> <p>また、令和3年度に全体保全工事完了を予定していた栗島小学校については、校庭改修工事が入札不調により遅れていたが、令和4年度に工事を完了した。</p> <p>さらに、令和5年度に全体保全工事完了を予定していた舎人小学校については、令和4年度に工事を完了し、目標値を上回る結果となった。</p>	<p><b>【課題】</b> 昭和40年代に建築された学校施設の更新時期が一定期間に集中していたため、更新費用の平準化を図るために「学校施設の個別計画」に基づき計画的に実施しているが、入札不調等により想定外の理由により計画に遅れが生じる可能性がある。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 「学校施設の個別計画」に基づき、計画的に工事を行っていくが、入札不調等により計画に遅れが生じた際には、学校運営への影響が最小限に抑えられるよう各所管と連携しながら、教育環境の向上を図っていく。</p>
<p>平成29年度より取り組みを開始したトイレ改修計画は、当初の目標である88.1%は、令和4年度にて達成している。実績値が目標を上回っている要因は、計画外であった箇所についても改修が行われたためである。</p>	<p><b>【課題】</b> 計画対象外であった校舎外トイレの洋式化に係る新たな計画を検討していく必要がある。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 更なる教育環境の向上を図るために、校舎外トイレの洋式化等について、検討を進めていく。</p>
<p>令和4年度末現在、全小学校67校中36校、全中学校35校中17校の教室LED化が完了し、実績値は52.0%(53/102)となっている。目標値を若干下回った事由は、他工事対応との兼ね合いによる工事延期によるものである。</p> <p>令和5年度には、小学校7校、中学校2校の教室照明LED化を予定、目標値は60.8%(62/102)の見込みとなり、全体の進捗状況は順調である。</p>	<p><b>【課題】</b> 環境に配慮した学校作りを推進していくために、引き続きLED化への対応が必要である。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 令和10年度までに、全小中学校のLED化を目標としている。計画に基づいて、引き続きLED化を推進し、学校施設における省エネルギー化を図っていく。</p>
<p>令和4年度はWi-Fi環境導入に必要なLAN配線工事を行い、Wi-Fiの導入自体は令和5年度に実施することとしたため、令和4年度の実績値は現状と同じ83.1%である。</p>	<p><b>【課題】</b> 1校あたり3日程度を要する作業ボリュームや、様々な教室の構造に対応した施工方法が課題となっている。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 進捗管理や施工方法の検討に重点を置きながら、令和5年度までに対象教室へのWi-Fi環境の導入を完了させる。</p>

## 第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	学校施設管理課	各年の保全工事対象校のうち、工事予定工程が完了した割合	%	実績値	100	0	89	117		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	0%	89%	117%	-	-
活動2	学校施設管理課	設備点検を実施した学校の割合	%	実績値	100	100	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動3	学校施設管理課	維持補修工事により安全を確保した学校の割合	%	実績値	100	100	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動4	学校施設管理課	体育館へのエアコン設置完了校の割合	%	実績値	1	100	100	100		
				目標値	-	17.5	-	-	-	100
				達成率	-	571%	-	-	-	-
活動5	学校施設管理課	トイレ改修対象校のうち、洋式化を完了した学校の割合 (平成30年度 32.8%＝22校/67校)	%	実績値	32.8	56.7	94	100		
				目標値	-	44	94	100	-	100
				達成率	-	129%	100%	100%	-	-



施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略1 安全で環境に優しい施設整備

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>令和4年度は、東綾瀬中学校の改築工事と鹿浜未来小学校新築工事に加え、北三谷小学校・舎人小学校・東加平小学校・西保木間小学校の保全工事を予定通り行うことができた。また、当初の計画では令和3年度に行う予定であった栗島小学校の保全工事を令和4年度に実施したため、実績値は目標値を上回る結果となった。</p>	<p>【課題】 令和3年3月に策定した「学校施設の個別計画」に基づいて、予定通り工事を実施していくことが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 計画通りに工事を実施し、学校運営が円滑に行われるように遺漏なく対応していく。</p>	1	B
<p>令和4年度は、改築に伴うリース仮設校舎を使用した東綾瀬中学校を除き、全小中学校の設備点検を実施し、実績値は100%であった。</p>	<p>【課題】 円滑な学校運営を実施するために、継続して設備点検を実施していくことが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 安心・安全な教育環境の維持・改善を図るために、全小中学校の設備について、問題なく作動するよう点検を実施し、不具合が発生した際には迅速に対応していく。</p>	2	B
<p>学校長権限による小破修繕を、学校配付予算にて実施することができた。また、学校長権限を超える修繕については、足立区施設営繕部の各課にて実施することができ、実績値は100%であった。</p>	<p>【課題】 児童・生徒の安全を図るために、設備の修繕が必要になった際に、迅速な対応が求められる。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き、設備の修繕については、学校や施設営繕部と連携しながら、学校の安全性確保に努めていく。</p>	3	B
<p>令和2年度中に既体育館エアコン設置校及び体育館エアコンが設置されているリース仮設校舎を除く、全ての小・中学校体育館へのエアコン設置が完了したため、実績値は100%となっている。</p>	<p>【課題】 機器の不具合等が発生した際に迅速な対応が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和2年度に全小・中学校への体育館エアコンの設置が完了しているため、今後は機器の不具合等に迅速に対応し、教育環境の維持に努めていく。</p>	4	B
<p>令和4年度に実施する計画であった対象校4校については、予定通り全校工事を実施することができ、実績値は100%となった。</p>	<p>【課題】 計画対象外であった校舎外トイレの洋式化に係る新たな計画が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 更なる教育環境の向上を図るために、校舎外トイレの洋式化等について、検討を進めていく。</p>	5	B

## 第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

### 成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動	6	学校施設管理課	太陽光発電装置の導入校数	校	実績値	17	17	20	21		
					目標値	-	18	20	21	21	22
					達成率	-	95%	100%	100%	-	-
活動	7	学校ICT推進担当課	各年のWi-Fi環境導入対象教室のうち、Wi-Fi環境導入が完了した教室の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	0		
					目標値	-	-	-	0	100	100
					達成率	-	-	-	-	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性		自己評価	
<p>令和4年度は、新築校1校(鹿浜未来小学校)に太陽光発電装置を予定通り設置し、実績値は目標値と同数となった。                      なお、令和5年度の目標値は、太陽光発電装置の設置予定計画はないため、令和4年度の目標値を同数を設定している。                      また、令和6年度の目標値には、改築予定である東綾瀬中学校を含め、22校としている。</p>	<p>【課題】                      環境に配慮した学校作りを推進するためには、太陽光発電装置の導入が必要である。</p>	6	B	
<p>令和4年度はWi-Fi環境導入に必要なLAN配線工事を行い、Wi-Fiの導入自体は令和5年度に実施することとしたため、令和4年度は追加導入がなく、実績値は0%である。</p>	<p>【今後の予定・方向性】                      環境に配慮した学校作りを推進するため、改築の際には、引き続き太陽光発電装置の導入を実施していく。</p>			
<p>令和4年度はWi-Fi環境導入に必要なLAN配線工事を行い、Wi-Fiの導入自体は令和5年度に実施することとしたため、令和4年度は追加導入がなく、実績値は0%である。</p>	<p>【課題】                      1校あたり3日程度を要する作業ボリュームや様々な教室の構造に対応した施工方法が課題となっている。</p>	7		
<p>令和4年度は追加導入がなく、実績値は0%である。</p>	<p>【今後の予定・方向性】                      進捗管理や施工方法の検討に重点を置きながら、令和5年度までに対象教室へのWi-Fi環境の導入を完了させる。</p>			

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略1 安全で環境に優しい施設整備

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【助言・今後の期待への反映率】</b>                      評価(助言)を積極的に反映した。(反映率:70%程度)                      計画どおり又は計画を前倒しするなど教育施設の整備が順調に進捗している。</p> <p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      優れた取組が多く、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。                      成果目標1は計画を前倒して令和4年度に完了し目標値を上回った。                      成果指標3は目標値をわずかに下回ったものの、他の工事との兼ね合いにより工事延期したものでほぼ達成していると考えられる。                      活動目標についてはすべて目標値を達成しており、順調に取組が進められていると評価できる。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため推進していく方がよい。                      計画的な施設更新、空調やトイレの洋式化、環境に配慮した学校づくりなどの施設整備は、環境対策に配慮しながら子どもたちが快適で安全・安心な環境の中で学習できるようにすることを目指しており、戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      優れた取組が多く、効果的である。                      施設更新、空調やトイレの洋式化、環境に配慮した学校づくりなどの施設整備は、子どもたちが快適で安全・安心な学習環境を保障することを目的としたもので順調に進捗していることから、子どもたちにとって効果的なものと評価できる。</p>	<p>環境対策に配慮しつつ、子どもたちが快適で安全・安心な環境の中で学習できるよう、施設更新、空調やトイレの整備など、計画的に教育施設の整備を進めてほしい。</p>								
全体評価レーダーチャート									
<p>観点1: 5                      観点2: 6                      観点3: 6                      観点4: 6</p> <p>全体評価 <b>B+</b></p>									
<table border="1"> <tr> <td>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</td> <td>【観点2】 目標・成果の達成状況</td> <td>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</td> <td>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </table>	【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	6	6	6	
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	6	6	6						



## 第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略2 適正規模・適正配置

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	学校施設管理課
戦略2	適正規模・適正配置		

### 戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果	1	学校施設管理課	全小・中学校に占める「適正規模校」の割合(令和3年度目標値変更指標)	%	実績値	64.4	62.5	58.7	59.2		
					目標値	-	64.7	62.5	64.1	64.4	66
					達成率	-	97%	94%	92%	-	-

### 成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動	1	学校施設管理課	統合地域協議会を隔月で開催した割合(令和4年度指標終了)	%	実績値	100	50	41.7	66.7		
					目標値	-	100	50	66.7	0	100
					達成率	-	50%	83%	100%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略2 適正規模・適正配置

めざす方向性	<p>義務教育という大切な時期に、適正な児童・生徒数の集団生活の中で、互いに認め合い、助け合い、競い合いながら成長できる教育環境を整えることが、人間力の育成と学力向上の両面において大切です。</p> <p>小・中学校の児童・生徒数を適正な規模にし、教育環境の向上を図る適正規模・適正配置事業を今後も計画的に推進していきます。</p>
--------	--

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>令和4年度には、統合により小学校1校を減じた他、中学校1校が生徒数増で適正規模になっている。適正規模校は前年度と同じ61校(小学校42校(△1)だが、適正規模校の割合は1校減ったことから、前年度より若干上昇したが、目標値の設定が実績値の上昇より高位となっているため達成率は低下している。</p> <p>小学校では児童数が適正規模の基準を下回る学校が増えており、学齢期人口の減少が影響しているものと考えられる。</p>	<p><b>【課題】</b> 学齢期人口が減少していることから、今後も小規模校に該当する学校の増加が想定される。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 適正規模・適正配置ガイドラインに基づき適正規模化を進め、教育環境の向上を図る。少人数学級制など国の動向を注視しながらも、今後のガイドライン改訂では、適正規模の拡充を目指し、学区再編を含めた検討を進める。</p>

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度、令和3年度は統合地域協議会の開催見合わせが続き、実績が目標値を下回った。令和4年度は、北鹿浜小と鹿浜西小の統合地域協議会を概ね予定どおり開催し、統合新校である鹿浜未来小学校の運用を開始した。</p>	<p><b>【課題】</b> 協議会設置当初は、校章、校歌など統合に関し様々な課題の検討を検討し意見統一を図る必要がある。</p> <p><b>【今後の予定・方向性】</b> 令和3年度は、新型コロナ対策で開催数を減じたため目標を下回ったが、令和4年度は開催数も目標を達成しており、予定どおり統合新校である鹿浜未来小学校の運用を開始した。</p>	1	B

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略2 適正規模・適正配置

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【助言・今後の期待への反映率】</b>                      評価(助言)を積極的に反映した。(反映率:70%程度)                      児童生徒数が減少する中、適正規模の維持に努めている。</p> <p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      優れた取組がいくつかあり、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。                      成果指標1は実績値は上昇したものの目標値を上げたことにより、わずかに目標値を下回った。小学校の児童数の減などにより適正規模を維持することが難しくなっている面がみられる。                      活動目標1については、令和4年度に統合地域協議会が概ね予定どおり開催されたことで目標値を達成している。                      成果指標1及び活動指標1から、順調に取組が進められていると考える。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため推進していく方がよい。                      学校は一定の規模の児童・生徒の集団が確保されていることが望ましく、小・中学校を適正な規模で配置することが求められる。                      適正規模の配置に向けて統合地域協議会において協議が進められ新校の開設につながるなど、戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      優れた取組がいくつかあり、効果的である。                      適正な規模の児童・生徒数の中で教育活動が行われるよう、学校の適正規模・適正配置が概ね順調に進められており、子どもたちにとって効果的なものと評価できる。</p>	<p>小・中学校を適正な規模に維持することは重要であるものの、学齢期の児童・生徒数や地域の人口が流動化していく中で難しい取組でもある。                      このような状況を踏まえ、適正規模には長期的にみた児童生徒数の変動や近隣住民のニーズ等を踏まえながら、今後とも丁寧な対応が望まれる。</p>								
全体評価レーダーチャート									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </tbody> </table>	【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	5	6	5	
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	5	6	5						





第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略3 学校運営支援

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	教育政策課 学力定着推進課 教育指導課 学校支援課
戦略3	学校運営支援		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果1	学校支援課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「今住んでいる地域に貢献できるような大人になりたい」に肯定的な回答をした小・中学生の割合(令和元年度より実施)	%	実績値	-	R1:63.4	65.2	66		
				目標値	-	-	65	67	69	70
				達成率	-	-	100%	99%	-	-
成果2	教育指導課 学校支援課	教員の1年間の在校等時間の総時間から東京都条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間以下である教員の割合(「足立区立学校における教員の働き方改革実施方針」に基づく)	%	実績値	-	42.5	44.1	39.9		
				目標値	-	-	54	56	59	100
				達成率	-	-	82%	71%	-	-
成果3	教育政策課	小学生一人あたりの本の年間貸出数	冊	実績値	30	39.7	40.7	45.2		
				目標値	-	31	33	34	35	36
				達成率	-	128%	123%	133%	-	-
成果4	教育政策課	中学生の学校図書館の利用割合(1ヶ月の延べ利用者数÷生徒数)	%	実績値	141	97.6	85.7	112.2		
				目標値	-	146	116	130	150	170
				達成率	-	67%	74%	86%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略3 学校運営支援

めざす方向性	<p>児童・生徒を取りまく教育環境を整え、山積する教育課題を解決し、今後の厳しい社会を生き抜く力を児童・生徒に育むためには、学校と家庭、地域、行政が相互に連携・協働し、児童・生徒の教育活動の充実に努めていく必要があります。</p> <p>一方、教員の働き方改革や業務改善、勤務時間管理の徹底を進め、教員が子どもと向き合う時間の確保に向けた取り組みも不可欠です。</p> <p>児童・生徒がより豊かで充実した学校生活を送れるよう、より効率的で効果的な学校運営の実現に向けた施策を展開していきます。</p>
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>令和4年度調査結果によると小5から中3で肯定的な回答をした割合は66.0%であり、前年度実績値より0.8ポイント上昇している。</p> <p>また肯定的な回答をした割合の内訳は小学校71.6%、中学校62.3%であり、ともに前年度実績値より0.4ポイント、1.8ポイント上昇している。</p> <p>これはあいさつ運動や花壇作りなど、様々な協議会活動などを通じて、子どもたちに地域と学校に貢献する姿を見せ続けた結果と考えられる。学年が高くなるほど肯定的な回答をした割合が低くなっている。</p>	<p>【課題】 前年度と比較して肯定的な回答をした割合の傾斜は緩やかに なっているが、学年が高くなるほど肯定的な回答をした割合は低 くなる傾向が引き続きある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 開かれた学校づくり協議会の活動支援やコミュニティ・スкуль の設置拡大に継続して取り組むことで、子どもたちが学年を問わ ず、地域の方々の献身的な活動に触れる機会を増やしていく。</p>
<p>新型コロナウイルスが落ち着き、学校現場も新型コロナウイル ス前に戻りつつあるが、業務量は通常時に加え新型コロナウイル ス感染症対策や新型コロナウイルスに感染した教職員の代 替業務等により増大しており、前年度実績値より悪化した。</p>	<p>【課題】 DX化などによる教職員の業務量削減が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 安全衛生会議等を通じ各学校へ、教職員への時間外勤務削減 の意識向上を図っていくとともに、DX化の推進等により、教職員の 業務負担軽減策を模索する。</p>
<p>目標を上回った。新型コロナウイルス感染症対策が緩和され た中で、図書館支援員を中心とした読書活動推進に向けた取 組みにより、前年度よりもさらに貸出冊数を伸ばすことが出来 た。</p>	<p>【課題】 貸出冊数は伸びている一方、読書が好きな児童の割合は、令 和4年度68.2%と全国平均73.1%を4.9ポイント下回っており、低い 傾向にあるため、読書に親しみをもてるような取組みが必要であ る。</p> <p>【今後の予定・方向性】 読書が好きな子どもたちを増やしていくため、学校に対して図書 館支援員の積極的な活用を促すとともに、新たに配置した学校図 書館スーパーバイザーによる図書館の利活用支援を進めていく。</p>
<p>目標を下回った。前年度よりは実績値は増加したものの、新 型コロナウイルス感染症の流行前の実績までは利用が回復し ていない状況である。</p>	<p>【課題】 ほとんど読書をしない生徒が3割近くいるため、学校図書館が魅 力ある利用したくなるような場所となるよう、環境の整備や工夫が 必要。</p> <p>【今後の予定・方向性】 学校図書館スーパーバイザーの巡回や研修会・地区別連絡会 の実施により、学校司書へのサポートを充実させ、学校図書館の 環境整備につなげる。あわせて、教員に対しても研修会の実施や 好事例等の情報発信等により、学校図書館利活用促進に向けた 支援を行う。</p>

## 第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略3 学校運営支援

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動1	学校支援課	開かれた学校づくり協議会主催・共催事業の実施回数	回	実績値	2,601	1,007	369	539		
				目標値	-	2,668	1,600	1,600	3,000	3,000
				達成率	-	38%	23%	34%	-	-
活動2	学校支援課	開かれた学校づくり協議会型コミュニティ・スクールの設置校数 (令和3年度目標値変更指標)	校	実績値	10	12	13	13		
				目標値	-	11	14	14	15	17
				達成率	-	109%	93%	93%	-	-
活動3	学力定着推進課	学校経営計画のヒアリング実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	50	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	50%	100%	100%	-	-
活動4	教育指導課	一斉退校日等を設定している小・中学校の割合(令和元年度より実施)	%	実績値	-	100	100	100		
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	100%	100%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略3 学校運営支援

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>令和4年度の実績値は、コロナ禍前と比較すると大幅に低い数値であるが前年度よりは増加した。                      これは、年度の後半に感染症対策が一部緩和されたことから、これまで自粛していた活動の再開、及び感染症対策を行い工夫をしながら実施する活動が少しずつ増えてきた結果と思われる。</p>	<p>【課題】                      開かれた学校づくりを推進するため、協議会活動の活性化を図り、コロナ禍前の水準に戻すことが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      協議会活動が感染症対策を踏まえ適切に行われるとともに、活動の円滑な再開と活性化のため、協議会及び学校・地域等に対して改めて協議会活動への理解・協力を働きかけていく。</p>	1	E
<p>いずれの協議会においても、コロナ禍で制限された各種活動を再開していく中で、まずは停止していた活動を徐々にでも基の状態へ戻していくことが優先された。そのためコミュニティ・スクール設置への機運を高めることができず、目標値に達することができなかった。</p>	<p>【課題】                      令和5年2月に、開かれた学校づくり協議会会長を対象にしたコミュニティ・スクールの理解を深める研修会を開催した。研修会后、アンケートを実施した結果、必要性は理解しているが、設置に向けて不安があることが判明した。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      学校・家庭・地域の理解や協力が無ければ設置は見込めないことから、継続して丁寧な説明を行い、不安を払しょくしていくことで、2校増を目指していきたい。</p>	2	C
<p>令和2年度はコロナ禍によりヒアリングを一部中止したが、令和3年度以降は、オンライン形式を取り入れ、状況に応じて柔軟に対応したため、100%実施することができた。</p>	<p>【課題】                      目標に向けた取組の精査、適切な指標の設定、進捗管理により、ヒアリングの質的向上を図ること。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      指導主事等による計画的な学校訪問を行い、取り組み状況を指標を踏まえて把握し、適宜適切な指導助言を通して学校経営の改善を図る。</p>	3	B
<p>各学校において、一斉退校日等を設定し、目標を達成することができた。令和5年度からは、月に一度(原則、毎月末水曜日)を「あたちからの日」とし、教員が授業研究などの個人の仕事に集中して取り組めるようにしている。</p>	<p>【課題】                      一斉退校日を設定しているが、教員の業務量の多さや教員個人の様々な理由で、退校しない教員もいる。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      引き続き、指導主事等の学校訪問により一斉退校日の設定状況を把握し、全校での一斉設定を維持していく。また、教員の業務量の削減も模索する。</p>	4	B

## 第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略3 学校運営支援

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動 5	教育政策課	学校図書館支援員配置の小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動 6	教育政策課	学校図書館基本計画及び学校図書館評価シートの活用により、PDCAサイクルに基づく学校図書館運営を行っている学校の割合 (令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	100		
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	100%	-	-
活動 7	学校支援課	国基準の図書蔵書数を超過している学校数の割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	99		
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	99%	-	-
活動 8	教育指導課	生活指導員配置の中学校の割合	%	実績値	94	88	91	87.5		
				目標値	-	95	100	100	100	100
				達成率	-	93%	91%	88%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略3 学校運営支援

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>小学校は事業者派遣職員、中学校は直接雇用職員を配置し、学校図書館の環境整備や児童生徒の読書活動・学習活動の推進に向けた取組みを学校と連携しながら行い、学校図書館の利活用促進につなげた。</p> <p>※ 令和5年度からは以下のとおり指標を変更する予定          &lt;小学校&gt; 令和5年度から段階的に週2日配置を週4日配置に拡充するため、「週4日配置の学校の割合」に変更。          &lt;中学校&gt; 名称を令和5年度から学校司書に変更。</p>	<p>【課題】 段階的に配置日数を拡充していくため、活用状況の変容を確認していく必要がある。&lt;小学校&gt;</p> <p>日常的に1人で勤務している学校司書への業務に関するサポートを充実させていく必要がある。&lt;中学校&gt;</p> <p>【今後の予定・方向性】 週4日派遣に拡充した学校の活用状況の変容を把握していくとともに週2日の学校の現状を確認し、令和6年度週4日に拡充する学校を選定する。&lt;小学校&gt;</p> <p>学校司書に対して、新たに配置した学校図書館スーパーバイザーの巡回指導や研修の充実、連絡会の開催による好事例の共有等の支援を行い、学校図書館の環境整備につなげていく。&lt;中学校&gt;</p>	5	B
<p>目標を達成した。全小中学校で学校図書館基本計画及び学校図書館評価シートを作成し、学校図書館運営に活用している。</p>	<p>【課題】 計画の目標を達成できなかった学校が改善に向けた取組みを進めていくため、専門的な見地からの支援が必要。</p> <p>【今後の予定・方向性】 学校への巡回訪問を通し、教員や学校司書教諭へ目標達成に向けた助言を行うとともに、学校図書館スーパーバイザーの専門的知見を基に計画の作成支援も行っていく。</p>	6	B
<p>学級増に伴い、基準冊数が増えた学校で、わずかに基準を下回り、目標値に達しなかった。予算配付や購入蔵書数は学級増による必要数を上回っているため、廃棄図書数が多かったことが考えられる。</p>	<p>【課題】 学級増により不足となる冊数を確保するための予算配付を行う。</p> <p>【今後の予定・方向性】 学級増により必要となる基準冊数を十分確保できるよう予算配付を行い、購入の際に蔵書率を意識した購入計画を促す。</p>	7	C
<p>実績値は87.5%で、目標を下回った。令和4年度は、生活指導員採用希望者数が減少した等の要因により、人材確保が難しくなり、前年度に比べ、配置割合が減少している。生活指導員は、各学校の適切な生活環境の維持、向上を図るという役割を持つことから、学校運営には必要な存在であり、継続した人材確保が必要である。</p>	<p>【課題】 生活指導員の人材確保</p> <p>【今後の予定・方向性】 ホームページにて、生活指導員を継続して募集するほか、TEPRO(東京都が運営している人材派遣事業)の活用を学校に促し、全校に配置できるよう努める。</p>	8	C-

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【助言・今後の期待への反映率】</b> 評価(助言)を積極的に反映した。(反映率:50%程度) 改善が見られる一方で、改善が進んでいない取組も見られる。コロナ禍の影響もあるが着実な取組を進めて欲しい。</p> <p><b>【目標・成果の達成状況】</b> いくつかの取組により戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。 成果指標1は概ね目標値を達成していると言える。地域と一体となった活動が良い結果をもたらしたと考える。 成果指標2は教員の働き方改革であるが、令和4年度実績値は前年度の数値から低下するとともに目標値を下回った。コロナ感染症対策や感染した教職員の代替業務等を要因に挙げているが、教員の働き方改革は喫緊の課題であり、一層の推進が必要である。 成果指標3で小学校は本の貸出数が増え目標値を大きく上回った。一方、成果指標4の中学生の学校図書館の利用は改善しているものの目標値には達成していない。特に中学校での学校図書館の利活用の促進が課題である。 活動指標1については前年度より増加したものの大きく目標値を下回った。コロナ禍の影響もあったが、学校・家庭・地域が力を合わせた学校づくりに向けて取組を一層推進していくことが必要である。 そのほかの活動目標については、若干目標値を下回っているものもあるが、概ね達成していると考えられる。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b> 各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。 学校・家庭・地域が力を合わせた学校づくり、学校・地域が一体となって学校運営を行うコミュニティ・スクールは、学校と地域との連携・協働による学校運営体制を強化する観点から重要である。 教員の働き方改革は、教員の業務改善、勤務時間管理の徹底等を行い、教員が子どもに向き合う時間を確保し教育活動に専心して取り組むことができるようにするためにも極めて重要な緊急な課題である。 学校図書館を積極的に活用した学習指導や読書指導の充実が求められており、学校図書館基本計画を作成し学校図書館支援員の配置拡充は重要な取組である。 いずれも戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b> 優れた取組がいくつかあり、効果的である。 教員の働き方改革、学校・家庭・地域が力を合わせた学校づくりやコミュニティスクール、学校図書館の利活用などの取組は戦略の方向性に合致したものであるが、目標値を達成できなかった指標がいくつか見られた。 特に目標値を下回った指標については要因を分析し着実に取組を進めていくことが必要である。</p>	<p>特に教師の働き方改革については緊急を要する課題である。コロナ禍により業務が増大したことが考えられるが、業務負担の軽減に向けての総合的な取組が必要である。 学校と地域との連携・協働のための取組についても十分ではなく、一層の推進に努めてもらいたい。 学校図書館に係る取組については、特に中学校において学校への理解を進めるなど有効な利活用に向けて取り組んでほしい。</p>								
全体評価レーダーチャート									
<p>観点1: 4 観点2: 4 観点3: 5 観点4: 5</p> <p>全体評価: C</p>									
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	4	4	5	5
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
4	4	5	5						





第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略4 就学環境の整備

施策4	快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	記入所属	教育指導課 学校支援課 学務課 子ども政策課
戦略4	就学環境の整備		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果1	学務課	児童・生徒が関係した交通事故の件数 ※低減目標	件	実績値	13	6	15	10		
				目標値	-	11	5	10	5	0
				達成率	-	181%	33%	100%	-	-
成果2	教育指導課	日本語適応指導の効果が見られた割合(日本語適応指導講師の所見による)	%	実績値	100	100	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
成果3	学務課	希望校に入学した児童・生徒の割合	%	実績値	99.4	97.4	99.4	99.9		
				目標値	-	99.5	99.5	99.6	99.8	99.8
				達成率	-	98%	99%	100%	-	-
成果4	学務課	育英資金の利用者(完済・助成後)を対象にした、育英資金の利用満足度を測るアンケートで肯定的な回答をした割合(令和2年度より実施)	%	実績値	-	69	86	95		
				目標値	-	-	70	90	97	100
				達成率	-	-	123%	106%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
戦略4 就学環境の整備

めざす方向性	<p>すべての児童・生徒が安全に関する資質・能力を身につけることをめざし、防災・防犯・交通安全教育を推進していきます。また、登下校の安全確保に向け保護者や地域との連携・協力による見守り体制の強化やICT機器等を活用した安全・安心確保策を講じます。</p> <p>また、児童・生徒がどのような状況にあっても、夢や希望に向かって学ぶことができる就学環境を整えるとともに、夜間中学を中心とした学び直しや必要な学習の支援が可能となるよう、生涯学習の視点から段階的に取り組んでいきます。</p>
--------	--

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
<p>区、学校、警察が連携して安全対策の取り組みを実施したこともあり、目標を達成した。</p> <p>なお、登下校中の事故は3件(小学生2件、中学生1件)で、前年度比で減少した(令和3年度:小学生2件、中学生2件)</p>	<p>【課題】 実績は外的要因に大きく影響を受けるため、一定程度の不可抗力が働く。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き通学路合同点検等を通じて通学路の環境を整備し、交通事故件数の減少を目指す。 また、通学路安全マップの作成により、保護者も含めた交通危険個所の確認を通じた注意喚起を行っていく。</p>
<p>月に1度、講師に提出を依頼している書類(指導の記録)を通して、教育委員会と在籍校講師で対象児童・生徒の様子を定期的に共有している。日本語適応指導講師利用以前と比較し、いずれの児童・生徒の日本語習得にも一定の指導効果がみられたため、実績値を100とした。</p>	<p>【課題】 話者が少ない言語(ベトナム語、ロシア語、ネパール語等)の日本語適応指導講師の確保</p> <p>【今後の予定・方向性】 足立区ホームページ上で引き続き講師募集を呼びかけるとともに、教育関連機関に協力を仰ぎ講師紹介を依頼する等、人材確保策を行っていく。</p>
<p>中間集計を公表し、希望校変更期間を設け分散化に努めた結果、目標をほぼ達成することができた。</p>	<p>【課題】 ハード面が充実している学校や部活動が盛んな学校を中心に、希望が集中する傾向がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 学校公開や学校情報データブック等を通じて、それぞれの学校の良さをPRできる場を提供していく。</p>
<p>高等学校等入学準備助成の対象は1,279名であり、3月末時点でのアンケート回収率は20%である。うち95%が肯定的な意見である。令和3年度より9ポイント増加し、目標も上回った。物価高騰等の背景から支援の必要性が高まり、満足度の向上につながったと考えている。</p> <p>また、令和4年度の奨学金完済者は70名であり、アンケート回収率は4%である。回収率は低いものの、全員が肯定的な意見であり、利用満足度は100%である。</p>	<p>【課題】 奨学金完済者の満足度は高いが、アンケートの回収率は低い。利用者の声を集める工夫が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 高等学校等入学準備助成は、令和3年度から助成額の拡充や支給時期の早期化を行っており、満足度が向上傾向にある。今後も「利用者の生の声」であるアンケート結果を受け止め、利用者へ寄り添った制度としていく。</p>

第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略4 就学環境の整備

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	教育指導課	セーフティ教室実施の小・中学校の割合	%	実績値	100	0	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	0%	100%	100%	-	-
活動2	教育指導課	交通安全教室実施の小学校の割合	%	実績値	100	100	100	100		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-
活動3	学務課	通学路合同点検(定期点検)の実施回数	回	実績値	17	23	24	24		
				目標値	-	17	25	26	21	22
				達成率	-	135%	96%	92%	-	-
活動4	学務課	通学路及び放課後活動地域における防犯カメラの設置数 ※ 累計設置台数 (令和4年度新規追加指標)	台	実績値	-	-	-	654		
				目標値	-	-	-	662	729	796
				達成率	-	-	-	99%	-	-
活動5	学校支援課	計画どおりのAED更新台数(屋内設置分) (令和4年度変更指標)	台	実績値	-	-	-	104		
				目標値	-	-	-	104	-	104
				達成率	-	-	-	100%	-	-
活動6	教育指導課	AEDを用いた救命講習会の実施校割合 (令和4年度新規追加指標)	%	実績値	-	-	-	100		
				目標値	-	-	-	100	100	100
				達成率	-	-	-	100%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略4 就学環境の整備

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性		自己評価	
<p>令和4年度も、全区立小・中学校でセーフティ教室を実施し目標を達成した。各学校では、SNS(ネット詐欺・不正アクセス・自画撮り被害・不正投稿)関係の安全教育を重点的に行い、SNSを介したトラブル等に巻き込まれないよう、児童・生徒へ改めて指導した。</p>	<p>【課題】 犯罪被害防止や非行防止等、犯罪が社会に与える影響について理解を深め、規範意識を醸成する。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度も引き続き、SNS(ネット詐欺・不正アクセス・自画撮り被害・不正投稿)関係の安全指導を重点的に行う。</p>	1	B	
<p>全小中学校において、交通安全教室を実施し、目標を達成することができた。令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施回数を第1学年は年2回、第2・3・4・5・6学年は年1回各校で実施した。第3学年は、交通対策課が実施する自転車教室を1回実施した。</p>	<p>【課題】 限られた時間で、児童を対象に充実した内容の授業を行うこと。</p> <p>【今後の予定・方向性】 回数を見直し、第1・2学年が年2回、第3学年が年2回(交通対策課自転車教室を含む)、第4・5・6学年が年1回実施する予定である。</p>	2	B	
<p>【達成状況】 学校や地域との日程調整がうまくいかず、令和5年度送りとなったため、目標値に達しなかった。</p> <p>【原因】 参加者が当課の他、学校、PTA、開かれた学校づくり協議会、区の道路管理所管課、所轄警察交通規制係及び防犯係と多岐かつ多人数にわたり、日程調整に相当の期間を要するところであるが、余裕のある日程調整ができなかった。</p>	<p>【課題】 点検にかかる事務を係内で分担していたため、進行管理の確認が不十分となっていた。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度より配置された通学路の安全管理担当により、事業の進行管理を徹底する。</p>	3	C	
<p>各小学校の要望に基づき、それぞれの個所についての精査を行った上での設置となるため、需要ベースという他動的要素により実績数値が左右される。</p> <p>また、予算の範囲内の設置が基本となるため、大幅な増は見込めない。</p>	<p>【課題】 防犯カメラ設置にかかる都補助金が令和6年度まで予定されているが、その先は不透明である。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和7年度に向けた財源の精査・事業規模の再検討を、カメラの維持管理コストを鑑みながら行っていく。</p>	4	C	
<p>耐用年数は消耗品が2年、バッテリーが4年、本体交換が7年となっている。</p> <p>令和4年度は屋内設置分の本体の交換を行い、同時にプライバシー保護のための三角巾も装備し、緊急時の対応に備えることができています。</p>	<p>【課題】 令和6年度に室内設置分及び屋外用の消耗品交換を行う。</p> <p>【今後の予定・方向性】 緊急時に不具合等がないよう消耗品やバッテリー交換を確実にし、安全機能を維持しながら、令和8年度に予定している屋外設置分の本体交換まで、区民の安全を確保していく。</p>	5	B	
<p>AEDを用いた教員向け救命講習会を、年度始めや水泳指導前に設置場所の確認も踏まえて、全校で実施している。</p>	<p>【課題】 AEDを用いた救命講習会を関係する教員に行い、非常時の緊急対応に備える必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 引き続き、AEDを用いた救命講習会を各校で実施していく。</p>	6	B	

## 第2章 評価シート

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略4 就学環境の整備

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動7	教育指導課	「日本語適応指導講師」及び「日本語通級指導学級(令和2年度モデル実施)」を利用している児童・生徒数	名	実績値	154	200	100	189		
				目標値	-	164	170	180	200	215
				達成率	-	122%	59%	105%	-	-
活動8	学務課	区立小学校に就学申請する外国人児童の割合	%	実績値	80.1	89.6	83	86.7		
				目標値	-	80.4	82	82	82	82
				達成率	-	111%	101%	106%	-	-
活動9	学務課	夜間中学の学級数	学級	実績値	6	5	5	5		
				目標値	-	6	6	6	6	6
				達成率	-	83%	83%	83%	-	-
活動10	学務課	小・中学校の新1年生が希望選択票を提出した割合	%	実績値	97.6	96.8	96.7	93.8		
				目標値	-	97.8	97.9	98	98	98.5
				達成率	-	99%	99%	96%	-	-
活動11	子ども政策課	子育てのための施設等利用給付費受給率(幼稚園)(令和元年10月より実施)	%	実績値	-	100	100	100		
				目標値	-	-	100	100	100	100
				達成率	-	-	100%	100%	-	-
活動12	学務課	育英資金制度の周知件数(「中学・高校・大学への案内」「個別相談会」「イベント会場でのパンフレット配付」等の合計件数)	件	実績値	171	187	206	235		
				目標値	-	179	190	210	245	220
				達成率	-	104%	108%	112%	-	-

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略4 就学環境の整備

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性		自己評価
<p>実績値の内訳は、日本語適応指導講師利用数151名、通級指導学級利用数は38名であり、目標値を上回った。令和4年度は入国制限が緩和され、日本語適応指導講師及び日本語通級指導学級の利用を希望する児童・生徒の増加が見込まれる予想の通りの結果となった。</p>	<p>【課題】                      今後、話者の少ない言語(韓国語、ウクライナ語、タイ語等)を話す児童・生徒数の増加が考えられる。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      今後は、話者の少ない言語を指導できる日本語適応指導講師の確保、また、通級指導学級の講師向けの研修会を実施し、さらなる日本語教育体制の充実を図る。</p>	<p>7 B</p>	
<p>目標を達成できた。                      残り約13.3%の外国人児童は区立以外のスクールを希望していることがわかっている。</p>	<p>【課題】                      区立小・中学校に就学することができることを知らない外国人の方に、情報を届けることが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      自宅への就学案内の送付、あだち広報やホームページ等を通じて、外国人就学の案内を継続していく。</p>	<p>8 B</p>	
<p>生徒数は微増したが、学級数が増えるまでには至っていない。</p>	<p>【課題】                      学び直しの機会があることを知らない方に情報を届けることが必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      あだち広報やホームページ、チラシ等を通じて、夜間学級への就学の案内を行っていく。</p>	<p>9 C-</p>	
<p>目標を達成することができなかった。                      足立区立小・中学校以外を希望する方が例年より多かったことも原因の1つと考えている。</p>	<p>【課題】                      未提出でも「学区域校」へは入学できるため、「必要ないと考える方」や「提出を忘れた方」もいると考えられる。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      令和5年度から中学生の希望はオンラインシステムにて提出できるよう検討している。</p>	<p>10 C</p>	
<p>幼児教育無償化により制度が変更になり、保護者の所得に関係なく申請があれば全員に補助が支給されるようになったため、受給率は100%である。</p>	<p>【課題】                      補助金申請書を園を経由して保護者に配布・取りまとめを依頼しているため、途中入園等、保護者からの申請漏れが無いように引き続き園に働きかけていく。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      子育て支援及び幼稚園の利用促進の観点から、機会をとらえホームページやあだち子育てガイドブック等、様々な媒体を活用し、補助制度の周知を図り、引き続き受給率100%を維持していく。</p>	<p>11 B</p>	
<p>中学校35校、高校43校、大学17キャンパスに対して、募集案内や制度案内を実施した。また、新設した「給付型奨学金」をより広くPRするべく、周知方法の拡充も行った。</p> <p>具体的には、Aメールや教育だよりを活用し、利用者へダイレクトに制度案内を行った。さらに、区内の高校に直接出向き、校長や担当者に説明を行った。こうした取組の結果、周知件数は235件となり、目標値を超えた。</p>	<p>【課題】                      目標値は達成しているものの、給付型奨学金制度を新設したため、より広い周知が必要である。</p> <p>【今後の予定・方向性】                      引き続き、中学校、高校、大学等に対し、周知を徹底する。更なる達成率の向上に向け、SNS・情報スタンド等の活用を強化し、周知件数を増加させる。併せて、より効果の高い手段を模索していく。</p>	<p>12 B</p>	

施策4 快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実  
 戦略4 就学環境の整備

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【助言・今後の期待への反映率】</b>                      評価(助言)を積極的に反映した。(反映率:70%程度)                      ほとんどの指標で目標値を達成している。</p> <p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      優れた取組が多く、戦略の目標達成に向け、成果が出ている。                      成果指標では、すべて目標値を達成している。ただし成果指標1は令和4年度の目標値が前年度に比べて5件増えていることによる。交通安全教室や通学路合同点検など継続的な交通安全に向けた取組が必要である。                      活動指標9の夜間中学の学級数については目標値を下回った。なお、生徒数は前年度から微増とされており、夜間中学のニーズに応じた学級数の検討が必要と考える。                      全体的には多くの取組で目標値を達成しており、成果があがっていると考える。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も適切であるため推進していく方がよい。                      全ての子どもが安全に関する資質・能力を身につけ安全な生活を送るために、セーフティ教室や交通安全教室など登下校を含め学校安全に関する取組を実施している。                      外国人児童生徒の増加により日本語指導の充実が求められる中、日本語適応指導講師の派遣や日本語通級指導学級を利用する児童生徒の増加を見越した対応が行われている。                      いずれも戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      優れた取組がいくつかあり、効果的である。                      セーフティ教室や交通安全教室など、子どもたちを交通事故や犯罪から守るための取組や、外国人児童生徒の就学機会の確保や義務教育未修了者等へ教育機会の提供など地域のニーズに応じた取組は戦略の方向性に沿ったものであり、概ね着実に実施されており、効果的な取組と考える。なお一部目標値を達成できなかった指標については、着実に取組を進めていく必要がある。</p>	<p>子どもたちの安全・安心な環境の整備に向けて、安全教育の充実、安全管理の徹底などに努めてほしい。                      外国人児童生徒の増加に伴う日本語指導、義務教育未修了者等の教育機会としての夜間中学など、地域のニーズの把握に努め学習支援や学び直しの機会確保に引き続き取り組んでほしい。</p>								
	<p>全体評価レーダーチャート</p>								
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か	5	6	6	5
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
5	6	6	5						



## 施策 5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援

戦略 1 多様な体験活動の提供とその充実……………	137
戦略 2 家庭教育支援の充実……………	147
戦略 3 社会的自立に必要な力の育成・支援……………	153

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

施策5	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援	記入所属	学力定着推進課 教育指導課 学校支援課 学務課 青少年課
戦略1	多様な体験活動の提供とその充実		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	小6	中3	
成果1	青少年課	大学生体験教室・ものづくり体験教室に参加してアンケートに回答した小・中学生のうち、「今回の体験をとおして、これからも新しいことを知ったりチャレンジしたいと思った」と回答した割合(令和2年度より実施)	%	実績値	-	90	87	89	/		/		/			
				目標値	-	-	90	90	90	90	/		/			
				達成率	-	-	97%	99%	-	-	/		/			
成果2	青少年課	「足立区学力定着に関する総合調査」で小学5年生が「地域の行事に参加している」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	56.3	-	53.4	43.3	/		/		/			
				目標値	-	57.1	-	59	60	61	/		/			
				達成率	-	-	-	73%	-	-	/		/			
成果3	青少年課	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的な回答をした割合(※施策1の再掲)	%	実績値	93	92.3	-	-	93.6	93.2	94.1	93.3	/		/	
				目標値	-	-	93.3	92.8	93.5	93	94	93.6	94.5	94	95	95
				達成率	-	-	-	-	100%	100%	100%	100%	-	-	-	-

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動1	学務課	自然教室における各学校の体験活動数の合計(野菜の収穫、日光彫、田植え、稲刈り、笹団子づくり、磯の生物観察、文化遺産見学、ハイキング等) (※施策1の再掲)	回	実績値	905	205	525	1,072	/	
				目標値	-	905	905	905	905	905
				達成率	-	23%	58%	118%	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

めざす方向性	生命や自然を大切にする心や他を思いやる優しさ、社会性、規範意識などを育てるため、学校において、自然体験活動や集団宿泊体験、伝統文化体験、奉仕体験活動といった多様な体験活動機会の充実に努めます。 また、子ども・若者が育つ地域環境の整備に向け、大学や青少年関係団体・関係者等との連携や協働を進めるとともに、団体活動の支援・育成に取り組んでいきます。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
コロナ禍で密を避けるため実施教室を分ける等の対策を講じて、各大学の特色を活かしたプログラムを実施した。 回答の実績が前回同様ほぼ目標値を達成できたことはコロナ禍で事業を工夫した結果であり、体験を通じて子ども達の自己肯定感につながったと考える。	【課題】 体験する機会が少なく特に参加しづらい環境にある子どもたちへの周知を強化する必要がある。  【今後の予定・方向性】 新たに豆の木メール等様々な手段で情報提供し広く情報を届けていく。
これまで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、子どもが参加するお祭りや運動会等、地域の行事を中止せざるを得なかった。子どもの地域行事への参加数の減少が達成率の減に繋がったと考えられる。	【課題】 新型コロナウイルス感染症の5類以降後を見据え自己肯定感を醸成するための地域活動・行事の実施(再開)を行う必要がある。  【今後の予定・方向性】 コロナ禍において、これまでオンラインや分散開催で実施していた事業の多くが、今年度は対面での事業に移行することが想定されるため、事業実施に向けて各団体を支援していく。
概ね目標どおりであった。これまで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの地域の行事等が中止となった。一方で、新しい生活様式に合わせ、オンライン開催や分散開催等により、多様な体験機会を提供してきたことが、目標値の達成に繋がったと考えられる。	【課題】 大人や異年齢の子どもたちとの交流を通じ、自己肯定感を高めていくための様々な体験機会の場を提供していく必要がある。  【今後の予定・方向性】 大学や文化団体、地域の青少年育成団体等との連携を深め、多くの子どもが行事に参加できるよう、団体活動に対する支援に努めていく。

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
令和4年度は、全ての小・中学校が2泊3日で自然教室を実施したこと、中学校の魚沼自然教室において、実施学年を元の1年生に戻すため2学年が実施したことに伴い、目標値を上回った。  鋸南自然教室では、環境学習課との協働により海洋学習プログラムを提供し、13校が体験した。  魚沼自然教室では、魚沼市の中学校との交流活動や、地元の方を講師に招いたSDGsの勉強会など各校が工夫をこらした体験活動を実施することができた。	【課題】 学校がプログラムを決定する仕組みのため、多様なプログラムを用意するとともに、多くの学校に参加してもらえるよう働きかけが必要となる。  【今後の予定・方向性】 関係機関と連携し、子ども達に豊かな体験活動の場を提供できるよう工夫する。	1	B

## 第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動 2	青少年課	青少年課の大学連携事業の全プログラムの提供数 (令和4年度目標値追記指標)	回	実績値	25	11	23	29		
				目標値	-	26	27	27	29	33
				達成率	-	42%	85%	107%	-	-
			人	実績値	-	-	-	9,396		
				目標値	-	-	-	15,000	10,000	15,200
				達成率	-	-	-	63%	-	-
活動 3	学力定着推進課	大学と連携した留学生交流学習の実施校数	校	実績値	6	3	2	6		
				目標値	-	6	6	6	6	6
				達成率	-	50%	33%	100%	-	-
活動 4	青少年課	あだち子ども百人一首大会の参加率	%	実績値	99.1	0	0	97.9		
				目標値	-	99.3	100	100	100	100
				達成率	-	0%	0%	98%	-	-
活動 5	教育指導課	職場体験を実施している中学校の割合 (※施策1の再掲)	%	実績値	100	0	2.9	45.7		
				目標値	-	100	100	100	100	100
				達成率	-	0%	3%	46%	-	-
活動 6	学校支援課	放課後子ども教室で体験プログラムを実施した小学校の割合 (令和4年度変更指標)	%	実績値	-	-	-	44.1		
				目標値	-	-	-	58.8	59.7	67.1
				達成率	-	-	-	75%	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>コロナ禍で密を避けるため実施教室を分ける等の対策を講じて、対可能な限り対面での事業を企画した。そのため、実施回数は目標を上回ったが、1教室当たりの人数は制限せざるをえず参加人数は目標を下回った。</p> <p>対面事業の際、子どもたちと大学生との交流を積極的に図るなど各大学の特色を活かしたプログラムを実施した。</p>	<p>【課題】 事業によって、定員に対しての応募に差があることから対象者のニーズとプログラムの内容とのさらなる一致を図る必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 新型コロナウイルス感染症の5類以降を見据え提供数だけでなく、各大学と協議しながらアンケート等から参加者のニーズを捉えた魅力ある事業を企画していく。</p>	2	C
<p>達成状況については、100%である。要因としては、他の英語教育推進事業と関連付け、より効果的な児童・生徒の英語力向上のための手段として積極的に学校へアプローチしたことが考えられる。</p> <p>その他実績としては、中学校留学生交流会実施後の生徒アンケート(4校)で、項目「世界のいろいろな国の人と交流するには英語が必要だと感じましたか」について肯定的回答が94.5%(R3:96.6%)と高水準を維持するなど、英語を学ぶ意欲の向上に活用することができた。</p>	<p>【課題】 ・ アンケート項目の肯定的回答「英語が必要」94.5%に見合う「もっと話せるようになりたい」88%の数値の向上 ・ 実施校の確保と大学側の日程の制約、留学生の人数確保</p> <p>【今後の予定・方向性】 ・ 「英語が通じる」成功体験の積み重ねを学習意欲につなげる工夫を講じていく。 ・ 大学側の制約を踏まえ、持続可能な取組としていく。</p>	3	B
<p>新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として密を避けるため、三人一組の団体戦及び全学校参加制を、個人戦のみの希望制に変更し、4年ぶりに開催することができた。定員を超える申し込みがあり、抽選で参加者を定めたため、目標は達成できていると考える。当日体調不良等で欠席者が出てしまうことはやむを得ない。</p>	<p>【課題】 令和4年度は個人戦の実施にとどまっており、団体戦は3年実施していない。</p> <p>【今後の予定・方向性】 個人戦に加え団体戦の再開に向け過去の開催内容の確認やシミュレーションを念入りに行っていく。</p>	4	B
<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、約半数の中学校が職場体験を実施することができた。学校の規模や、受け入れ先の都合により、職場体験を実施することができなかった学校については、代替策としてキッズニア訪問や出前授業等を実施した。</p>	<p>【課題】 足立区役所内で職場体験の受け入れを行う所管を集約し、中学校に周知していく。</p> <p>【今後の予定・方向性】 令和5年度は区内全中学校が職場体験を実施する予定である。</p>	5	E
<p>令和3年度に比べて実施校数は増えたものの、依然として新型コロナウイルス感染拡大の影響で社会活動に制限がかかる場面が多く、提供する側(地域人材等)も受け入れる実行委員会・学校側も活動自粛の機運が高まった時期があったため、目標を達成することができなかった。</p>	<p>【課題】 感染症への不安から慎重な姿勢を示す実行委員会もあり、引き続き丁寧なサポートが必要となる。</p> <p>【今後の予定・方向性】 安全にコロナ禍前の活動量を取り戻すべく、生涯学習振興公社による支援を継続していく。支援にあたっては実行委員会の考え方を尊重する。</p>	6	C-

## 第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

### 成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動7	青少年課	青少年問題協議会の開催回数	回	実績値	2	1	0	1		
				目標値	-	2	2	2	2	2
				達成率	-	50%	0%	50%	-	-
活動8	青少年課	青少年委員としてブロックで行う活動の回数	回	実績値	137	73	153	151		
				目標値	-	140	73	153	153	156
				達成率	-	52%	210%	99%	-	-
活動9	青少年課	青少年対策地区委員会全体の主催事業数	事業	実績値	121	41	54	91		
				目標値	-	123	108	108	115	130
				達成率	-	33%	50%	84%	-	-
活動10	青少年課	青少年対策地区委員会が実施する中学生以下の子ども参加事業数(令和4年度新規追加指標)	事業	実績値	-	-	-	50		
				目標値	-	-	-	94	95	96
				達成率	-	-	-	53%	-	-
活動11	青少年課	ジュニアリーダークラブ(中学生・高校生)の構成員数	人	実績値	30	74	74	64		
				目標値	-	42	80	80	80	100
				達成率	-	178%	93%	80%	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性		自己評価
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集まったの会場開催を中止せざるを得なかった。また、類似会議などとの兼ね合いから協議するのに適した議題の選定などに時間を要し書面方式で1回開催するにとどまった</p>	<p>【課題】 協議会の趣旨・目的にそった議題の選定や開催方法のあり方を検討する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 対面または書面での会議開催に向け、各所管や外部団体と調整していく。</p>	7	E
<p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、SNS等のインターネットを活用した非対面式の会議を開催により活動回数が伸びた。</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症の状況をみつつ人数を絞るなどして可能な範囲で主に対面によるブロック会議や教育懇談会を開催し、活動回数はほぼ横ばいの数値となった。</p>	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の5類以降後を見据え地域と学校を繋げるためのこれまで以上に効果的な各種会議や事業の実施していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 個々の青少年委員と連携することで、各地域・学校との調整をスムーズに行い、様々な会議・事業の実施に向けて支援を継続していく。</p>	8	C
<p>目標は下回ったが前年度と比較達成率は改善した。会議のオンライン化や善行青少年顕彰式の各学校での分散開催など、コロナ禍における新しい生活様式に対応してきたことが達成率改善に繋がったと考えられる。</p>	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の5類以降後を見据え青少年の健全育成に向けてこれまで以上に効果的な事業の実施。</p> <p>【今後の予定・方向性】 区民事務所と連携し、各地区対の事業に適切に補助金を交付するとともに、有効な活動が行えるよう支援を行っていく。</p>	9	C-
<p>地区対における子どもの参加事業数については、目標値に届かなかった。不特定多数が参加する運動会や屋内での展覧会など密になるものが多く、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの期間で事業を中止せざるを得なかった。</p>	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の5類以降後を見据え自己肯定感を高めるための様々な地域活動の場・体験機会の提供。</p> <p>【今後の予定・方向性】 子どもに地域活動の場を提供し、子ども自身が参加・参画できるよう、事業実施に向けて引き続き地区対への支援を行っていく。</p>	10	D
<p>目標をやや下回った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、脱退者(高校を卒業する人)に対し、新規の加入者が限定的であった</p>	<p>【課題】 ジュニアリーダーの魅力や活動について広く周知するとともに、魅力的な活動を実施していく必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 特集を組んだ教育だよりを子ども会でも配布することやキャンプの実施結果を少連協のホームページなどに掲載するなど魅力を伝えていく。</p>	11	C

## 第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

### 成果指標を達成するための活動指標

	No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動 1 2		青少年課	ジュニアリーダー研修会の参加者数	人	実績値	560	203	64	303		
					目標値	-	575	250	480	310	650
					達成率	-	35%	26%	63%	-	-
活動 1 3		青少年課	子ども会育成者の研修会実施回数	回	実績値	22	0	0	17		
					目標値	-	22	22	22	19	23
					達成率	-	0%	0%	77%	-	-



施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
<p>参加者数は前年度の約5倍となったが目標値には届かなかった。新型コロナウイルス感染症の影響で研修会の開催回数を当初予定の22回から16回(令和3年度は10回)へと変更したことが影響した。</p>	<p>【課題】            研修会場によっては参加者が少ない場所もあることから、参加につながるような周知を図る必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】            区立小中学校の協力を得ながら、ジュニアリーダー研修会のPRを継続していく。リーフレットの配付先を小学3年生にも拡大し、その時期について検討していく。</p>	12	C
<p>目標をやや下回った。これまで新型コロナウイルス感染症の影響により育成者研修会の中止が続いていたが、3年振りに可能な範囲で実施することができた。</p>	<p>【課題】            子ども会の育成者の高齢化が進んでいる。事業を継続していくためには世代交代ができるよう、若い世代の育成者を養成する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】            広く周知を行うとともに今後もこの研修会を継続して開催し、地域の方が子ども会運営に必要な知識や技術を習得できるようにしていく。</p>	13	C

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略1 多様な体験活動の提供とその充実

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b></p> <p>＜学校における多様な体験活動の機会の充実＞                      成果指標の1、3、および活動指評の1～4については、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。一方で、活動指標5、6については目標値までには大幅に開きがあるが、コロナの感染防止に伴う制約があったことが影響していると考えられる。</p> <p>＜子ども・若者が育つ地域環境の整備＞                      成果指標の3、および活動指標の8については、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。一方で、成果指標2、活動指標7、9～13については目標値までには大幅に開きがあるが、コロナの感染防止に伴う制約があったことが影響していると考えられる。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b></p> <p>＜学校における多様な体験活動の機会の充実＞                      取組は戦略の方向性に沿っていると一定の評価はできる。成果指標1は目標値を達成しており、それに関連する活動指標1(自然教室)、活動指標2(大学連携事業提供数)、活動指標3(留学生交流学習)、活動指標4(百人一首大会)の目標値は達成、ほぼ達成している。今後の学校における多様な体験活動の方向性を模索するためにも、活動において育っている内容、特に「めざす方向性」に掲げている「生命へ畏敬」「他者への思いやり」「社会性」「規範意識」にも着目した成果指標も必要だと考える。また、活動指標5、6に関しては、コロナが落ち着いてきたことから、達成率の向上を期待したい。</p> <p>＜子ども・若者が育つ地域環境の整備＞                      取組の方向性は一定の評価はできる。成果指標2「『地域の行事に参加している』に肯定的な回答した割合」は、地域の行事に参加していない児童の存在が目標値に達成できなかった理由の一つになっているとのことであった。活動指標7、8、13は、地域活動を支える側に着目した指標である。また、活動指標8、9、10は子どもに地域活動の場を提供している機会に着目した指標である。多様な機会の提供は、興味をもつきっかけになると考えられる。そのため、活動指標において、事業の内容や参加者(子ども・大人)の意識にも着目していくことも、今後、必要だと考えられる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b></p> <p>学校における多様な体験活動の機会の充実や、子ども・若者が育つ地域環境の整備は、子どもたちの自己肯定感を育む可能性があることから、効果的な取組だと考えられる。今後は、要支援家庭の子どもも含めて、より多くの子どもたちが参加する体験活動になるように、学校・大学・関係団体との協働のあり方のさらなる工夫が必要だと考える。</p>	<p>「めざす方向性」に掲げている、子どもたちに育てたい「生命へ畏敬」「他者への思いやり」「社会性」「規範意識」にも着目した成果指標や活動指標を開発されることを期待したい。</p>								
<p>全体評価レーダーチャート</p>									
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か		5	5	5
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
	5	5	5						



第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略2 家庭教育支援の充実

施策5	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援	記入所属	子ども施設運営課 青少年課
戦略2	家庭教育支援の充実		

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
成果1	青少年課	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーの取り組み園の保護者アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはんをこころがけるようになった」と回答した方の割合（令和2年度より設問追加）	%	実績値	-	68.3	72.2	88.2		
				目標値	-	-	65	73	90	90
				達成率	-	-	111%	121%	-	-
成果2	子ども施設運営課	基本的な生活習慣が身についている小学1年生の割合（※施策2の再掲）	%	実績値	90.6	88.4	87	87.9		
				目標値	-	90	90	90	90	90
				達成率	-	98%	97%	98%	-	-
成果3	青少年課	「子育て仲間づくり活動」の保護者アンケートで、「学習活動や交流活動を通して子育ての不安や孤立感の軽減につながった」と回答した方の割合（令和4年度新規追加指標）	%	実績値	-	-	-	91		
				目標値	-	-	-	65	95	95
				達成率	-	-	-	140%	-	-
成果4	青少年課	家庭教育支援講座の受講者を対象としたアンケートにおいて、「今後に生かせると思う」に肯定的な回答をした割合（令和2年度より実施）	%	実績値	-	100	94	100		
				目標値	-	-	65	85	90	100
				達成率	-	-	145%	118%	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
戦略2 家庭教育支援の充実

めざす方向性	家庭に対して、規則正しい生活リズムの定着や、子どもを育てる上で実践することが望ましい内容の啓発を図るとともに、家族がふれあう機会、保護者同士がつながる機会を提供することにより、子どもたちが健やかに育つことができる家庭環境の醸成を図ります。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
「早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになった」と回答した方の割合は年々増加しており、引き続き目標値も大きく上回った。希望調査時に実施園での好事例を紹介したことで利用意欲が高まり、生活リズム定着の意識付けにつながったと考えられる。	<p>【課題】 取り組んだが「早寝・早起き・朝ごはん」をこころがけるまでにつなげていない家庭が約1割ある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 各園で行われているカレンダー(1年間版)・チェックブック(4週間版)の効果的な活用方法の紹介や使い方の工夫も含めた提案を行う。</p>
新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、基本的な生活習慣の取り組みも少しずつ行われたことから、子どもたちの活動が広がり、目標値に近づいた。	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭への啓発活動を十分に実施できていない。SNSやイベントを通して家庭への啓発を図る。</p> <p>【今後の予定・方向性】 子どもたちの体験の積み重ねを重要と捉え、幼保小連携活動を通して子どもの理解を深め、子どもの育ちにつなげていくことが必要である。</p>
学習活動参加者140人のうち128人が活動をとおして子育ての不安や孤立感の軽減につながったと回答し、目標値を大きく上回った。子どもをやる気にさせる声かけやアンガーマネジメント等の学びや親子遊びをしながらコーチングの技法を学ぶ等、具体的な対処法を参加者におし、また、親子で楽しみながら学ぶことで、満足度が高まったと考えられる。	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加者への不安感や孤独感の軽減などに対する効果は高いが、実施団体や活動が減少し参加人数が減っている。</p> <p>【今後の予定・方向性】 新型コロナウイルス感染症の5類以降を見据えて、各園で行われている好事例や保護者の声の紹介を行いながら、園の他、児童館等で活動する保護者のグループ・サークル等へのPRも積極的に行い、活動参加者を増やす。</p>
令和4年度は、4回(10月・11月・1月・2月)実施し、中学・高校生の子をもつ保護者17人が参加し、全員が「今後に生かせると思う」と回答をした。NPO法人に所属しているキャリアコンサルタントや採用・教育のプロによるセミナーの内容の満足度と参加者とおしの交流が活発に行われた結果と考えられる。	<p>【課題】 参加者が少ないことから、興味をひく内容や参加しやすい時期での開催を検討する必要がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 集客方法や開催時期を見直し参加者を増やすとともに、学びの多い満足度の高い講座となるよう向上に努める。</p>

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略2 家庭教育支援の充実

成果指標を達成するための活動指標

No.	所属	指標名	単位		H30	R2	R3	R4	R5	R6
活動1	青少年課	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーに取り組む園の割合 ※4・5歳児の在籍園に限る	%	実績値	73.1	71	73	72		
				目標値	-	76.5	76.5	80	80	93.5
				達成率	-	93%	95%	90%	-	-
活動2	青少年課	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーに取り組む小学校の割合(令和2年度より実施) ※小学1年生を対象	%	実績値	-	100	52.2	65		
				目標値	-	-	50	60	70	100
				達成率	-	-	104%	108%	-	-
活動3	子ども施設運営課	幼児教育の取組みに関する保護者等への啓発活動(SNS投稿回数) (令和4年度変更指標)	回	実績値	-	-	-	8		
				目標値	-	-	-	6	6	6
				達成率	-	-	-	133%	-	-
活動4	青少年課	「子育て仲間づくり活動」を実施した団体数 (令和4年度目標値追記指標)	団体	実績値	46	4	7	10		
				目標値	-	48	48	48	31	60
				達成率	-	8%	15%	21%	-	-
			回	実績値	-	-	-	24		
				目標値	-	-	-	145	145	180
				達成率	-	-	-	17%	-	-
活動5	青少年課	家庭教育支援講座の実施数【延べ人数】	回	実績値	15	5	3	4		
				目標値	-	16	16	16	16	20
				達成率	-	32%	19%	25%	-	-
			人	実績値	79	19	19	17		
				目標値	-	86	86	86	86	120
				達成率	-	22%	22%	20%	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略2 家庭教育支援の充実

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性		自己評価	
<p>4・5歳児の在園のカレンダー実績値は70%程度であり、私立幼稚園の取り組み園数は6園増加したが、私立保育園が9園減少したため、わずかであるが減少した。カレンダー実施園では子ども自身の意識付けにつながり好評であったが、期間が長いことから負担感を感じ実施を躊躇する園も一定数ある。</p>	<p>【課題】 子ども自身の意識付けにつながり好評であったが、長続きしない、プレッシャーになる等依然として負担感があり利用につながっていない園がある。</p>	1	B	
<p>【今後の予定・方向性】 引き続き、各園で行われている活用方法の紹介や使い方の工夫も含めた提案を行い、実施園数を拡大していく。また、取り組んだ効果や課題を洗い出し事業の改善につなげる。</p>				
<p>小学校のカレンダー(4週間版)普及率は前年度に比べて増加し、引き続き目標値を上回った。明確な目標が設定され、楽しめる取組みとして定着化していると考えられる。</p>	<p>【課題】 園に比べて実績値が少ない。実施校に取り組んだ効果や課題等のアンケート等を行う必要がある。</p>	2	B+	
<p>【今後の予定・方向性】 夏休み中の生活リズム定着のための取り組みとして、活用方法の紹介や工夫も含めた提案により実施校数を拡大していく。また、取り組んだ効果や課題を洗い出し事業の改善につなげる。</p>				
<p>令和4年度は区Twitterにて園児たちの園生活の1コマを写真とあわせて8回投稿した。</p> <p>投稿内容は「あだち幼保小接続期カリキュラム家庭版」に記載している「家庭で心がけたい10の大切なこと」に関連付けており、10の項目のうち7項目について投稿した。</p>	<p>【課題】 10の項目の中には写真の掲載に適さない項目もあり、テーマの重複が見られた。Facebookも活用し、より詳細な状況を記載する。</p>	3	B+	
<p>【今後の予定・方向性】 家庭でも参考にしやすい内容を投稿し、保護者への啓発を図る。</p>				
<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり令和4年度も人が集まらず実施した団体数は限られ、目標値に至らなかったが、前年度に比べ区立園3園、公設民営1園で新たに活動を実施した。</p> <p>一方、前年度に申請のあった児童館・グループ等の活動がなかった。また、回数については、24回(学習活動13回・交流活動11回)であり、前年度に比べて7回(学習活動2回・交流活動5回)増えた。</p>	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染症の影響から実施を見送っていた団体へ広く事業の周知を行う必要がある。</p>	4	D	
<p>【今後の予定・方向性】 各園で行われている好事例や保護者の声の紹介などを行いながら実施園数を拡大していく。また、児童館等で活動する保護者のグループ・サークル等へのPRも積極的に行っていく。</p>				
<p>子育て中の保護者の子育てに関する悩みや不安解消につながる手がかりを考えるための家庭教育支援として親子遊び等を内容とした家庭教育ボランティア講座を実施した。</p> <p>令和3年度からは中学・高校生の子をもつ保護者に対するキャリア講座に変えて実施している。参加人数の少なさは、他のイベントが重なる時期に開催したことによると考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり令和2年度以降実施数を抑えてきた。</p>	<p>【課題】 参加人数が少ないことから、興味をひく内容や参加しやすい時期での開催を検討していく必要がある。</p>	5	D	
<p>【今後の予定・方向性】 集客方法や開催時期を見直し参加者を増やすとともに、引き続き学びの多い講座となるよう向上に努める。また、若年者支援の予防的側面を意識した講座内容となるよう事業者と検討しながら実施していく。</p>				

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略2 家庭教育支援の充実

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b></p> <p>成果指標の全ての項目(1~4)、および活動指標1~3は、目標値を達成、もしくはほぼ達成していると判断できる。しかしながら、活動指標4、5は目標値とは大幅に開きがある。</p> <p><b>【各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b></p> <p>＜規則正しい生活リズムの定着＞                  規則正しい生活リズムの定着を図るために、園や小学校が「早寝・早起・朝ごはんカレンダー」に取り組むことに着目し、取り組んでいる園数を活動指標に、取り組んだ保護者の意識を成果指標としている。保護者の意識を問うた指標であり、方向性としては評価できる。</p> <p>＜子育てに関する望ましい内容の啓発＞                  子どもを育てる上で実践することが望ましい内容の啓発を図ることは、とても重要であると考えられる。活動指標3は、啓発活動としてSNSへの投稿回数を指標としており、方向性は評価できる。今後も、SNSやその他のツールも含めて、子育てに悩む親等が参考になる内容を分かりやすく発信していくことは必要だと考える。また、活動指標に関連する成果指標も必要ではないかと考える。</p> <p>＜保護者同士がつながる機会の提供＞                  成果指標3、4は、保護者同士がつながる機会を目的とした活動やキャリア講座に参加した保護者を対象に、参加後の意識に着目した指標である。対象者の意識を問う指標内容は、方向性としては評価できる。今後は、活動指標4の「子育て仲間づくり活動」を園を核とした地域のネットワークに広げていく取り組みも必要だと考える。また、活動指標5に関しては、保護者のニーズを大切にしながらも、保護者同士がつながる機会を提供するという「めざす方向性」に沿った活動が必要だと考える。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b></p> <p>規則正しい生活リズムの定着や保護者同士がつながる機会の提供は、保護者の意識に着目した成果指標となっており、一定の評価ができる。しかし、保護者同士がつながる機会の提供数やその参加者数には課題がある。子どもが同年齢の保護者だけではなく、幅広い年代の保護者同士が出会う機会等の工夫も必要になると考えられる。</p>	<p>＜子育てに関する望ましい内容の啓発＞                  活動指標に関連する成果指標を、新たに追加することも必要ではないかと考える。</p> <p>＜保護者同士がつながる機会の提供＞                  保護者のニーズを大切にしながらも、園を核とした地域ネットワークの構築も重要ではないだろうか</p>								
評価レーダーチャート									
<p style="text-align: right;">全体評価 <b>B</b></p>									
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>		【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か		5	5	5
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取り組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
	5	5	5						





第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

施策5	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援	記入所属	教育指導課 環境政策課
戦略3	社会的自立に必要な力の育成・支援		

戦略の達成度を測る成果指標

成果	No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
					小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
成果1	1	教育指導課	「足立区学力定着に関する総合調査」で「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	86	74.3	-	-	86	72.2	84.6	69.7	/	/	/	/
					目標値	-	-	86.7	75.3	86.7	75.3	87.2	76.9	88	78	90	80
					達成率	-	-	-	-	99%	96%	97%	91%	-	-	-	-
成果2	2	教育指導課	「全国学力・学習状況調査」で「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に肯定的な回答をした割合	%	実績値	49.4	36.9	-	-	46.7	39.3	49	35.4	/	/	/	/
					目標値	-	-	51.2	39.1	51.2	39.1	54.4	42.8	56	46	60	50
					達成率	-	-	-	-	91%	101%	90%	83%	-	-	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

めざす方向性	夢や希望の実現に向けて適切な進路選択を行い、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担うことができる力を育むため、キャリア教育や主権者教育、環境教育の充実を図ります。
--------	---

所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性
令和3年度と比較し、小学校、中学校ともに肯定的な回答が若干低下している。児童・生徒の社会的・職業的自立を実現するために、夢をもつことの大切さや自己の生き方や働き方について主体的に考え、目標を立てることのできる教育活動を一層推進していく必要がある。	<p>【課題】 中学生は学年が上がるにつれて肯定的な回答をする生徒が減少する傾向がある。</p> <p>【今後の予定・方向性】 特に中学校において、生徒の進路選択が高等学校進学だけではないことを具体例を提示し、教師が各校において適切に指導できるよう、キャリア教育研修の内容を精選する。</p>
目標値を下回った。社会科や特別活動、総合的な学習の時間等を有効活用し、児童・生徒が国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、自分自身が住む地域や社会についての課題を多面的・多角的に考え、その課題を解決する力を育んでいく必要がある。	<p>【課題】 中学校3年生の肯定的な回答が低下している。</p> <p>【今後の予定・方向性】 特に中学校において、職場体験を有効活用し、仕事の体験や働く人と接することをおして、望ましい勤労観・職業観を育む。また、租税教室や税の作文等への積極的な取組をおして税金の意義と使い方、社会や国のあり方を考えるきっかけとしていく。</p>

第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

戦略の達成度を測る成果指標

No.	所属	指標名	単位	H30		R2		R3		R4		R5		R6		
				小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
活動1	教育指導課	キャリア教育支援事業の事業参加児童・生徒の割合 (令和4年度変更指標) ※平成30年度までは小学校のみが対象で、令和元年度以降は小・中学校が対象	%	実績値	-	-	-	-	-	-	85.4					
				目標値	-	-	-	-	-	100	95	100				
				達成率	-	-	-	-	-	85%	-	-				
活動2	教育指導課	夢デザインシートを活用している小・中学校の割合	%	実績値	100	100	100	100	100	100						
				目標値	-	100	100	100	100	100	100	100				
				達成率	-	100%	100%	100%	100%	-	-					
活動3	教育指導課	職場体験を実施している中学校の割合 (※施策1及び戦略1の再掲)	%	実績値	100	-	2.9	45.7								
				目標値	-	100	100	100	100	100	100					
				達成率	-	-	3%	46%	-	-						
活動4	教育指導課	租税教室開催の小・中学校の割合	%	実績値	100	48.5	-	-	95.7	25.7	98.5	34.3				
				目標値	-	-	100	50.4	100	50.4	100	52.9	100	55.5	100	60
				達成率	-	-	-	-	96%	51%	99%	65%	-	-	-	-
				実績値	100	100	100	100								
活動5	教育指導課	税についての作文に取り組んでいる中学校の割合	%	目標値	-	100	100	100	100	100	100	100	100			
				達成率	-	100%	100%	100%	-	-						
				実績値	100	100	100	100								

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性		自己評価	
<p>令和4年度は、目標値を下回ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の対策を講じながら、88校がキャリア教育支援事業を活用した事業を実施した。校内で講師を招いて職場体験やマナー講座を行った学校もあったため、全校でのキャリア教育支援事業実施とならなかった。</p>	<p>【課題】 学校の規模や、児童・生徒の実態に合わせた事業の実施。</p>	1	C-	
<p>小学校から中学校までの9年間のキャリア教育の連携を図った夢デザインシートの活用について、研修を年間2回実施した。研修において、指導力中核校の取組や研究成果を紹介した。</p>	<p>【今後の予定・方向性】 令和5年度もキャリア教育の推進のため、本事業を継続していく。</p>	2	B	
<p>令和4年度は目標値を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、約半数の中学校が職場体験を実施することができた。学校の規模や、受け入れ先の都合により、職場体験を実施することができなかった学校については、代替策としてキzzaニア訪問や出前授業等を実施した。</p>	<p>【課題】 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、職場体験の実施日を縮小しなければならない学校があった。</p>	3	E	
<p>令和4年度は目標値を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、約半数の中学校が職場体験を実施することができた。学校の規模や、受け入れ先の都合により、職場体験を実施することができなかった学校については、代替策としてキzzaニア訪問や出前授業等を実施した。</p>	<p>【今後の予定・方向性】 令和5年度は区内全中学校が職場体験を実施する予定である。足立区役所内でも受け入れが可能な所管の確認を行い、中学校に周知していく。</p>	3	E	
<p>租税教育推進に向け、西新井間税会及び足立間税会と連携しながら、租税教室開催通知を小・中学校に案内し、児童・生徒が税について主体的に考える機会を設けている。また、中学校においては税の作文の実施を依頼している。</p>	<p>【課題】 中学校において、租税教室を開催している割合が低い現状である。</p>	4	C-	
	<p>【今後の予定・方向性】 校長会にて周知を行うとともに、キャリア教育研修において、租税教育、消費者教育等につながる実践事例を取り入れた研修を実施していく。</p>			

## 第2章 評価シート

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

### 戦略の達成度を測る成果指標

	No.	所属	指標名	単位	H30	R2	R3	R4	R5	R6	
活動	6	教育指導課	教員を対象にした消費者教育に関する研修会の実施回数	回	実績値	2	0	2	2		
					目標値	-	2	2	2	2	2
					達成率	-	0%	100%	100%	-	-
活動	7	環境政策課	小・中学校環境学習出前講座の実施回数(令和4年度より指標変更)	回	実績値	-	-	48	79		
					目標値	-	-	50	55	100	100
					達成率	-	-	96%	144%	-	-

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

## 所管による自己評価

■指標分析(達成状況・原因・その他実績等)	■課題と今後の予定、方向性	自己評価	
キャリア教育研修の中で主権者教育に関する研修会を実施しており、目標を達成した。	<b>【課題】</b> 小学校段階から、実態に応じ、現代社会の諸課題を積極的に取り上げる教育の推進を図る。 <b>【今後の予定・方向性】</b> 令和5年度も引き続き年2回のキャリア教育研修会と合わせて実施を計画していく。	6	B
小・中学校出前講座は、生物多様性のメニューの他に、環境学習教材に関連した豊富なメニューを準備している。新しい講座を増やし、内容を見直した結果、小・中学校からの申し込みが増え、実績値は目標値を上回った。	<b>【課題】</b> 実施校数は、小学校27校、中学校4校であるが、1校で複数の講座を実施している学校が多い。また、中学校での実施が少ない。 <b>【今後の予定・方向性】</b> 内容の見直しを図り、応募実績の無い学校へのPR方法について検討していく。	7	B+

施策5 子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援  
 戦略3 社会的自立に必要な力の育成・支援

【点検・評価委員による評価】									
全体評価	今後の期待・要望								
<p><b>【目標・成果の達成状況】</b>                      いくつかの取組により戦略として成果は概ね出ているが、さらなる努力が必要である。                      成果目標1及び2について、小・中学校ともに目標値を下回った。また成果指標1及び2の中学生の数値は前年度と比較して肯定的な回答が若干低下している。中学校では学年が上がるにつれて肯定的な回答が減る傾向がみられ、自己の生き方や働き方について考えるキャリア教育の一層の充実が求められる。                      活動指標1では目標値を下回った。課題を踏まえての取組が重要である。活動指標3(戦略1の再掲)の職場体験は目標値を大きく下回ったが、受け入れ先の都合等があり、やむを得ない面もあったと考える。                      活動指標4の中学校での租税教室開催が目標値を大きく下回ったところであり、要因を分析し取組の充実に努めることが大切である。                      活動指標はいくつか目標値を下回ったものがあり、取組の推進が望まれる。</p> <p><b>【各取組みが戦略の方向性に沿ったものか】</b>                      各取組が戦略の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。                      子どもたちが社会の構成員の一員として社会的・職業的に自立するために必要な力の育成に向けて、キャリア教育、主権者教育、消費者教育、環境教育などを推進するための取組を実施している。                      これらは戦略の方向性に沿ったものと評価できる。</p> <p><b>【児童・生徒にとって真に効果的か】</b>                      いくつかの取組により、概ね効果的ではあるが、さらなる改善が必要である。                      各取組は戦略の方向性に沿ったものであるが、活動指標において目標値を達成できなかった指標がいくつかみられる。                      これらの取組を着実に進めていくことが必要である。</p>	<p>成果があがっている取組がある一方、進んでいない取組も見られる。コロナ禍を要因とする者も考えられるが、特に目標値を下回った指標について課題を分析し今後の方針を明確にして取組を進めてほしい。</p>								
	<p>全体評価レーダーチャート</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【観点1】 助言・今後の期待への反映率</th> <th>【観点2】 目標・成果の達成状況</th> <th>【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか</th> <th>【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か		4	5	4
【観点1】 助言・今後の期待への反映率	【観点2】 目標・成果の達成状況	【観点3】 各取組みが戦略の方向性に沿ったものか	【観点4】 児童・生徒にとって真に効果的か						
	4	5	4						